Software Design
［ソフトウェアデザイン］OSとネットワーク、IT環境を支えるエンジニアの総合誌

Special Feature 1

宮原徹のオープンソース放浪記 総集編

IoTイベント開催のノウハウが満載！！

全国各地の観光情報・呑み所情報も満載！！

Software Design

2016年3月号から
2021年2月号までの
全60回分を大収録

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

新連載

宮原徹のオープンソース放浪記

第1回 全国で開催されるOSCとOSunC

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

OSCは全国で開催中

皆さん、こんにちは。宮原徹です。今月号から毎月、私がオープンソースカンファレンス（OSC）で全国を飛び回っている様子を中心に、オープンソースに関連したトピックやIT業界の動向、エンジニア論などをお話していきたいと思います。

OSCとは、日本全国で開催されている「オープンソースの文化祭」という感じのイベントです。SD読者の中にも、参加したことがあるという方は実は多いのではないかと思っています。

2004年9月に第1回を東京で開催したあと、北は北海道から、南は沖縄まで、11年で120回以上開催されてきています。だいたい1ヵ月に1回開催されていることになりますが、ここ最近は、多いと月2回開催されています。これまで開催した地域を日本地図で見てみると、**図1**のようになります。

OSCの変形版、OSunCも開催

また、OSCの変形版である「オープンソースアンカファレンス（OSunC）」も以下の地域で開催されています。

・川越（埼玉県）
・鹿児島

OSunCは、事前に発表者を決めず、当日参加者から発表者を募る形式です。懇親会を兼ねて食べ物、飲み物を楽しみつつ発表を聞く、というスタイルで開催されるので、和やかな雰囲気で開催されているのも特徴でしょう。開催日時とプロジェクターの使える場所を決めるだけでよいので、今後はOSCが開催されていない地域でもOSunCを開催していきたいと考えています。

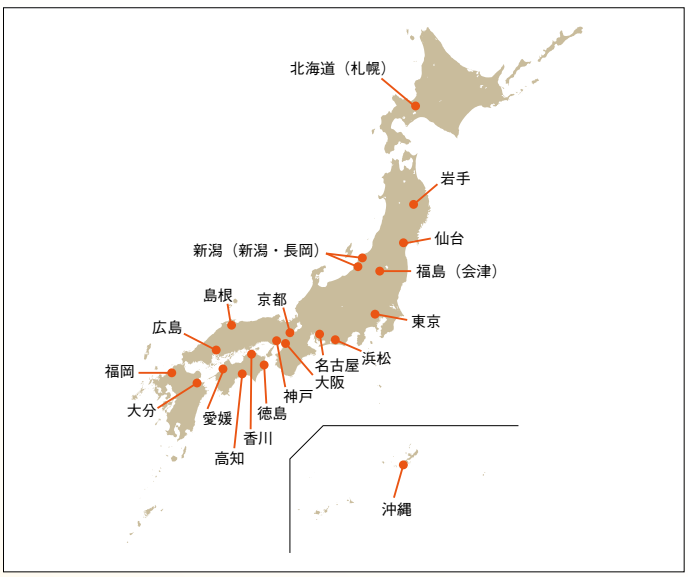
なぜOSCを開催するのか

OSCは学校行事の「文化祭」をイメージしてスタートしました。第1回の開催は日本電子専門学校の校舎をお借りしていましたし、それ以後もできるだけ大学、専門学校をお借りして開催するようにしています。

OSCではセミナーとブース展示の2つが柱になっていますが、とくに力を入れているのがブース展示です。OSSコミュニティ、協賛企業のみなさんが思い思いにブース（150〜180センチ幅の机）でデモやパネルなどを展示します。小規模な開催でも20、東京や京都などの大規模開催では100以上のブースが並びます。その様子を「コミケっぽい」と評する人もいます。ブース展示は、文化祭でいえばクラスや部活、サークルなどの発表に相当すると考えてもらうとよいでしょう。

ブース展示では、来場者と出展者

▼図1 OSCの開催地



本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

の間で直接顔を見ながらの双方向コミュニケーションが発生しますから、双方にとって満足が得やすいというメリットがあります。また、効果的な展示を行うために出展者はパネルや看板、テーブルクロスを作ったり、ノベルティグッズを作って配ったりとさまざまな工夫をする必要が出てくるので、出展を重ねるごとにブースの展示内容が進化していくのもおもしろいところです。

このように、OSCはセミナーなどによる来場者に対しての情報発信だけでなく、どのようにしたら自分たちのOSSのよさが伝わるかを考えて、そして実践する、出展者にとっての「学びの場」でもあるというのが私の考えです。もともと、私が日本オラクルという会社で製品マーケティングにかかわってきた経験やノウハウをOSSコミュニティ全体に還元できないか？というのがOSC開催を始めたきっかけでもあります。10年以上経って、学びの場としてのOSCは徐々に機能しつつあるように感じています。

OSCはみんなで作るもの

OSCは、通常の商業イベントと異なり、私の会社であるびぎねっとが事務局となって準備などの作業を行っていますが、事前の企画や当日の運営などには各開催地域の人々、とくに学生スタッフのみなさんの協力に負うところが多いのも特徴です。

スタッフの役割には、受付などの人と接する作業もあれば、セミナーやブース展示などが円滑に進むよう準備や運営を行う作業などさまざまなものがあります。また、手が空いている時間にはセミナーやブース展示を見て廻ることもできますし、いろいろな経験ができるという意味でスタッフ参加は実はお得だったりします。各開催では常にスタッフを募集していますので、興味のある方はぜひ応募してください。

懇親会、そして家に帰るまでがOSCです

OSCは全国各地で開催されていることもあり、ちょっとした旅気分で各地のOSCに出展する人たちがたくさんいます。そのときの楽しみとして、地元の人たちとの交流、美味しいものを食べたり飲んだり、そしてちょっと観光をして帰る、なんていうこともあります。とくに前夜祭や終了後の懇親会への参加は知り合いを増やすチャンスでもありますので、OSCに参加するときは可能な限り懇親会まで参加してほしいと思っています。

OSCはとくに学生のみなさんを優遇するようにしているので、学生は懇親会参加費が安くなっています。社会人の参加者にアレコレと聞いてみてください(ときには就職活動に有利だったりもするようです)。

全国各地のOSCの楽しさをお伝えしていきます

次回からは、全国各地で開催されるOSCの様子をみなさんにお届けして、その楽しさを少しでもお伝えできればと思っています。ですが、OSCの本当の楽しさは参加してもらって初めて伝わるかと思っています。2016年は夏ごろまでの開催日程が決まっていますので、近くで開催の際にはぜひご参加ください。またWebサイト(http://ospn.jp)でも随時情報を発信していますので、確認してみてください。SD

2016年の開催スケジュール(確定分)
- 1月23日 浜名湖(浜松)
- 1月29日 大阪
- 2月26・27日 東京
- 4月24日　OSunC川越
- 5月28日 名古屋
- 6月17・18日 北海道
- 7月2日 沖縄

Report

全国各地の特色を活かした懇親会

「OSCは懇親会からが本番」というぐらい懇親会には力を入れています。過去の懇親会で印象深いものを紹介します。

北海道といえばジンギスカン。有名なサッポロビール園で圧巻の150名以上の参加者を集めて開催されました。ひたすらジンギスカンを食べ、ビールを飲む、北海道らしい懇親会です。沖縄では会場の目の前にあるビーチでビーチパーティーです。海に沈む夕陽を見ながらのBBQで沖縄の夏を満喫しました(写真)。

今後も、全国各地の特色のある懇親会を紹介していきます。

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第2回 一般向け／ビジネス向けのOSC

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

OSCは土曜日開催が基本です

オープンソースカンファレンス（以下OSC）は全国各地で開催していますが、通常の開催ではオープンソースのビジネスを行っている企業と、ボランタリーに活動しているいわゆるコミュニティが一緒になって展示やセミナーを行っています。

東京や京都といった規模の大きな開催では金曜土曜と2日間の開催ですが、ほとんどは1日開催です。これは、参加対象となるエンジニアのみなさんが平日に仕事を抜け出して、あるいは有休を取得して参加するのが難しいという事情を鑑みてのことです。

そのため、出展している企業のみなさんには休日出勤をしていただいていることになり、人員のアサインなどにご苦労をおかけしていることになり申しわけないです。

また、「子供の行事と重なって……」という理由で参加いただけないこともあり、なかなか開催日程を決めるのも難しいなあといつも感じています。今のところは最大公約数としての土曜日開催（あるいは祝日開催）というのが定着しています。

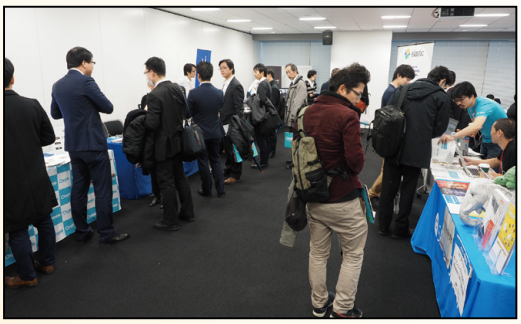
ビジネスのためのOSC.Enterprise

一方で、「ちゃんとビジネスとして平日参加できるよ、むしろ土曜日に参加するのは難しいよ」という声も一定数あります。このようなご要望にお応えするため、ビジネス中心、企業中心での開催となる「OSC.Enterprise」を別シリーズとして東京と大阪で開催しています。東京は2015年12月9日（水）、大阪は2016年1月29日（金）に開催されました。

ビジネス向け開催というだけあって出展するのはほとんどが企業ですが、LibreOfficeやCMSなど、多少ビジネス色があるコミュニティも出展しています。それでも、全体的な雰囲気は文化祭のような普段のOSCに比べると、スーツ着用率も上がりますし、いわゆるビジネスイベントに近いものになります（**写真1、2**）。これはこれで、オープンソースが着実にビジネスで利用されるようになっているということを見える化するためには大事なことだと思っています。

平日に開催するだけでなく、会場選びも少しビジネス寄りにしています。東京は渋谷駅から徒歩数分の貸しホール会議室、大阪もJR大阪駅と空中歩道でつながったビル内の貸し会議室と、便のよい場所を選んでいます。普段の開催が大学や専門学校、公共施設などを利用しているのに比べると、来場

▼写真1 OSC.Enterprise大阪。ビジネス向けなのでスーツ多めです



▼写真2 懇親会はなかったので打ち上げに串揚げです。ソース二度付け禁止

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

しやすさは格段に上がります。

普段の開催も交通の便のよいところにしたいのはやまやまですが、OSCは広い展示スペースとたくさんのセミナー会場が必要になるため、そのような場所は学校の校舎などでないと見つけられないのと、もし条件に合う会場があったとしても利用料が高過ぎるという悩ましい問題があります。

来場者アンケートに「会場が遠い」と書かれることも多いのですが、そういう事情があるのです。とくに都心部での開催は一度早稲田大学の校舎をお借りして開催したのですが、やはりスペースが不足して廊下を歩くことすらできないという状態でした。どこかよい会場があれば、教えてもらえるとうれしいです。

OSC浜名湖は会場の一体感が魅力

一方で、コミュニティ中心の開催となる小規模な開催も独自の魅力があります。2016年1月23日(土)に開催されたOSC浜名湖は、浜松市市民協働センターという公共施設のギャラリースペースを借りて開催されました。ギャラリーというだけあって、仕切りのない広いスペースです。そこにスクリーンとプロジェクター、客席をセミナースペースとして配置し、それをL字に囲むように展示スペースとして机を配置します。間に遮るものがありませんので、展示スペースにいる人もセミナーの様子を見聞きできます。通常の開催ではセミナー会場は別ですから、セミナー開催中は展示スペースがガラーンとしてしまうことがほとんどですが、このような一体化した会場だと常に賑やかな感じになります(**写真3**)。

▲写真3　2015年ゆるキャラグランプリで優勝した「出世大名家康くん」も来場

もちろん、セミナー中に展示スペースでの話し声や、ときには笑い声なども聞こえてきてしまうのは難点ですが、セミナーも1つだけ、参加者も100名程度の開催規模であれば深刻な問題にはならないで済んでいるようです。

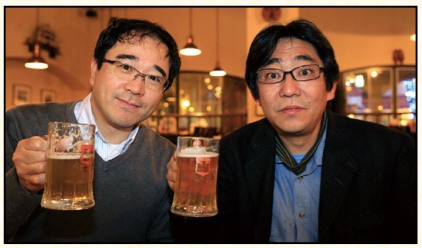
同じようなスタイルで昨年は新潟でも開催しましたし、今後未開催地域での開催はこの展示セミナー一体型のスタイルか、OSunCとしてもっとカジュアルに開催するかのいずれかの方法で全国展開していけそうです。SD

Report

前夜祭から懇親会まで大盛り上がりの浜松

「浜松といえばマインシュロス」というぐらい、地ビールが美味しい店があります。今回はOSC当日が貸し切り営業だったため、有志で前夜祭を開催しました。ドイツスタイルのビールや店内で大盛り上がりでしたが、本番は翌日なのでほどほどでお開き。

OSC浜名湖開催後の懇親会は、30名席に38名を詰め込み身動きが取れないぐらい盛況でしたが、全国の地酒が飲み放題という素敵な店でした。静岡の地酒を飲み比べたり、東北地方の地酒を飲み比べたり。その後、2次会、3次会と、浜松の夜は更けていくのでした。



▲OSC浜名湖前夜祭。マインシュロスのビールで乾杯！　浜松の杉本さんと

▲OSC浜名湖懇親会。参加者が多過ぎてギューギュー詰めです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第3回 OSC東京春と金沢での勉強会

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

最大規模のOSC東京春開催

2016年2月26日(金)・27日(土)の2日間、明星大学で開催されたOSC東京春は、2日間で1,550名(650名+900名)もの参加者が集まりました(**写真1**)。

開催期間中は人の出入りが見渡せる受付にいますが、久しぶりに会う人、わざわざ遠方から出張と合わせて足を運んでくれる人(OSC東京に合わせて東京出張の人が多い!)と会話するのも楽しみの1つです。さらに、いろいろなお土産やお酒の差し入れも多く、どんどん酒瓶が増えていきます。

懇親会も大規模です

OSC東京の半分は懇親会でできていると思えるぐらい、200名近くが参加する一大イベントです。今回は事務局を受け持っているびぎねっと(筆者の会社)15周年記念の感謝パーティーを兼ねるということもあり、飲み物は発泡酒からビールに格上げして思う存分飲んでもらいました。さらに有志からお祝いにベルギービールを6リットル瓶(!)で寄贈してもらいました(**写真2**)。中身だけでも6キロ以上、瓶の重さも半端なく、片手では持ち上げられないほど。両手で抱えて会場内を歩き回り、みなさんに振る舞わせていただきました。

「Bar root」を出張開店

懇親会でのもう一つの楽しみは、臨時のバーを開店することです。「Bar root」という店名は、私の名前である「とーる(徹)」をひっくり返したのと、システム管理者rootを引っかけてのネーミング。普段はオフィスなどで親しい人を招いて開店していますが、OSCでは大々的にお酒を振る舞います。持ち込んだお酒の由来や味などを説明しながら飲んでもらうと、本当にバーでお客さんを相手にしているような気分になれますね(**写真3**)。

OSCはみんなでやるもの

これだけ規模の大きいイベントとなると、事務局スタッフだけでは人手が足りないので、前日準備や当日運営はたくさんのボランティアスタッフに支えられています(**写真4**)。ただし、OSCではボランティアスタッフも自由にセミナーを聴講したり、展示を見に行けるようにしています。OSCをシステムと考えると、疎結合な自律分散型のアーキテクチャで設計しています。たとえば、展示スペースの配置決定や、セミナーのスケジューリングなどは事務局が行いますが、そのあとは割り当てを受けた各出展者がそれぞれ自律的にセミナーや展示を行います。例外的な処理が発生したときのみ事務局が対応する、というしかけです。そのため、例外が発生していないか常時ウォッチしておくことが重要ですので、通常の参加者と同様にセミナーや展示を見て回ることがスタッフの重要な仕事になります。

▼写真1 閉会式後、有志に残ってもらい記念撮影。たくさん参加してくれました

▼写真2 6リットル瓶。共同設立者の濱野氏と

▼写真3 Bar rootに並べられた酒瓶。今回は焼酎、泡盛多めです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真4　片付け終了後、スタッフ皆で記念撮影。お疲れ様でした!

大規模なイベントでも、システム設計しだいで人手をかけなくても廻るというよい例になっていると思います。興味がある方は、ぜひOSCにスタッフとして参加してみてください。とくに学生のみなさんには、交通費の支給やスタッフTシャツのプレゼントなど特典がたくさんありますので、たいへんお得ですよ。

北陸新幹線で金沢へ

OSC未開催の地域の1つが北陸です。北陸新幹線が開通して1周年の3月14日に、石川県金沢市で地元のクラウド関係のユーザグループが合同の勉強会を開催すると知り、勉強会に参加してきました(**写真5**)。当日は50名近くの参加者が集まり、かなりの熱気です。AWSやAzure、SoftLayer、Bluemix、Dockerなど、それぞれのサービスのエヴァンジェリストが最新情報を提供する、なかなか充実した勉強会でした。ライトニングトークの時間もあったので、私もOSCの紹介をさせていただき、OSC金沢を開催したいと思う人は声をかけて、とお話したあとに、懇親会へ。まずは会場で1時間ほどお茶とお菓子で懇談したあとで、市内の居酒屋へ移動して懇親会へ(**写真6**)。

北陸は海産物が美味しいのと、日本酒も美味しいですね。すでに土日でいくつかの日本酒銘柄は飲み比べていましたが、まだ飲んでいない銘柄を一通り味わって、そのお店にある銘柄はすべて制覇したのでした。北陸の日本酒はすっきりしていて飲みやすく、翌日にも残らない、なかなか素敵な味わいでした。OSC金沢を開催したいというご意見もたくさんいただけたので、開催の際にはまた美味しい日本酒が味わえそうです。

懇親会のあとは、さらに東京から来ていた講師陣と居酒屋で2次会、さらに謎のレトロゲームバー「Hello,World!」でファミコンカセットのコレクションを眺めながら、金沢の夜は更けていくのでした。SD

▼写真5　セミナーの様子

▼写真6　懇親会で記念撮影

Report

Bar root出張開店
生ハム原木で大盛り上がり

OSC東京でのBar root出張開店の目玉が生ハム原木。昨年秋の開催時に初めて出してみて、1回の懇親会で全部食べきれたので、今回も用意してみました。これが大好評で、生ハムを食べたいと大行列ができました。生ハムを1切れ切るのにもけっこう時間がかかるのでしかたがないんですよね。最後尾の人が生ハムにありつけるまで5分待ち。スライサーを使って切ればあっという間なのですが、手で切るからこその「味」もある気がしています。参加人数が少ないと食べきれず、そのあとの保管がたいへんですが、50人以上集まるようなら食べきれると思いますので、みなさんもお試しあれ。生ハム原木1本(5キロ前後)に固定する台、ナイフのセットで1万5千円ぐらい。ナイフは別途切れ味の良いものを用意しておくとよいでしょう。

▲生ハムを求めて列を作る人々。待つから並ばないで~、と言っても並びます

▲生ハムを必死になって切る筆者。段々と生ハムカットスキルが上がっていきます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第4回 OSCは、なぜ全国をさすらうのか

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

全国でOSCを開催するまでの経緯

3月下旬からGW明けの5月中旬ぐらいまでの間はOSCはほとんど開催されないので、今月はOSCで全国を渡り歩いている話をしておこうと思います。

そもそも、全国各地を放浪するようになったのは、15年前（2001年）に会社を設立したときに「全国縦断オープンソースセミナー」と題して、北海道から福岡（沖縄ではない）まで全国4ヵ所で開催したことに遡（さかのぼ）ります。「びぎねっと 社史」で検索すると、10周年の際に作成した記録が確認できます。

- 2001年3月23日 大阪開催
- 2001年3月30日 福岡開催
- 2001年4月13日 札幌開催
- 2001年4月23日 東京開催

（以上サーバ構築）

- 2002年1月18日 大阪開催
- 2002年1月21日 福岡開催
- 2002年1月25日 東京開催

（以上Samba構築）

- 2002年12月 福岡開催
- 2003年1月17日 東京開催
- 2003年1月24日 札幌開催

（以上Postfix）

各開催の結果からみると、頑張って開催した割には集客に苦戦しました。場合によっては数名しか参加しないこともありました。しかし、このときにセミナーや終了後の懇親会に参加してくれた各地域の人たちが、2004年以降に全国でOSCを開催するときに大きな力となってくれたので、全国行脚をした成果はあったと言えるでしょう。

なぜ全国をさすらうのか

2年間、各地に赴いて現地のエンジニアのみなさんと交流してわかったことは、「東京一極集中」の現状です。筆者は神奈川県出身なので、あまり深く考えずに東京で就職して仕事をしてきていましたが、セミナーなどの情報提供も東京とせいぜい大阪ぐらいです。一方、東京だけで見ても、OSSコミュニティとしての情報発信力は企業のそれに比べると残念ながら弱いというのが当時の状況でした。

このような両面の課題を解決するために、「OSCを全国で開催しよう！」と思い立ちました。そして開催2年目となる2005年には、東京だけでなく北海道と沖縄で開催することにしました。「OSCは、北は北海道から、南は沖縄まで開催しています。」と言っていましたが、嘘はついてません。

北海道は、地元コミュニティの方々と飲みながら「OSCを北海道で開催しよう！」という話になったことがきっかけです（「石鍋会談」。札幌・すすきのにある石鍋亭は6月のOSC北海道開催時に紹介予定）。

そして沖縄で開催したのは、北海道も同様ですが、講師となる人が「[沖縄|北海道]だったら行ってみたい！」と思わせるのが狙いです。北海道や沖縄から大挙して東京のセミナーに参加するより、東京から講師が北海道や沖縄に赴いてもらうほうがトータルのコストが安く済む、というわけです。

そういえば、初の北海道開催のときは、Rubyの開発者であるまつもとゆきひろ氏に島根から来てもらい、講演していただいたのでした（**写真1**）。前夜祭の際に、北海道大学の学生がRubyの仕様についてアレコレ提案しているのに真摯に耳を傾けていたのが印象的でした。

▼写真1 OSC2005北海道の前夜祭の後、まつもとゆきひろ氏を囲んで

地域コミュニティのボトムアップな盛り上がりを支援

OSCを全国各地で開催する一番の理由はその地域のコミュニティの活性化ですが、その次に来るのは地域

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

間の交流です。最初は東京と北海道、沖縄の2点間で始まりましたが、その後、徐々に開催地を増やしています。2004年から2009年までの間だけみても、次のように開催地を少しずつ増やしていきました。

・2004年1月　東京のみ
・2005年4月　北海道、沖縄を追加
・2006年6月　新潟を追加
・2007年8月　京都、福岡を追加
・2008年11月　大分、長岡、名古屋、島根を追加
・2009年12月　仙台、高知を追加

京都や福岡より先に新潟(**写真2**)で開催されたり、名古屋はさらにその後だったりしました。ビジネスであれば大都市圏から攻めていくのが定石ですが、OSCは現地からの立候補があってはじめて開催することにしているので、このような不思議な順番になっています。

地域コミュニティの活動はボトムアップであるべきで、トップダウン、東京から一方的に出向いていくのでは地域の自主的なコミュニティ活動にはなりません。OSCはあくまで地域コミュニティの人たちが自主的に開催するもので、事務局はあくまでそのお手伝いをさせてもらっている、というのが基本的なスタンスとなっています。

▼写真2　2006年OSC新潟。川越を中心に活動する小江戸らぐの皆さんも出展

OSCは開催地域間でのメッシュ型トポロジー

OSCでは東京以外の地域での開催に、そのほかの地域のコミュニティの人たちが出向くことは珍しくありません(**写真3**)。東京対そのほかの地域という一極集中型のトポロジーではなく、すべての開催地域間でのメッシュ型のトポロジーが自然とできあがっていったところが、OSCの魅力の1つかもしれません。

▼写真3　「石鍋会談」にも参加していたサンビットシステム佐々木さん。北海道からOSC2015 京都にバイクで参戦

前回、北陸・金沢に出かけて行ったのも、福岡での開催に金沢の大学の先生が講師として参加しており、懇親会の際に金沢でもOSCを開催したいというお話をいただいたので、まずは現地を視察に行ったという背景があります。現在、プレイベントとして「8月末にアンカンファレンス形式の集まりを開こう」という動きになっているので、開催の暁にはぜひ、ご報告したいと思います。SD

Report 飲み会開催のコツ教えます！

OSCといえば懇親会ですが、勉強会や職場で飲み会の幹事をするときのために、コツをいくつか伝授します。キッチリやろうとエンジニア精神を出すのではなく、「ゆるふわ」で適当にやるのが幹事のコツです。

・ドタキャン率を見込む

IT業界はドタキャンが多いので、ドタキャン率を見込んでおきましょう。OSCだと大体1割程度を見込んでおり、減った分を当日飛び入りで埋めるようにしています。

・参加費は多めに取る

お店に3,500円払うなら、キリよく4,000円徴収しましょう。OSCでは差額残金を学生の割引の原資などに活用しています。

・人数調整に融通が利く店を選ぶ

ドタキャン、飛び入りで増減した人数を午後3時ぐらいまでに伝えれば調整してくれるお店が望ましいでしょう。また、人数が増えた場合、飲み放題のみ差額追加でOKの店も使いやすいでしょう。

▲OSC沖縄の懇親会。幹事初心者はこれぐらいの人数から始めるといいでしょう

▲OSC2015新潟の懇親会。参加費を少し多めに徴収して、美味しいお酒の用意も素敵です

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第5回 OSC群馬のドキュメンタリー

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

ドキュメンタリー？ OSC群馬の3日間

これまで4回に渡って、「OSCとはなんぞや？」ということを説明してきましたが、具体的なOSCへの参加についてあまり触れていなかったように思います。ちょうど本稿締め切り直前の5月14日(土)にOSC群馬が高崎で開催されたので、筆者の行動を紹介して、OSCへ参加するとはどういうことなのか、雰囲気を味わっていただければと思います。

5月13日(金) OSC群馬開催前日

会場設営などのために開催前日に現地入りします。今回はオフィスのある渋谷から湘南新宿ラインに2時間乗って高崎に入りました。高崎駅で現地スタッフと合流して会場入り。今回は高崎駅から徒歩30秒のLABI1高崎にあるイベントホールが会場のため、過去のOSCの中でもダントツに移動が楽でした。

前日準備は次のことを行います。

・各種荷物の受け取り

事務局の荷物だけでなく、各出展者の展示物や配布物などを受け取ります。

・机、椅子などの設営

今回はセミナースペースに60脚ほど椅子を並べ、展示スペースに30台ほど机を並べました。事前に作成した図面に従って並べていきますが、現地合わせの余地も多い作業です。

・電源の配線

展示用机の塊ごとに基幹の電源を配線していきます。今回は天井からぶら下げる配線でしたが、脚立に上っての作業ですので事故のないよう慎重に作業します。

OSCでは電源タップは各出展者が持ち寄るルールです。口数などが不足した場合に、事務局から電源タップを出します。各出展者が分担することで開催コストを下げる工夫をしている部分です。

・来場者配布物の作成

来場者に渡す配布物を紙袋に詰めます。今回は100セットで済みましたが、東京の開催では1,200セット作成するたいへんな作業です。流れ作業を組んで、みんなでおしゃべりしながら楽しく実行できるように工夫しています。

そのほか、プロジェクタ出力やマイク出力のテスト、プログラムの掲出などを行って、予定どおり18時に前日準備は完了しました。

前夜祭は0次会から締めのつけ麺まで

前日準備が終わったら、運営スタッフを中心に当日運営が円滑に進むよう、スタッフの結束を高める前夜祭を行います(**写真1**)。

前夜祭が20時開始だったため、ホテルにチェックインをしたあと、純米酒専門バー「JapaneseBarKATSU」さんで0次会。いわゆる「プリインストール」という奴です(笑)。

美味しい群馬の地酒、「巖」と「流輝」を楽しんだ後、前夜祭会場に向かい「明日のOSC群馬を成功させるぞ〜！」と盛り上がったあと、「なかじゅう亭 WA-FU」で鶏清湯つけ麺で締めました。

開催当日は大忙し？ でもないか

開催当日は、朝9時の会場入りからスタートです。運営スタッフの全体ミーティング、受付の準備などで10時の開場を待ちます(**写真2**)。

開場と同時に、出展者および来場者が続々と会場にやってきます。出展者はブースの準備に入りますが、やれ電源タップがない、貼り紙用の

▼写真1 前夜祭、地元組と県外組で乾杯。前の日から飲み過ぎないように!

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真2　OSC群馬当日運営スタッフ記念撮影。よい笑顔です

▼写真3　懇親会後、有志で2次会。群馬の地酒を飲みながら反省会

テープがほしいといったことへのサポートを行い、発表予定者のプロジェクタ接続テストなども行っていきます。

進行は、ほとんどが現地スタッフにお任せですので、13時ぐらいにはお昼休憩に出かけます。現地の方の教えに従い、「登利平」というお店の鳥めし竹重をいただきます。群馬のお弁当の定番中の定番だそうです。群馬のお弁当というと「だるま弁当」や「峠の釜飯」を思い浮かべますが、地元ならではの名物を知れるのも、OSCの楽しみの1つですね。

OSCはそのあとも順調に進行し、最後のライトニングトークが終わって無事に終了。今回は北関東で初めての開催ということもあり、185名の参加者がありました。これをきっかけに、群馬エリアでのコミュニティ活動が活発になるといいなあと思いつつ、会場の片付け、荷物を送り出して撤収完了となりました。

OSCは懇親会までが1セットです

大事なことなので何度も言いますが、OSCは懇親会までが1セットです。今回は66名が参加する大懇親会になりました。OSCの会場からエスカレーターで1フロア上がるだけ、という絶好のロケーションで、立食ビュッフェ形式・食べ放題飲み放題での懇親会です。

東京電機大学から学生スタッフがたくさん参加してくれていたこともあり、学生と社会人の交流が活発に行われたようです。途中からライトニングトークが始まったりしているうちに、あっという間に懇親会の2時間が過ぎていきました。

そのあと、有志での2次会に移動です。前夜祭で行った「Japanese BarKATSU」さんがとてもよかったので2日連続でお邪魔して、まだ飲んでいない地酒を堪能します(**写真3**)。締めは「環七ラーメン 周麺」さんで環七つけ麺をいただいて解散しました。

開催翌日は地元観光をして帰りましょう

翌日は10時にホテルをチェックアウトして、少しだけ観光をして帰ります。まず最初に向かったのは、高崎から小一時間の山中にある日本酒酒蔵「牧野酒造」さん(**写真4**)。日本酒をいくつか試飲して、4合瓶で7本ほど購入。冷蔵が必要な生酒はまとめて冷蔵便で送ってもらうことにしました。

次に倉渕温泉で温泉に浸かります。露天風呂で、野生の藤が満開なのを眺めながらの温泉は最高の贅沢です(入湯料600円)。

昼食は古民家で40年以上営業している「魚籠屋(びくや)」さんで岩魚(いわな)料理を堪能。とくに囲炉裏(いろり)で炙った岩魚を熱燗に丸ごと入れた「骨酒」は最高の味わいでした。

♣

いかがでしたでしょうか？　前夜祭から懇親会、終了後のプチ観光と、OSCとセットで楽しめるイベントが満載です。おもしろそうだな、と思った方は一緒に楽しみましょう。

SD

▼写真4　牧野酒造さんで「大盃」などを試飲。たくさん買ってしまいました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第6回 OSC名古屋とイベント運営のキモ

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

宮原、酒やめるってよ

突然ですが、断酒を始めました。月1〜2回開催されるオープンソースカンファレンス(OSC)に行くと、前日、当日、翌日と飲み食いして、気がつくと体重が！ そんな矢先、偶然Facebookで4年前の自分の写真が出てきて、「病気か？」というぐらい痩せているのを見て、一念発起し、体重が75kgになるまで酒断ちをすることにしました。

本稿執筆時点で断酒後2週間が経過し、83.6kgあった体重が81.6kgと2kg減しています。自分は基礎代謝が高いので、カロリーなどの摂取量を減らせば体重は自然と減っていきます。計算ではだいたい3ヵ月程度で75kgになる計算です。ただ、計算どおりにはいかないと思われるので、バッファとしてプラス1ヵ月程度で4ヵ月と見込んでおり、達成できるのは10月ぐらいになりそうです。10月1日(土)に酒所である新潟・長岡でのOSC開催があるので、このタイミングで美味しい日本酒が飲めるよう頑張ります(**写真1**)。

会場変更はいつもたいへん

さて、5月28日(土)にOSC名古屋が開催されました。OSC名古屋は昨年まで名古屋駅に近い名古屋国際センターにて開催してきましたが、会場が手狭になったため今回から吹上ホールという新しい会場での開催です(**写真2**)。

名古屋地域では、多くの地域コミュニティが日々活動しています。そのため、OSCではデモ展示のスペースがたくさん必要となります。今回は従来の1.5倍の展示スペースを用意できたので、ゆったりとした間取りにできて、出展者、来場者からも好評でした。本当は、各開催でゆったりした展示スペースを用意したいのですが、広い会場がなかったり、使用料が高額だったりするため、いつも展示ブースをぎゅうぎゅうに詰め込んでいる感じになっています。一方で、1つのブース(幅150cm程度)を2つのコミュニティで半分ずつ分け合ってもらうことは「袖すり合うも多生の縁」ではありませんが、出展者同士のつながりを強めるようで、「それはそれでいいのかな」とも思っています。

普通のイベントですと、セミナー中心でデモ展示がなかったり、あってもセミナーの添え物程度ということが多いですが、デモ展示あってのOSC。今後も頑張って展示スペースを確保していこうと思います。

セミナーを最大活用するには

OSCの企画はデモ展示を重要視していますが、もちろん最新情報が聴けるセミナーも重要です。では、セミナーを最大限活用するにはどうすればよいでしょうか？

セミナーで最も恩恵を受けるのは、実は発表者です。新ネタであれば、試行錯誤した内容をアウトプットとして発表資料にまとめられますし、持ちネタであればプレゼンをブラッシュアップできます。OSCでの発表はβテストと考えると、来たるべき本番のために少し冒険するよい機会でもあります。

東京などの大規模なOSCでは、

▼写真1 こちらは断酒前の、OSC名古屋打ち上げの様子。懇親会終了後、地元の地ビール屋さんに集合してお疲れ様会

▼写真2 スポンサーLTの様子。企業の人がコスプレのままプレゼンしても、誰も何も思わないようです(ちなみに艦これの何かだそうです)

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

スポンサー企業限定のLT大会を開催しています。45分間のセミナーほどのネタではない、あるいは出展のみでセミナー枠がないスポンサー企業のみなさんに活用していただいています。

一方、聴講者の立場でセミナーを活用するポイントは「共感度」にかかっています。もし現在進行形で取り組んでいる技術に関する内容なら、「あるある！」や「お！そんなことが？」といった共感を感じながら聴講できます。逆に、なんとなく興味がある程度だと、共感が得られず、実際に試してみようと思えず、結局そのまま……ということが往々にしてあります。共感度は人それぞれですから、共感度が高くないセミナーを無理に聴講せず、デモ展示をじっくりとみて回ることをお勧めします。きっと、何か新しい発見があるはずです。

立食形式は炭水化物重視で

OSC名古屋の懇親会は、会場の1Fにあるレストランで立食形式で開催されました（**写真3**）。

立食形式の懇親会では、毎回たいへんなのが食べ物の量です。時間帯も6時半から7時、しかもセミナーを聴いて脳が糖質を大量消費したあとですので、摂食中枢が刺激されまくりです。自然とお皿に取り過ぎてしまって食べ物が瞬殺、というのはIT系の懇親会でよく見る光景です。

そこでOSCの懇親会で工夫しているのが、炭水化物を多めに用意することです。種類としてはおにぎりや太巻き、パスタ、焼きそば、そしてみんな大好きカレーなどを用意して、かつ先にそれらを食べてもらうようにしています。

普通にケータリングを頼むと、上品にサラダやオードブルなど見栄えのよいメニューが提案されてきますが、種類少なめ、炭水化物多め、さらにたとえば唐揚げのように1個1個独立しているものにしてもらうと、テーブルごとに取ってきたものをシェアしやすくなり、全体の満足度が向上します。できるだけ食べ残しが少なくなるようにするのがポイントです。また、事前にクッキーなど（**写真4**）のおやつを配布して食べておいてもらうだけでもずいぶんと空腹感が変わってきます。懇親会を企画する人はぜひ参考にしてください。SD

▼写真3
懇親会も後半。食べるものはなくなっちゃったけど、カレーのおかげで満足感は高かったらしく、たくさんの人が話に花を咲かせていました

▼写真4
OSCといえばカントリーマアム。大阪の高校生がわざわざ神戸プリン味を差し入れしてくれました。スタッフで美味しくいただきました

Report

B級グルメを楽しむ ～名古屋編～

地元の名物を楽しむのも全国各地を廻る楽しみですが、B級グルメも含まれます。名古屋のB級グルメで食べたことがなかった「台湾ラーメン」を食べに行きました。

・台湾ラーメンの味仙

OSC会場から歩いて15分、台湾ラーメンの元祖「味仙」今池本店に。まずは普通に中華料理を楽しみ、シメに台湾ラーメンをいただきます。味は普通のものと、なぜか「アメリカン」という味を薄くしたものの2種類。けっこう辛いと事前に脅されていたのですが、筆者は辛いのは比較的大丈夫な方なので、アメリカンでは物足りないぐらいでした。でも、さすがに唐辛子たっぷりなので、あとからあとから汗が出てきます。

▲味仙 今池本店まで歩いて来ました。外観はちょっと大きめの中華料理屋さんという感じで、台湾ラーメンの元祖という感じはしません

▲こちら台湾ラーメン。たしかにスープの色が見ただけで汗が出てきそうな赤い色をしていますね

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

第7回 北奔南走!? OSC北海道と沖縄

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

北海道と沖縄は12回目のOSC開催

断酒して1ヵ月半が経ちました。83.6キロから80.4キロと3.2キロ減。おおむね予定に近いペースで減量できています。ただ、この6月から7月に、北海道、そして沖縄と、文字どおり北へ南へ飛び回り、かつ美味しい物をたくさん食べてしまったりしたので、想定以上の減量とはいきませんでした。

北海道と沖縄は、OSC初開催の翌年2005年から毎年開催されており、今回で12回目の開催です。東京一極集中を少しでも解消しようと、少し極端ですが日本の北と南の端でスタートしたOSCが、これまで順調に開催されているのは感慨深いものがあります。北海道は土曜日開催+金曜日に少しだけセミナーを開催する「1.5日開催」ですが、参加者は合計で700名を超える、東京・京都に続く規模の開催地域です。北海道のみなさんがOSCを大事にしていること、さらに道外から「北海道なら行ってみたい」と思えるところが魅力です。そのようにして、どんどんとほかの地域へと出かけて行って、交流を深めてもらえればと思っています。

北海道といえば生ラムジンギスカン

北海道の魅力はやはり「食」でしょう。OSC開催前日にスタッフが集まる「石鍋亭」というお店があります(**写真1**)。新鮮な生ラムジンギスカンと、野菜タップリのモツ鍋が美味しい店で、なぜかOSC北海道のスポンサーでもあります。2005年のOSC北海道開催も、この石鍋亭で飲んでいたことがきっかけとなった、OSCとは縁の深い店でもあります。すすきの交差点に近い好立地ですので、札幌への出張、観光の際にはぜひお立ち寄りください。

OSC北海道終了後の懇親会はサッポロビール園でのジンギスカンパーティー(170名以上参加!)ですが、前夜祭の石鍋亭、さらにその前日も石鍋亭でジンギスカンを食べていて、今回のOSC北海道はジンギスカン三昧でした(**写真2**)。もう少しラーメンやスープカレーを採り入れてもよかったかもしれませんね。その反省を活かして、OSC翌日の朝は二条市場に海鮮丼を食べに行きました(詳細はコラムにて)。

旭川、富良野から高校生を招待

今回のOSC北海道では、旭川工業高校から19名、富良野緑峰高校から7名の高校生が招待参加してくれました(**写真3**)。札幌から旭川までバスで2時間、富良野はさらにその南ですから、本当にはるばる参加してくれました。

参加したみなさんは、朝から夕方までセミナー、展示に参加し、刺激を受けて帰ってくれたようでした。富良野緑峰高校からは4名が懇親会まで参加し宿泊して、翌日は北海道

▼写真1 お世話になっている石鍋亭のマスターと。スタッフポロシャツいただきました

▼写真2 ジンギスカン懇親会終了後、会場前で記念撮影。これでも参加者のごく一部です

▼写真3 懇親会終了後、富良野緑峰高校のみなさんと。高校生らしくジャージです(笑)

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

大学のキャンパス見学をさせてもらったとのこと。これをきっかけに、いろいろなことに挑戦してもらえればと思います。

全国各地のOSC関係者が沖縄に集結

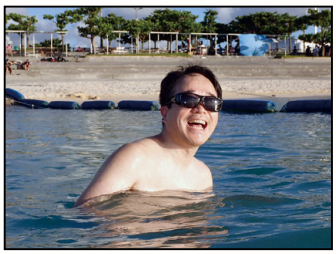
OSC沖縄の開催前日、「OSCサミット@沖縄」に全国各地のOSC実行委員が集まり、各地域の現状報告会を行いました(**写真4**)。各地域共通の課題として、「コミュニティ活動をどうやって活性化するか」「メンバーをどうやって若返りさせるか」ということが挙げられました。たしかに、OSCで知り合ったアクティブな学生や若者が、就職や転職で東京に出てくることが多いと感じます。しかし筆者は、若いうちは東京などで修行して、経験を積んだ後に地域に戻ることはできないかと考え続けています。5〜10年という期間で考えるので今、課題を感じている人には何の解決策にもなりませんが、OSCを始めてまだ10年と少し。蒔いた種が将来芽吹き、花咲くことを期待しながら毎回全国を飛び回っているわけです。若者が挑戦する機会、成長する場を与えて、将来故郷に貢献できる、そんなサイクルを生み出せたらいいですね。

夕陽を見ながらビーチパーティー

OSC沖縄の会場は目の前に人工ビーチがあり、泳いだり(**写真5**)、バーベキューができるので、今回は終了後にビーチパーティーを開催しました。当日は最高の天気で、最高にきれいな夕陽を眺めながら泳いだり、美味しいオリオンビールやサッポロクラシック(北海道からの差し入れ)を飲みながら、交流を深めることができました。OSCサミットに参加した各地域の実行委員は、お互いの地域の開催に協力し合う密約(?)を交わせたようで、大きな成果が得られた2日間でした。SD

▼写真4 OSCサミット後の懇親会で琉装の店員さんと。あれ? 沖縄でも石鍋亭??

▼写真5 OSC沖縄終了後、会場目の前のビーチで泳ぎました。沖縄開催ならではですね



Report

どーんと北海道海鮮丼

ジンギスカンばかり食べていたのを反省して、Facebookで「朝から二条市場に行ってくるけど、いい店ないかな?」と書いておいたら、石鍋亭のマスターが「近藤昇商店がいいよ!」と教えてくれたので早起きして行きました。二条市場はすすきのから歩いて10分ぐらいで、大通り公園からも、ほど近い場所にあります。

目的のお店を発見して、お勧めの「けいらん丼」を注文。普通は「鶏卵」ですが、北海道では「鮭卵」、要するにイクラです。出てきてビックリ、北海の海の幸がどんぶりから完全にはみ出しています。「朝ご飯にこれでいいの?」というぐらいのボリューム感です。また、「石鍋亭のご紹介で」と伝えたところ、デザートに完熟メロンをサービスしてもらえました。北海道といえばやっぱり海の幸。朝早くからやっているので、来年のOSC北海道は朝、ここで海鮮丼を食べてから会場に向かおうと誓ったのでした。

▲これが注文した「けいらん丼」。具◀がはみ出ていて、相当引かないと全部写りません

▲地元のお店なので、観光客相手っぽい店が苦手な私も納得の雰囲気です

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第8回 OSC京都とOSCアワード表彰式

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

宮原、80キロ切ったってよ

断酒してちょうど2ヵ月。83.6キロから78.1キロと5.5キロ減。前回のOSC北海道のあと、風邪をひき81キロ前後で足踏みしていましたが、体調回復を待って運動を開始、さらに今回レポートするOSC京都があったおかげで壁を乗り越えることができたようです。

関係各位から「早く飲めるようになれ」、「連載のタイトルイラストと合ってない」というありがたい(?)お言葉を多数頂戴しているので、早く目標の75キロをキープできるようになって、断酒から減酒に移行したいと思っています。

OSC京都前日準備にみるOSC運営の裏側

OSC京都は7月29日(金)、30日(土)の2日間、京都リサーチパークで開催されました。東京と並ぶフルサイズの2日間開催となるOSCですので、OSCがどのように運営されているか、その裏側を紹介します。

OSCは持続可能性を考えて、単純にアルバイトに作業をお願いすることは極力せず、情報系の学生やIT系の社会人の方にボランティアとして運営スタッフに参加してもらっています。経験を積んでもらうことで、OSC以外の勉強会の開催などに役立ててもらうことも狙っています。

イベント当日の運営スタッフなら合間にセミナーに参加したり、展示を見に行ったりできるので楽しんでもらえます。しかし、前日準備は会場の準備や配布物の作成など単なる作業になってしまうのが難点です。

今回はとくに大学の試験期間と重なってしまい学生スタッフの参加が難しかったのですが、それでも試験のない学生さんが多数集まってくれたおかげで、配布資料作成などの大仕事を早く終わらせられました。

ここで、事務局スタッフの前日準備の様子を紹介します。

- 9時 新幹線で東京・新横浜から京都へ向かう
- 11時 車内でシウマイ弁当を食す(写真1)
- 12時 会場到着。前日送っておいた事務局荷物(カーゴ1台分)を受け取る
- 13時 企業展示会場、セミナー会場準備開始
- 14時 学生スタッフ集合。配布物作成開始
- 17時 配布物作成完了。コミュニティ展示会場準備開始
- 18時 前日準備終了。お疲れ様でした

2日間で約1,000人が集まるイベントの裏側も、けっこう手作りでやっていたりします。このようなノウハウをぜひスタッフとして経験して、趣味や実務に役立ててほしいと感じています(**写真2**)。

▼写真1 新横浜駅で、定番の崎陽軒のシウマイ弁当を買うのも大事な儀式

▼写真2 懇親会終了後、スタッフ、さらに参加者のみなさんと記念撮影

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真3 『Unix考古学』の著者・藤田昭人氏の基調講演。200人規模のホールで立ち見が出る大盛況

情報収集もお仕事のうちです

以前にも書きましたが、OSCはおもに土曜日、たまに日曜日や祝日に開催しています。来場者の中心は現役のエンジニアのみなさんですので、平日開催だと参加できないというご意見が多いためです。

しかし、OSCを始めた10年以上前に比べると、OSSを業務で使うことも当たり前になってきましたし、息抜き的な意味も含めてイベント参加による情報収集も大事なお仕事だと思います。今回は、金曜日が350名、土曜日が650名と約2倍の違いが出ましたが、初日はかなりゆったりとセミナー参加、展示見学が行えたようです。1人でも多く、平日のOSCにお仕事で来てもらえるようになったらいいなと毎回思っています。もちろん、みなさんが殺到したら逆に困ってしまうので、バランスが難しいですね（写真3）。

第4回OSCアワード表彰式を開催

OSCアワードは、OSC開催に多大な貢献をしていただいた方を表彰させていただいております。今回は京都での開催も10回目ということで、関西で活動されている吉田智子氏、山下康成氏、菅雄一氏のお三方を表彰しました（写真4）。

土曜日の朝一番にコミュニティ展示会場で表彰式を行い、たくさんの方に表彰式に参加していただきました。終始和やかに、OSC全体を形作るすべてのみなさんとの一体感が感じられる、とてもよい表彰式となりました。SD

▼写真4 受賞者のみなさんとの記念撮影。左から吉田氏、山下氏、菅氏

Report

スタッフ参加するといいことあるんですよ

OSCの特長として、アクティブな人ほどセミナーや展示などコンテンツ側に廻るため、イベント全体の運営を行うインフラ側には人が少ないという状況になりがちです。どこかの業界みたいですね。

それでも、「運営スタッフが足りないよ～」とTwitterでつぶやくと、「手伝いますよ～」という方もいらっしゃいます。また、早めから現地に入った出展企業の担当者さんにお手伝いしていただけることもあります。本当にありがたいことです。

そんなふうに手伝っていただいた方には、せめてものお礼ということで、事務局で用意しているノベルティグッズなどを差し上げたり、終了後の食事にお誘いしたりしています。

今回も、前日準備終了後に烏丸五条交差点にある蕎麦の名店「京都 蕎麦工房 蕎麦の実よしむら」で美味しい食事とお蕎麦をご馳走させていただきました。なぜかOSC京都の前日準備のあとは毎回このお店です。今回も会期中2回も通ってしまいました。断酒中で美味しい地酒が飲めなかったのが残念です。

前日準備はなかなかたいへんですが、1日の労を癒す名店での食事があるから、全国各地を飛び回れると感じてます。当日のランチも、運営スタッフを連れて「魁力屋」の九条ネギラーメンです。

前日準備を手伝ってくれた大屋さん、北海道・サンビットの佐々木さん（常連）と前夜祭

京都といえば、九条ネギたっぷりのラーメン

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第9回　OSunCリレー(川越→千葉→金沢)とAKB

宮原 徹(みやはら とおる)　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

ダイエットに成功して、お酒解禁です

6月頭からスタートした断酒ダイエットですが、目標である「3ヵ月間で75kgまで落とす」を無事達成できました。3ヵ月目の9月1日(木)に75.6kgになりましたので、減酒フェーズに移行しました。今後「食生活は変えない」「体重をリバウンドさせない」「73kgを目標」「飲酒は最小限に抑える」の予定です。

「頑張らない」で集まるアンカンファレンス

アンカンファレンスの定義はいろいろとありますが、筆者の中での定義は「頑張らない」ということです。通常のカンファレンスを開催する場合、次の作業が必要となります。

- 日程決め/場所取り
- セミナーなどのプログラム調整
- デモ展示の調整
- 配布物作成
- 事前受付
- 当日運営

OSCはほぼ毎月、各地で開催されており、フルタイムスタッフが3名、日々準備作業を行っています。しかし、規模を拡大するには限界があります。また、多くの企業・団体からのご支援も未来永劫続くとは限りません。OSCを持続的に開催するためには、低コストで運営できる形態も模索しておく必要があります。そこで、2016年はとくに「オープンソースアンカンファレンス(OSunC)」の開催に力を入れています。

4回開催で実績のあるOSunC川越

現状、OSunCで実績のあるのが川越(小江戸)です。2013年から毎年、すでに4回開催の実績があります。とくに第3回は筆者が体調不良で不参加でしたが、問題なく開催されました。これは、開催の中心になっている小江戸らぐのみなさんの貢献が大でしょう。OSunC川越では、ライトニングトーク+立食のパーティーという形式で、和やかな雰囲気が最大の特長です(**写真1**)。

発表者も、当日その場で決定するので、事前準備を頑張らなくてもよいアンカンファレンスの趣旨に合っているといえます。OSunC川越は、OSunCのリファレンスモデルの1つと言ってよいでしょう。

千葉工業大学で開催したOSunC千葉

OSC東京は、会場が新宿から西に小一時間とやや遠いのが難点です。とくに千葉方面からは片道2時間はかかります。とある日、千葉で活動している皆さんと飲んでいて、「OSunCを千葉でやろう」「千葉工業大学が駅前で便利だよ」「そうだ、シェル芸の人(上田隆一氏)がいるじゃないか」というわけで、OSunC千葉の開催

▼写真1　いつものメンツでゆっくり話せるのがOSunC川越のいいところ

▼写真2　千葉は首都圏だけあって、たくさんの人が集まりました。千葉工業大学のキャンパスで集合写真

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真3 シェル芸の人の挨拶で2次会開始。2次会も30名以上で座るところがない人も

▼写真4 北陸ではOSC系のイベントは初開催ですが、50名も集まってくれました

が決まりました。OSunC川越のスタイルを踏襲しつつ、学生食堂を食事付きで借り、飲み物などを近くで買い出し、というスタイルで開催しました(**写真2**)。会場を借りる手続きなどでやや手間取るところはありましたが、最後は現場合わせで乗りきり、2次会まで楽しく過ごせました(**写真3**)。反省点は、飲み物が多過ぎたことでしょうか。持ち帰りに備えて、飲み物は350ml缶、食べ物は個別包装を選ぶとよいでしょう。また、「足りなかったら買い足せばいい」と割り切り、最初から少なめに見積るべきかもしれません。

北陸地域で初開催のOSunC金沢

これまで北陸地域でOSCは開催されませんでしたが、2015年3月から北陸新幹線が開通したこともあり、8月27日(土)にOSunC金沢を開催しました。北陸地域のコミュニティの皆さんが中心になり、初開催ということで県外からの参加者も多数集まりました(**写真4**)。開催場所は、観光スポットでもある近江市場の目の前の会場を選択しました。午前中の会場準備のあと、近江市場で名物の「ノドグロ」やお寿司などを買ってきて皆でランチ会、その後はLT＋立食形式の川越方式に、展示を追加する形での開催となりました。「次は冬の名物のブリやカニを楽しむ合宿をやろう」「OSunCやOSCもやりたい」という意見が出るなど、地域のコミュニティ活動を活性化するきっかけ作りになったようです。

自由にやることの難しさ

アンカンファレンスで最も難しいのは「自由にやる」ということです。ルールが定まっていれば、それに従えば問題ありません。OSCは「イベントのルール」の提示を目的としてきました。しかし、自由にやることは「1から自分で考える」ということです。多くの人は自由に慣れていないので、アンカンファレンスで何をしていいのかわからず、戸惑ってしまうのかもしれません。今後、開催を重ねて「アンカンファレンスとは」という共通理解を築いていき、時にはそれを壊してみるのが大事ではないか。そう感じる千葉、金沢でのOSunC開催でした。SD

Report

近江市場は食の宝庫

金沢を訪れた観光客が必ず訪れるスポットの1つが近江市場です。日本海の幸だけでなく、独特な「加賀野菜」も並んでいて、楽しませてもらえます。

今回は、OSunC金沢のお昼ご飯だけでなく、朝ご飯も市場で海鮮丼という、かなり贅沢な食事を楽しんできました。季節によっては甘エビやカニ、ブリなども美味しいそうです。次回は冬の時期に合宿をしたいね、という話をしているので、北陸のAKB(Amaebi、Kani、Buri)を楽しみにまた訪れたいですね。

朝から豪華海鮮丼が食べられるのも日本海側の魅力ですね

市場でお寿司の買い出し。左は北海道から参加してくれた松井健太郎氏

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第10回 その土地を知るには地酒から

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

今回はお酒の話、多めで

本連載も気がつけば第10回。毎回、全国各地のオープンソースカンファレンスなど、地域コミュニティでの交流の様子をお伝えしてきましたが、どうもイベントレポート中心になってしまってタイトルバックの絵にそぐわない感じですね。そこで今回は「お酒の話」を少し多めにお送りします。

日本酒のふるさと、島根へ

まずはOSC島根の話からです。今回は9月24日(土)の開催でした。TRONで有名な、坂村健 東京大学教授の基調講演、さらに地元の学生のみなさんが出展するブースが並ぶなど、普段の開催よりもたくさんの人が集まり、盛会となりました。

私自身、前日に松江工業高等専門学校を訪問させていただいたり、ブース出展をしてくれた学生さんを懇親会に招待したりして、日常の活動について話を聞かせてもらうなど、学生のみなさんとの交流を中心に楽しみました(**写真1**)。

また、OSC島根の運営を地元コミュニティのみなさんにお任せしているので、私も展示ブースでRaspberry Piを使ったデジタルオーディオプレーヤのデモをしたり、自社で行った夏の学生インターンシップの発表(Raspberry Piを使った電子工作)を手伝ったりと、出展側にまわることができ、たいへん充実した開催となりました。たまには一参加者としてOSCを楽しめるのも、小規模開催のよいところです。

酒どころ、新潟・長岡もいいところ

さらに翌週、10月1日(土)は新潟・長岡でOSCが開催されました。新潟市での開催が多いのですが、今回は久しぶりの長岡市での開催です。長岡駅からほど近いこともあって100名以上が参加し、和やかな中にも活気のある開催となりました。

この開催でも、私の主たる目的は学生のみなさんとの交流です。地元の長岡技術科学大学、長岡造形大学からの参加はもちろん、遠く山形県米沢市から山形大学の学生さんたちが4名参加してくれました(**写真2**)。OSCに参加してみたかったので、車ではるばる来てくれたのだそうです。これだけの行動力、若さってすばらしいですね！ 彼らはOSC東京にも参加することになったので、この欄に再登場するかも？

また、地元のエンジニアのみなさん向けに、前日にはOpenStack、当日はDockerのお話をさせていただきました。内容は超入門レベルですが、このような活動がどこかで成果に結びつくとうれしいですね。

その土地を知るには地酒から

それでは、お酒の話を。島根も新

▼写真1 松江高専のみなさんと。先輩後輩の仲がとてもいいですね

▼写真2 山形大学のみなさんと2次会。OSCを楽しく満喫してくれたようです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真4　前から一度来てみたかった李白酒造さんを訪問。生酛(きもと)造りを購入

▲写真3　OSC長岡の懇親会には、豪華な日本酒がずらりと並びます。写真を撮っているのは日本MySQLユーザ会の坂井恵氏

▼写真5　右手にひやおろし、左手に長期熟成酒。OSC長岡の前夜祭にて

潟も、どちらも日本酒の美味しい地域です(**写真3**)。島根は国造り神話が残るぐらい古くからの歴史のある地域ですから、当然お酒の歴史も古いです。ご存じの話として、「八岐大蛇(やまたのおろち)を退治するためにお酒を飲ませて眠らせてしまった」という言い伝えが残っています。

さすがに神話の時代からのお酒造りは残っていませんが、今に残る酒蔵さんはだいたい江戸から明治・大正時代のころ、始まっているところが多いようです。

今回はお城から少し離れて、水の良い場所で酒造りをしている李白酒造さんを訪問、試飲させていただきましたが、こちらは明治15年の創業。「李白」の酒名は昭和3年、若槻礼次郎元首相の命名だとか(**写真4**)。地元の歴史を紐解(ひも)くために酒蔵を訪問してみるのは楽しいものです。

日本酒の秋、ひやおろしの秋

日本酒の旬は1年中ですが、秋は「ひやおろし」の季節です。ひやおろしは、夏の間熟成させた日本酒を火入れ(加熱殺菌)せずに飲む、生酒に近い(貯蔵前に一度だけ火入れしている)日本酒です。9月から11月がひやおろしの季節ですが、2回目の火入れをしていないので、さらにゆっくりと熟成が進んでいくため、9月と11月に飲む味が異なってくるというおもしろさもあります。

いろいろな種類のひやおろしが出回るので、通常の銘柄と飲み比べをしてみるのも楽しいですね(**写真5**)。ひやおろしはコクのある味わいのものが多いので、秋の味覚、たとえばサンマに合わせて飲むとさらに味わい深いものがあります。本誌が出るころにはそろそろひやおろしも終わりの時期ですが、「晩秋旨酒(ばんしゅうまざけ)」のひやおろしを楽しんでみてください。SD

Report　島根は出雲そば、新潟はへぎそば

島根と新潟は、日本酒だけでなくお蕎麦も美味しい土地です。

島根のお蕎麦は出雲そばと呼ばれますが、「割子(わりご)」という丸くて小さなお重に入れて、いろいろな薬味をかけて食べるのが特長です。お重はだいたい3段(3枚)ですが、5段のメニューもあります。私も以前は5段でしたが、体重を気にするようになって3段になりました。

新潟のお蕎麦は、「布海苔(ふのり)」をつなぎに使った「へぎそば」が有名です。海苔のおかげで強いコシがあり、喉ごしがツルッとしているのが特長です。「へぎ」というのは漁で採った魚を入れる木の箱のことで、今でも頼むとへぎに載せて出してくれます。同じお蕎麦なのに、土地が変わるとずいぶんと違うものですね。

3枚割子蕎麦。真ん中は舞茸の天ぷら。下に薬味があります

小嶋屋さんのへぎそば4人前。いくらでも食べられる危険な味わい

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第11回 OSCの原風景を確認してきました

宮原 徹(みやはら とおる)　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

OSC東京秋には学生スタッフがたくさん参加

11月は、東京秋、福岡、広島とOSCが1ヵ月に3回も開催される大忙しの月ですが、今回は締切の都合上、OSC東京秋の様子だけお送りします。

11月5日(土)、6日(日)の2日間、OSC2016東京秋が明星大学で開催されました。前回の記事で紹介した山形大学4人組のほか、来年春に私の会社に入社予定の北海道大学の学生、さらにOSC福岡で実行委員長を務める予定の福岡大学の学生も遠征参加です(**写真1**)。

「せっかくの遠征だから」ということで、前日準備はお昼から開始ですが、午前中は会場から多摩モノレールで20分ほどで行ける立川で映画鑑賞をしてみました。立川で映画といえば爆音上映が有名ですが、残念ながら上映時間が変更になって『ガルパン』爆音上映は鑑賞できず、『君の名は。』極上音響上映を鑑賞しました。劇場隣のファミレスで朝食をとった後、スタッフ参加してくれる若手社会人のIさん、中央大学の学生も合流して、8名で映画鑑賞。ストーリーなどは割愛しますが、ほっこりした後、会場に向かいました。

中央大学にOSCの原風景が?

前日準備を開始する前に昼食をとろうと思い、明星大学のお隣の中央大学(私の母校)の学食に向かいました。すると奇遇なことに学園祭をやっているではないですか！　20年以上前と変わらず、屋台が立ち並ぶ中を抜けて学食に到着し、皆でお昼ご飯。学生時代に戻った気分です。

食後は、校舎を結ぶ通路である「ペデストリアンデッキ」(通称ペデ上)に上がります(**写真2**)。学園祭では雨でも大丈夫なように屋根の下(ペデ下)に屋台が並びますが、春の新入生勧誘の時期には、このペデ上にサークル勧誘の机がずらーっと並べられていました。実はここがOSCの原風景なのです。各コミュニティが机を並べて、自分たちの活動をアピールし、コミュニティの仲間に入ってもらう場所。それがOSCの展示スペースなのです。

久しぶりの母校訪問だったので、そのまま在籍していたサークルの部室(『げんしけん[注1]』の舞台にもなっていた)に突撃してみたりして、OSC開始前からテンションMAX状態になっていたのでした。

大懇親会とBar root

さて、OSC自体はいつもどおりたくさんの人で賑わいましたが、今回は土日開催でしたので、懇親会は初日の土曜日終了後に行われました。毎回、土曜日開催のときはたくさんの人が参加しますが、今回は有償参加者が230名ほど。さらにスタッフ

注1)　月刊アフタヌーンで連載していた木尾士目の漫画。

▼写真1　学生スタッフと終了後にサイゼリヤで打ち上げ。山形大学4人組は深夜バスで帰宅の途に

▼写真2　ガラーンとしてるペデ上ですが、春にはたくさんの勧誘ブースが並びます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真3 大懇親会を後ろから。真ん中あたりに筆者がいるのですが、隠れてしまってほとんど見えません

▶写真4 こちらが越後武士。冷凍庫から出したばかりなので、ボトルに霜が付いているのがわかるでしょうか?

が40名ほど参加して、合計で270名が参加する大懇親会となりました。確かに乾杯の際に前から見ていると、後ろのほうまで人がビッシリといて、たいへんな熱気でした(**写真3**)。

そして恒例の、持ち込みのお酒を振る舞う「Bar root」の開店です。毎回、テーマを決めてお酒を用意しているのですが、今回は10月に開催されたOSC長岡の翌日、新潟県魚沼市の玉川酒造まで行って買ってきた、アルコール度数46度もある日本酒「越後武士(さむらい)」をメインに、40度オーバーの焼酎、泡盛などを用意してみました。

アルコール度数46度もある脅威の日本酒

日本酒は蒸留していないので、普通はアルコール度数は15度ぐらいです。焼酎などの蒸留酒は、加熱すると水分よりもアルコールの方が沸点が低いので先に気体になります。この気体を冷却して液化させると、だいたい60〜70度程度になります。蒸留を続けていると段々度数が低くなるので、それらや加水することで通常販売されている25〜35度程度の度数に調整するわけです。蒸留していない越後武士が46度もあるのが、どれぐらい驚異的かわかっていただけたでしょうか。

これだけ度数が高いと、冷凍庫に入れても完全には凍りません。そこで大学の研究室にある冷凍庫に保管してもらい、飲む直前に出してもらいました(**写真4**)。

透明なカップに注ぐと、粘性の高いトロッとした感じのお酒であるのがわかり、目でも楽しめます。飲んでみると、日本酒の風味がありながら、アルコール度数が高く、かつトロッとした舌触りも楽しめる、何とも不思議なお酒です。ちなみに、酒税法の関係から、扱いは日本酒ではなくリキュール類に分類されています。こんな変わったお酒が飲めるのも、OSCならではですね(?)。

そのほかの度数の高いお酒も、参加者に少しずつ飲んでみてもらいました。そうすると、意外と度数の低いものをたくさん飲むより酔わないもので、翌日もしっかりと運営にいそしむことができました。

次回は福岡、広島と連続して開催されるOSC(主に懇親会)の様子をお届けします。SD

Report

プラレールで作った半加算器の展示

今回のOSC東京秋で注目の展示が、プラレールで作った半加算器の展示です。プラレールには進路を変更するポイント切り替えが行えるレールがありますが、これを活用して値を保存し、演算を行うというものです。

1回の演算を行うのに最長3分ほどかかるので、当たり前ですがまったく実用性はないのですが、プラレールが走っているのを眺めているだけでも楽しいものです。次回のOSC東京春でも、再度展示をしたり、解説セミナーなどをしてほしいとお願いしたので、期待したいですね。

プラレール半加算器。写真奥側からスタートして、グルグル廻りながら演算します

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第12回 2016年のOSCも無事に終了

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

2016年もたくさん飛び回りました

早いもので、この連載も第12回。1年経ってしまいました。2016年のオープンソースカンファレンスもOSC広島で無事に終了し、全14回の開催をすべて終了しました。今年も北は北海道から南は沖縄まで、全国各地を飛び回る1年でした。

今年は延べ参加者数が約7,000名と、前年に比べて若干参加者が減ってしまいましたが、一方で各開催で学生のみなさんに、積極的に参加、交流してもらう機会を作ったことで、内容的には充実していたように感じます。とくに今回レポートする福岡では、学生の活躍が目立ちました。

OSC福岡は10回目の開催

OSC福岡は2007年12月に初開催後、今年が10回目の開催でした。過去には何度か会場に大学や専門学校の校舎を使わせていただいたり、学校の先生が実行委員に入ってくれたりと、学生のみなさんが参加しやすい土壌です。今回も実行委員長を福岡大学の学生である前田恵里さん（**写真1中央**）が務めてくれました。

直前のOSC東京秋にもスタッフとして参加してもらい、運営に慣れてもらったおかげで、しっかりと大任を果たしてくれました。今後、そのほかの地域で開催するOSCでも、学生さんにリーダーとして頑張ってもらいたいですね。

もちろん、ほかにも多くの学生さんがスタッフや講師を務めてくれました。たとえば、私も趣味で遊んでいるRaspberry Piを使ったオーディオ再生で出展してくれた松本壮史さんは佐賀県在住の大学生ですが、展示会場にたくさんのオーディオ機器を持ち込んでデモ展示を行い（**写真2**）、セミナーにもたくさんの参加者を集めていました。ただ、セミナーが30分で終わってしまったため、私も飛び入りでラズパイオーディオのネタを話させてもらいました（ちょっと狙ってたのは秘密です）。

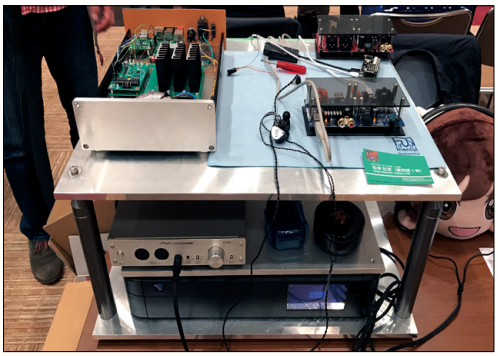
こんな若者を、来年のOSCでもたくさん発掘していきたいですね。

サプライズで第5回OSCアワード表彰式

閉会式では、1回目の開催から縁の下の力持ちとして貢献していただいている坂本好夫さん（**写真1右**）にOSCアワードを贈呈しました。サプライズ受賞ということで最後まで黙っていたのですが、何も言わなくても第1回のときに使ったスタッフTシャツ（黄色）を着てきてくれていました。偶然にも、私も試作した黄色いスタッフTシャツ（現行デザイ

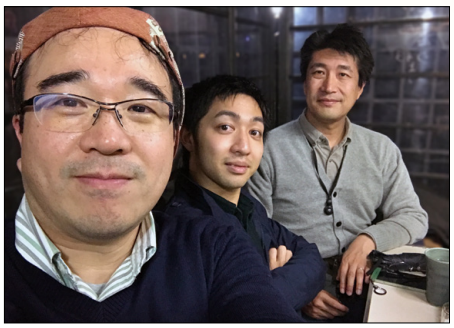
▼写真1 実行委員長の前田さん、OSCアワード受賞の坂本さんと一緒に記念撮影

▼写真2 松本さんの持ち込んだラズパイオーディオのデモ機材。左上の銀色の筐体にRaspberry Piが組み込まれています



本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真3　今回も登場、日本MySQLユーザ会の坂井 恵氏(右)も屋台まで付き合ってくれました



▶写真4　懇親会後、みんなで記念撮影。美味しいお酒を飲み過ぎて、みんなおかしくなっています

ン)を着ていたので、新旧黄色Tシャツでそろい踏み。表彰盾に刻んだお名前が間違えているというアクシデントがありつつも、和やかに表彰式を執り行わせていただきました。

博多といえば中州の屋台ですよね

さて、恒例のお酒の話。OSC福岡では前日準備が終わったあと、前夜祭をするのが恒例ですが、さらに2次会では中州の屋台に繰り出しました。屋台はたくさん並んでいますが、今回は以前お邪魔したことがある「紀文」さんに入りました。ほかの屋台はどちらかというと観光客相手という感じですが、こちらは正当派の屋台です。美味しい焼き魚とお酒をいただき、翌日の本番に向けて鋭気を養ったのでした。透明なビニールシートで囲った屋台が多い中、格子戸で囲われた屋台ですので見つけやすいです。もし中州の屋台で行くところに迷ったら探してみてください。ただ、あまりお店にそぐわない雰囲気の客だと思われると、店主の親父さんに追い返されてしまうこともあるので注意してくださいね。親父さん曰く、お客さんが楽しめる雰囲気を大事にしているのだそうです。ガンコ親父というわけではありませんので、普通に行けば大丈夫です。

福岡の懇親会も持ち込みのお酒だらけ

今回のOSC福岡の懇親会は、展示会場を片付けてそのまま立食形式で開催。ビールなども用意しましたが、やはりメインは各自持ち寄ったお酒の飲み比べです。九州のお酒というとやはり焼酎ですが、鹿児島からの参加者の方が東京ではプレミアムな焼酎である「伊佐美」を持ってきてくれたり、佐賀大学農学部で作られている大学限定酒や、同じく佐賀の「鍋島」など、美味しいお酒がたくさん集まりました。

OSC広島のレポートもしようと思ったのですが、盛りだくさん過ぎたので、次回は広島、そして香川と移動して学生さんたちと交流したお話をしたいと思います。SD

Report 焼酎工場も見学してきました

開催翌日の日曜日に代表的な焼酎である「いいちこ」の日田蒸留所を見学してきました。偶然にも紅葉祭を開催しており、アンケートに答えて試飲用ミニボトルをゲット。さらに試飲コーナーでさまざまな焼酎を飲んだ後、自分の好みのいいちこが作れる原酒セットを購入。焼酎を蒸留するときの圧力を、常圧(とくに圧力を変えない)にしたり、減圧(圧力を下げる)したりすることで味が変わるそうです。それらの原酒をブレンドすることでいろいろな味の銘柄が作られているとか。年末年始の休みの間、じっくりと楽しもうと思います。

いいちこ日田蒸留所で記念撮影。こんなに巨大なボトルだったら、簡単には飲み終わらなさそうです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第13回 広島から香川まで、学生さんと交流

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

はじめに

前回OSC福岡関係の話だけで2ページを使い切ってしまったので、今回は2016年11月27日に開催されたOSC広島を中心にレポートします。OSC福岡の翌週に開催と、かなりスケジュール的にも詰め詰めな開催でしたが、学生さんがたくさん参加してくれたことでたいへん盛り上がりました。

呉旧鎮守府を巡る

広島に入る前に、呉(くれ)まで足を伸ばしてみました。呉では、「大和ミュージアム」や「てつのくじら館(海上自衛隊呉史料館)」、「旧日本海軍の呉鎮守府関係の史跡」などを見ることができます。また、船に乗って海上自衛隊呉基地の港に係留されている海上自衛隊の護衛艦を見るツアーも出ているので、時間を確認して乗船してみるといいでしょう。

ランチは、呉海自カレーがお勧めです。呉基地所属の艦艇のレシピで作ったカレーが食べられます。お店によって出てくるカレーの種類が違うので、事前に調べておいた方がいいかもしれません。

また、「海軍さんの麦酒」という地ビールがあったので飲みたかったのですが、直営店は平日昼間はお休み。しかたがないので駅の売店で瓶入りを購入して、広島行きの電車の中で飲もうと思ったら、普通に混んでいて飲めませんでした。こんなことだったら、駅で電車待ちの間に飲めばよかった！

OSC広島前日企画 学生LT大会で大盛り上がり

さて、OSC広島には、山陰地方の島根、鳥取から学生さんが参加してくれたほか、四国からも香川大学の学生さんが30名以上、プログラミングサークルの旅行として参加してくれました。

せっかくたくさん学生さんが参加してくれるのに何もしないのはもったいないので、前日企画として学生LT大会を開催しました。発表者が全部で40人近くとなったので、発表時間は最短2分半、最長5分で、たっぷり2時間以上の大LT大会を開催しました。「ほー」と思うような内容もあり、たいへん盛り上がりました。

さらに終了後は前夜祭です。ここからは中国地方DB勉強会のみなさんも合流し、前夜祭として50人近くで盛り上がりました(**写真1**)。学校間での交流も深まったようで、開始前からよい雰囲気となりました。

OSC広島本番(**写真2**)ももちろん大盛り上がりでしたが、誌面の都合で割愛します(書くことが多過ぎます！)。

▼写真1 OSC広島前夜祭の様子。中央のピースサインは香川大学の花川直己さん

OSC広島が終わったあとは香川大学に

OSC広島終了後、今度は筆者が香川大学にお邪魔しました。OSC広島への参加のお礼として、香川大学で特別講義を行わせていただきました。

広島から岡山まで新幹線、マリンライナーに乗り換えて瀬戸大橋を渡って高松まで。うどん県に入ったわけですから、さっそく高松駅前の「めりけん屋」でうどんを食べます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真2　OSC広島終了後の記念撮影。最後のライトニングトークまで大盛り上がりでした

▼写真3　めりけん屋の肉ぶっかけうどん。高松駅前なので、気軽に本場の讃岐うどんが楽しめる人気店です

(**写真3**)。さらにタクシーで香川大学に移動したら、学生さんが近所のうどん屋に案内してくれてさらにうどんです。おそるべし、うどん県。

夕方から、2時間ほど学生さん向けに講義を行いました。『オープンソースコミュニティによる技術交流の重要性』というタイトルで、OSCを10年以上続けてきたことによりわかったコミュニティのあり方や、技術を身につけていくうえでのコミュニティとの付き合い方などをお話しました。当初は1時間ぐらい話して、あとは質疑応答と考えていましたが、思った以上に熱が入ってしまって時間一杯まで話してしまいました。講義終了後は学生のみなさんと中華料理屋さんで食事会。この場でいろいろと質問してもらえたので結果オーライですかね。

香川に来たら金比羅さんにお参りを

香川には何度も来ていますが、前回来たときにいただいたお札をお返しに、ということで金比羅さんにお参りしてきました。金比羅さんは高松から南西に1時間ほど行ったところにあります。高松から琴平電鉄というローカル線が出ているので、ことこと揺られて向かいます。この路線、ものすごく揺れるので、乗り物酔いする人は注意してください。終点の琴電琴平駅から参道を抜けていくと、金比羅さんにお参りするための階段が現れます。登り始める前に、朝ご飯代わりに讃岐うどんをいただいておきます(2日間で3食目)。

大門まで365段の間、階段の両脇はお土産屋さんなどが立ち並んでいるので、なんとなく眺めながら登っていきましょう。実はこのエリアの階段はあまり休めるところがなく、傾斜もきつくてたいへんだったりします。大門をくぐると境内に入り、時折階段が出てくる程度に変わります。きつい傾斜の階段を休みなく延々と登らされることはなくなります。

785段を登りきると御本宮に到着です。お参りしたあと、古いお札をお返しし、新しい「会社繁栄」のお札をいただきます(**写真4**)。このお札もまた、次回お返しに来ないといけないですね。展望台からは香川の景色を遠くまで見ることができます。

▶写真4　金比羅さんの御札をいただきました。頑張って登ったかいがありました。「金」の文字が独特です

お役目を終えたので下山し、門前にある酒造所「西野金陵」さんに立ち寄ります(**写真5**)。いろいろと試飲させてもらい、最終的に美味しかった特別純米酒をお土産に購入。

その後、琴平温泉の日帰り入浴で汗を流し、JRに乗り換えて丸亀に向かいます。丸亀城に行くことを勧められたのですが、こちらも急坂を登らないといけない山城です。本丸から見える瀬戸内海の景色は格別でした。SD

▶写真5　西野金陵さん。以前は金比羅さんの門前で日本酒造りをしていたそうですが、今は元酒蔵が博物館と試飲販売になっています

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第14回 大阪は裏なんばが熱いし、OSC大阪も熱かった

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

大盛況のOSC大阪で2017年はスタート

2017年最初のオープンソースカンファレンスは大阪からスタートです。大阪での開催は、これまで企業向けの内容に絞った「OSC.Enterprise」という名前での開催でした。企業向けなので、セミナーや展示も協賛企業中心ですし、平日開催ということで、参加者も200名ほどのややこぢんまりとした開催になっていました。

「大阪をもっと盛り上げたい！」ということで、今回は土曜日開催、会場も広い展示スペースとたくさんのセミナー会場を用意して、いろいろなOSSコミュニティのみなさんにも積極的に出展してもらえるように変更しました。

これだけの規模になると、搬入する荷物や事前準備も必要となるので、前日準備の時間を取るようにしています。一方、ただ準備だけしていても時間がもったいないので、大きめのセミナー会場を1つだけ用意して、お仕事的にも興味を持ってもらえそうなテーマのセミナーを開催している裏で、前日準備を行うようにしています。これを「1.5日開催」と呼んでいます。今のところ、北海道、名古屋、大阪、福岡といった中規模な開催はすべてこの1.5日開催のスタイルをとっています。

今回は、たとえば筆者はDevOpsについてお話をしたこともあり、金曜日であるにもかかわらず、それぞれのセミナーに常時50名近く、1日全体で見るとユニークで100名弱の方が参加してくれました（**写真1**）。

さらに翌日の本番は400名の来場者がありましたので、合計でのべ500名近くの方にお越しいただきました。想定以上の方が来てくれたのは、企画者冥利に尽きるというものです（**写真2**）。次回はさらにたくさんの方に楽しんでもらえるように頑張りたいですね。

大阪は今、裏なんばが熱い!?

「食い倒れの街」大阪ですが、グリコの看板で有名な道頓堀のあたりは、観光客で溢（あふ）れかえっています。そこで今、飲み屋街として注目されているのが「裏なんば」と呼ばれるあたりと紹介されて、ここ最近は大阪出張のたびに開拓に勤（いそ）しんでいます。

場所としては、千日前から日本橋のあたりなのですが、行き方としては吉本興業のお笑いで有名な「なんばグランド花月」から千日前の道具屋筋（調理器具を扱っているお店がたくさん集まっている、東京でいえばかっぱ橋みたいなところ）を少し入っていったあたりです。大小取り混ぜたいろいろな飲み屋さんがたくさん並んでいて、多くのお客さんで賑わっています。

筆者が好きなのは和風の立ち飲み屋さんなので、自然と日本酒中心になります。最近、毎回お伺いしているのが「地酒立呑み『最』」という立ち飲みのお店で、日本酒好きの人たちが集まっています。大きな業務用冷蔵庫に入れられた日本酒（お米のジュースと呼ばれている）から、呑みきりサイズのグラ

▼写真1 1日目終了後、準備スタッフで食事。今回も香川大学から学生スタッフが3名参加してくれました

▼写真2 出展ブースになぜかPC-6001（愛称パピコン）が！ 筆者が一番最初に買ったコンピュータです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真3　裏なんば「地酒立呑み『最』」の店内。こんなふうに日本酒がズラッと並んでいます

▶写真4　懇親会の様子。次のコミュニティ活動のための英気を養っています

スでいろいろな種類のお酒が楽しめるという、筆者にとっては最高のお店です(**写真3**)。

今回は前夜祭ということで、木曜日の夜に出撃しました。たまたま隣になった常連さんに、お勧めのお酒を聞いたりして、楽しく過ごしました。こういう楽しみがあるから、全国各地のOSC開催に廻れるんだよな〜、とモチベーションアップにつながっているのを感じますね。

終了後の懇親会も大盛り上がり

土曜日の開催になったおかげで、OSC終了後の懇親会は70名以上が参加し、大盛り上がりでした(椅子が足りないハメに)。会場は「ドルフィンズ」というベルギービールのお店で、昔からなぜかオープンソース界隈では人気のお店です(**写真4**)。普通のビールが飲み放題だったのですが、ベルギービールが通常の半額ということで、カウンターには長蛇の列が。私もベルギービールの代表格「ヒューガルデンホワイト」を注文してみました。それもダブルで。ダブルにすると、巨大なグラスで出てきます。どれぐらい巨大なのかわかるように、今回出展スタッフとして参加して、懇親会にも来てくれていた「IoT女子[注1]」の菅野あすかさんに持ってもらいました(**写真5**)。だいたい600mlぐらい入っていて、ゆっくりと楽しめます。

▼写真5「IoT女子」の菅野あすかさん。顔が小さいので、なおさらグラスが大きく見えます

さらに有名なフルーツビール(ビールに果物を漬け込んで造る)の「ベルビュークリーク」も呑んだりして、ベルギービールを堪能して大盛り上がりの懇親会でした。多分、次回もこの店になると思いますが、椅子が足りないのをどうするか、ですね。SD

注1)　http://iot-jyoshi.com/

Report 京都でお香作りを楽しむ

突然ですが、筆者はお香が好きです。去年のOSC京都終了後、京都のお香の老舗「松栄堂」本店で買い物をしたところ、京都・嵐山店で使えるお香作り体験の無料券が当たりました。そこでOSC大阪終了後、嵐山に立ち寄ってお香作りを体験してみました。お香にはさまざまな種類があり、それぞれ香りもかなり違います。タブレット状に固めてある7種類あるお香から10個選んで、乳鉢ですり潰します。粉末状になったお香を不織布の袋に入れ、和紙で包むとオリジナル匂い袋の完成です。

女子力高めの趣味に見えるかもしれませんが、夜に自分の好きなお香を焚くとリラックスできます。アロマに比べて、線香に火を点けるだけで簡単なのも魅力です。機会があれば、ぜひ試してみてください。

左上のカラフルなお香を10個選んで自分の香りを作ります。理科の実験みたいですね

できあがった匂い袋。大きいほうは箪笥(たんす)に入れて、衣類に香りが移るのを楽しんでいます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第15回 春だからこそ入門したいよね

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

毎度お馴染み 明星大学での開催です

オープンソースカンファレンスで規模の大きい開催は東京と京都ですが、東京は春秋2回の開催です。今回のOSC2017東京春も、毎回おなじみ東京都日野市にある明星大学のキャンパスをお借りして開催されました。

毎回、いろいろな人に「遠い！」と言われてしまうのですが、開催規模に対して安価に、かつ広いスペースを取ることができる場所がほとんどありません。都心からの距離を抜きにすれば、大学関係の方々にもたいへんご協力をいただいており、かつ今のところよい代替案がないこともあって、毎回明星大学のキャンパスをお借りして開催しているしだいです(**写真1**)。いつもありがとうございます。

▼写真1 当日早朝からの準備に備えて、高幡不動に泊まり込む弊社スタッフ。夜はホテルの部屋で「けものフレンズ」鑑賞会

OSSは「普通」になり過ぎてしまったのですか？

今回の開催では、初日の3月10日(金)に600名、3月11日(土)に700名、両日合わせて1,300名の来場者がありました。また、展示ブースも5教室、セミナーも数え切れないぐらい開催され、盛況の内に終了できました。

しかし一方で、来場者合計数は年々減少しているのも事実です。以前なら700名、800名の合計1,500名ぐらいは来るかな？と予測していましたが、今回はやや無難な数字に落ち着いてしまいました。

減少傾向の理由はいろいろとあるかと思いますが、一番大きな理由は「オープンソースが普通になった」ということが挙げられるのではないでしょうか。

OSCをスタートした10年以上前は、OSSの利用に対して懐疑的な意見も多かったので、活用事例や技術解説が多く求められていました。しかし、現在では業務システムでのOSS活用は当たり前ですし、事例や技術情報はネット上に溢(あふ)れています。わざわざ情報収集のためにOSCに来るインセンティブが働きにくいのは事実です。

しかし、OSCのような集まりに価値や魅力がなくなったわけではありません。実際、会場内は和やかに、かつ活気に溢れていましたし、初日の金曜日の夕方には、詰め襟学生服を着た高校生が連れだって来場してくれました。土曜日はお子さん連れの方が多数来場してくれていました(**写真2**)。

Twitter上でもたくさんの「すごーい！」「たーのしー！」が溢れています。ぜひ、ハッシュタグ#osc17tkで検索してみてください。この雰囲気を大事にしながら、今後も継続的にOSCを開催していきたいですね。「変わらないでいるためには変わらないといけない」ということで、いくつか新たな取り組みを始めていますので紹介したいと思います。

今、あらためて入門セミナーをやる意味

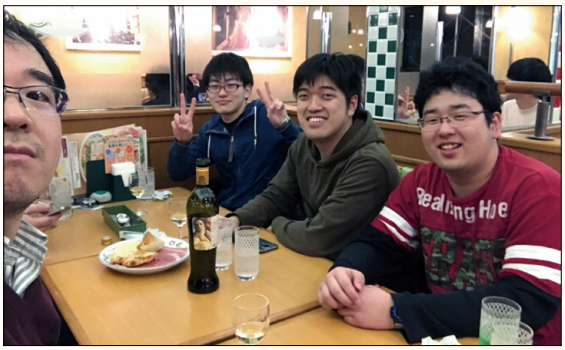
まず最初に紹介したい取り組みが、入門セミナーを企画開催したことです。開催したセミナーは以下のとおりです。

- コマンド入門
- Linuxインストール入門
- Linuxシステム管理入門
- ファイルサーバ入門

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真2 NTTデータの「Hinemos」のマスコットキャラ「もにた」と来場されたお子さん

▼写真3 恒例の学生スタッフとサイゼリヤで打ち上げ。今回もたくさんの学生スタッフが手伝ってくれました



どれもこれも、Linuxなどを日常的に使っている本誌読者には今さら感があるテーマかもしれません。しかし、まだまだこれからLinuxやOSSを使い始めたい、という初心者はいるものです。実際、各セミナーとも参加者は40名以上で教室は満席になっており、入門セミナーを目的にOSCに参加した、という人も多くいました。まだまだ、OSSの仲間に加わりたい人はたくさんいるようです。

今回の入門セミナーは、有志が講師を務めましたが、作成した資料はクリエイティブコモンズでライセンスして自由に再利用できるようにしました。さらに、今後の東京以外の地域でのOSCでも開催していく予定です。データベース入門など、そのほかのテーマの入門セミナーも順次そろえていこうと考えています。

継続的に開催してきているからこそ、振り返って、これからの人たちのための情報発信もしていかないといけないですね。

OSC学生スカラーシップ制度を始めます

もう1つの取り組みが、OSCに出展したい学生に対して交通費などを補助するOSC学生スカラーシップ制度です。これまでもたくさんの学生スタッフが運営を担ったり、OSCに出展している様子をこの連載で紹介しました(**写真3**)。

意欲のある学生に対して、ほかの地域のOSCへの出展を支援していきます。今回はこの制度の原資として、3年間で300万円まで使える予算を確保しました。予算を明確にしたことで、より積極的に支援が行えるようになるかと思います。全国各地の若者を発掘して、OSCで次々とデビューさせていきますよ！　ご期待ください。SD

Report

いつものように懇親会も盛大に

「OSCの半分は懇親会でできている」は誰かの名言ですが、今回も盛大に開催されました。今回は、さくらインターネットのエバンジェリストである横田真俊氏と2人で「あすなろブラザーズ」を結成して、「2017年5大ニュース」と題したかけあい漫才をしたり、毎度お馴染みお酒を持ち寄る「Bar root」を開店したりと大忙しでした。また、OSC2015東京秋(第4回)から出展していただいているサードウェアさんから20周年記念の紅白まんじゅうが来場者に配られたりして、OSCの夜は更けていくのでした。みんな、明日もあるんだからな！

◀ライトニングトークの司会をしてくれたIoT女子のみなさん。懇親会でもいろいろな人と交流してくれました

▼サードウェアの久保元治社長から紅白まんじゅうをいただきました。20周年おめでとうございます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第16回 サラリーマンになるな、エンジニアになれ！

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

GW明けまでOSCはお休みです

オープンソースカンファレンスは、ほぼ毎月のように開催されているため、この連載もOSC開催に連動して執筆しています。ただし、3月末から4月中は年度の切り替わりということもあって、OSCを開催することがありません。そこで今回は、秋葉原にあるよい感じの飲み屋さんを紹介します。しかし、ただ紹介するだけでは成立しないので、あれこれ悩んだあげく、本誌の編集長である池本公平氏をお誘いして、美味しいお酒を楽しみつつ、雑誌作りへの思いをお聞きしました（**写真1**）。

まず向かったのは、秋葉原駅から電気街に出て徒歩3分ほどにあるバー「Gauge（Report参照）」です。

SDでスキルを身につけてもらいたい

まず、一番気になるのはSDの編集方針です。雑誌の方針は時代の流れとともに変わっていくわけですが、現在の方針を聞くと「スキルを身につけることができる記事を掲載しています」とのこと。

確かにSDのキャッチフレーズは「OSとネットワーク，IT環境を支えるエンジニアの総合誌」ですが、単に新しい技術などを紹介する記事ではなく、実際に試せる、業務に取り入れられる実践的な内容が多いように感じます。

また、執筆者の顔ぶれを見ると、現場で実践的に何かをやられている方がほとんどです。「活きたスキル」に触れる機会を頻繁に作るというのは、Webの速報性と書籍の専門性の間にはまる形になる雑誌というメディアの性質なのでしょうね。

読者の年齢層が若返ってきている

SD編集部に配属された8年前、平均読者年齢が40〜50代になっていて、このままでは雑誌が続かないという危機感にさいなまれたということです。そこでシェルスクリプトやログ管理などの若返り企画を推進することで、ITの学習色を濃くしたのですが、結果として若い読者の呼び込みに成功して、今は20〜30代の読者が主となっているとのこと。とくにデータベースの記事は読者からの反応がよいようです。「SQLを身につければ、長く食べられるスキルになる」というお話は、私自身が新卒で日本オラクルに入社してデータベースやSQLを身につけ、いまだにそれで食べられていることからも、納得感があります。

技術者としての働き方

話題は技術者の働き方の話に。これは最近、私が感じていることですが、自分の得意なスキルを活かして活躍する「エンジニア」というよりも、仕事として言われたことだけをこなす「サラリーマン」な技術者が増えているような気がしています。池本さんからは、これまで見てきたさまざまなエンジニアのお話を伺えました。学生時代から頭角を現した人もいれば、地道な努力をしているうちに機会をとらえて世の中に出た人もいます。

共通しているのは自分の好きなことを一生懸命にやっているということ。そこがサラリーマン的な技術者との決定的な違いでしょうか。もちろん、誰もがすごいエンジニアになれるわけではありませんが、何かのきっかけでその人が大きく変わることを見てきているので、SDの記事がそのようなきっかけ作りになれば、という思いがあるのですね。今年の4月号では、新人向けの第1特集で

▼写真1　まずはカウンターで乾杯。私はいきなり日本酒から入ってます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真2　お酒のボトルの上にヴィンテージの計測機器がずらりと。最高の肴ですね

▼写真3　テーブル席に移動して、議論白熱です。お酒も進みます（日本酒2杯目）

私も少し記事を書かせていただきましたが、あの記事をきっかけにエンジニアとして成長してくれたらうれしいですね。

今後の方向性は？

今後の誌面作りの方向性を伺ったところ、引き続き「OS、ネットワーク、インフラ」をしっかりと押さえていくとのことでした。現在、紙媒体の雑誌が少なくなっている中、インフラ系エンジニアが楽しく読める雑誌はSDしかありませんから、今の路線を踏襲してくれるのは私も賛成です。ただ、同じネタを2回も3回も取り上げると飽きられてしまうのが悩みの種とか。一方で、あまり奇をてらい過ぎたネタは万人向けではないですし、バランスが難しいところですね。私自身、この連載がエンジニアのみなさんの一服の清涼剤になればと思って、今後も頑張って連載を続けていこうかと思います。

このあたりでお店も混み合ってきたので河岸を変えて、昔は万世橋駅だった場所を改装した「マーチエキュート神田万世橋」にある「常陸野ブルーイング・ラボ」に移動（**写真4**）。さまざまなクラフトビールを堪能しました。ただ、今回はあえて会話を録音しなかったので、このあたりからは何を話したのか全然覚えていませんが、今後のSDに期待できる楽しいお話で盛り上がったことは間違いありません。SD

▼写真4　クラフトビールで2次会。キャッシュオンデリバリーなので1杯から楽しめます

Report

バー「Gauge（ゲージ）」

URL http://cn493.sakura.ne.jp/gauge/

秋葉原で買い物をしたあとに立ち寄りたい、大人のバーとしてご紹介したいのが「Gauge」です。Gaugeは、オシロスコープなどの計測機器を扱っている老舗「東洋計測器」が経営している計測器バーで、「計測器ランド」のお隣にあります。店内は真空管アンプのオーディオでBGMが流れる中、ヴィンテージの計測機器を眺めながら、美味しいお酒が楽しめます（写真2、3）。

とくに日本酒、焼酎の品揃えがすばらしく、ほかのお店ではなかなか飲めないような逸品が味わえるので、ついつい通ってしまいます。

銘木から切り出したテーブル、カウンターもすばらしく、カウンターで1人グラスを傾けながら、電気街巡りの疲れを癒すのもいいですね。

店内だけでなく、お店の外にもヴィンテージの計測機器が展示されています ▶

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

第17回 ラズパイオーディオの会でコミュニティ活動

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

コミュニティ活動とは

普段、OSCの事務局のような裏方で忙しく活動しているため、私自身は特定のコミュニティでの活動はしていませんでした。ですが最近、Raspberry Piで音楽を聴く「ラズパイオーディオの会(@RasPiAudio)」というコミュニティを立ち上げて、OSCだけでなく外部のイベントにも出展して普及・啓蒙活動を開始しました。今回は「コミュニティ活動とはこんな感じ」というお話をしたいと思います。

ラズパイオーディオとは?

Raspberry Piはみなさんお馴染みだと思いますが、Raspberry Piでオーディオ、となると「?」な人が多いのではないでしょうか。

パソコンで本格的にオーディオを聴くには、オーディオインターフェースをUSBで接続するのが一般的な方法です。実はRaspberry Pi上で動作するLinuxも、このUSBオーディオインターフェースがあっさりと動作します。そして、Linuxカーネルのオーディオのしくみである ALSA(Advanced Linux Sound Architecture)や、音楽再生を担当するMID(Music Player Daemon)などを組み合わせれば、MP3やFLAC(Free Lossless Audio Codec)などの楽曲データを高音質で再生できるというわけです。もちろん、ハイレゾにも対応しています。

Raspberry Piで動作するオーディオ専用のディストリビューションも各種用意されています。よく使われるのは「Volumio 2[注1]」です。Webアプリでの操作だけでなく、専用のアプリでスマホをリモコンとして使うこともできます。楽曲データはNASに入れたりと、エンジニアスキルを活かせるのもおもしろいところです。

ラズパイオーディオの会としての活動

ラズパイオーディオの会は、2016年11月開催のOSC福岡から活動を開始しました。当時、佐賀在住の座布団1枚会長(@zabuton1mai)がOSC福岡に出展、セミナーを開催したところから結成されました。そのときの様子は本連載第12回(2017年2月号)でも書いています。

コミュニティ活動といっても、各人がTwitterなどで情報発信したり、メーリングリストでやりとりしたりするのが中心です。また、オーディオ系のイベントにも出展してラズパイオーディオをアピールしたりもしていますので、そのときの様子を紹介したいと思います。

注1) https://github.com/volumio/Volumio2

ヘッドフォン祭りに出展

まず、4月29日(土)、30日(日)に中野サンプラザで開催された「ヘッドフォン祭り」に出展しました。活動を支援していただいている出版社「ステレオサウンド」のブースを一部間借りしました。

イベント名称のとおりヘッドフォン好きの人が集まるので、Raspberry Piが小さくて持ち運びもできる、モバイルバッテリで駆動できるところをアピール。さらに試作品ですが、Raspberry Pi Zeroで使用する「SabreberryDAC ZERO」も展示させていただきました(**写真1**)。開発者のたかじんさん[注2]、ありがとうございました。

また、会長と私しかいないラズパイオーディオの会だけでは心許ないので、この連載では常連となりつつ

注2) http://nw-electric.way-nifty.com/blog/

▼写真1 「SabreberryDAC ZERO」を先行展示。わざわざこれの音を聴きに来てくれる人もいました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真2　IoT女子のみなさん。事前の勉強会でラズパイオーディオの予習もバッチリです

▼写真3　OTOTENでの出展の様子。エレベーターの前なので、たくさんの人が立ち寄ってくれました

あるIoT女子(#IoT女子)のみなさんに応援に来てもらいました(**写真2**)。ブースがグッと華やかになりますね。

やはりIT系とは来場者層が異なるため、「Raspberry Piはなんとなく知っている」「興味はあるけどどう始めていいかわからない」という人が圧倒的に多く、かなり開拓の余地がありそうです。

Raspberry Piを使ったオーディオ機器を開発するメーカーのコンソーシアムが結成されており、このイベントでケースの試作品も展示されていましたから、オーディオ業界でRaspberry Piが広まる日はそう遠くないかもしれません。

OTOTENに出展

続いて、5月13日(土)、14日(日)に東京国際フォーラムで開催された「OTOTEN(音展)」にも出展しました。同様にステレオサウンドさんのブースを間借りしましたが、こちらのイベントはハイエンドオーディオ中心のイベントですので、Raspberry PiにUSB接続のDAC＋アンプをつないで、スピーカーで音楽を鳴らすデモを実施しました(**写真3**)。

来場者層もアナログオーディオ愛好家が中心のため、デジタルオーディオにはあまり詳しくない方が多く、基本的なところから紹介することが多かったように思います。ハイエンド市場にRaspberry Piが食い込んで行くには、もう少し時間がかかりそうです。

こんな感じで、ラズパイオーディオの会の活動を行っています。いろいろな人と趣味の話をするのは楽しいですから、まずは好きな何かでコミュニティ活動を始めてみてはいかがでしょうか？ SD

Report

京都奈良で日本酒三昧

ヘッドフォン祭りは2日間でしたが、筆者は初日だけの参加で、翌日から京都・奈良への旅に出かけました。テーマは「日本酒」です。

まず向かったのは伏見。軽く散策しつつ酒蔵さんに立ち寄ったり、酒屋さんで伏見のお酒を飲み比べたりしました。次に向かったのが奈良の大神(おおみわ)神社です。酒造りの神様として信仰されています。そのあと、昼間は室生寺や吉野山などに足を運び、夜は奈良の日本酒が堪能できる酒屋「なら泉勇斎」であれこれと飲み比べしてきました。奈良の日本酒、美味しいですよ。

◀大神神社の境内には奈良県内から奉納された酒樽が並べられています

▼活日(いくひ)神社。杜氏の祖先神 高橋活日命(いくひのみこと)を奉っています

▲酒屋「なら泉勇斎」。奈良県内のお酒を100種類以上試飲・購入できます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第18回 OSC名古屋とご当地カントリーマアム

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

尾張名古屋は手羽先でもつ

今年度のOSCシーズンが始まりました。今回は5月27日（土）に開催されたOSC名古屋、そして9月2日（土）に開催予定のOSC千葉の会場下見の様子などをお送りします。

学生スタッフが支えてくれたOSC名古屋

OSC名古屋は1日で500名が参加する、全国の中では比較的大規模な開催となる地域です。そのため、これまで会場が名古屋市立大学、名古屋国際センター、そして昨年からは吹上ホールと、より大きな会場へと変更になっています。ちなみに吹上ホールは展示即売会が行われているような施設で、今回もお隣ではピアノの展示販売が行われていました。

会場が大きくなってゆったりしていいのですが、その分準備に手間がかかります。毎回、スタッフ確保に苦労するのですが、今回は「東海道らぐ」「SWEST & LED-Camp」「中部大学」「名古屋工業大学」「名古屋市立大学」など多数のご協力で、前日準備や当日運営を行えました。アルバイトなどで人手をまかなうのは簡単なのですが、こうやっていろいろな方、とくに学生さんたちに運営を支えてもらうことで、この経験が今後何かの役に立てばいいなと思います。前日準備終了後は、みなさんを労うために会場近くの「元祖手羽先 風来坊」で手羽先を堪能しました（**写真1**）。

▼写真1 風来坊の手羽先。美味しかったので2回も3回もおかわりすることに

懇親会の料理が瞬殺に

OSC名古屋（**写真2**）終了後の懇親会での出来事です。私は荷物がすべて搬出されて、会場を返却してから懇親会会場に向かったのですが、途中で「料理が食べ尽くされました」とのメッセージが届きました。予約時より多少人数は増えましたが、たった15分で料理が終わってしまうのは尋常ではありません。大急ぎで現場に急行しました。原因は、事前にやりとりをしていたお店側の担当者が不在で、事前打ち合わせの内容が当日の担当者に伝わっていなかったこと。現地で幹事を務めてくれた方が、お店側と交渉してアレこれと追加してもらえましたが、参加していただいたみなさんには少し不満が残ってしまったかもしれませんね。

OSCのようなイベントだと、なぜか立食形式の懇親会では料理がすぐになくなってしまうことが多いです。

▼写真2 OSC名古屋の受付スタッフは、名古屋市立大学の学生で、博物館の企画をサポートするボランティアサークルMAROのみなさん

▼写真3 飲み足りない面々は2次会で多いに盛り上がりました。名古屋の夜はまだこれからです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真4
小倉トースト風味。実はOSC名古屋の翌日に開催されていたAndroidイベントへの差し入れだったりします

▼写真5 千葉工業大学の会場下見。机の並べ方などを頭の中でシミュレーションしていきます

これがビジネス系の懇親会ですと料理は余り気味になるのはなぜでしょう。対策として、おやつなどを出して空腹感を紛らわす、とにかく炭水化物を多めにするなどがありますが、根本的な解決は難しいものがあります。このあたりがイベント運営のおもしろさでもあるのですけどね。

結局、物足りない連中は、会場からのシャトルバスで最寄り駅まで送ってもらったあと、2次会(**写真3**)で食べ、さらに3次会で飲み、名古屋の夜は更けていくのでした。

ご当地カントリーマアム

いつからか、「OSCといえばカントリーマアム」というツイートをするようになりました。もともとは運営スタッフ用に、美味しく、個包装なので余っても困らないので用意をしていたのです。最近では、「ご当地カントリーマアム」をお土産や差し入れとしていただくようになりました。そういえば前回のOSC名古屋のときには、大阪から参加してくれた高校生が「神戸プリン風味」のカントリーマアムを差し入れてくれました。

今回のご当地カントリーマアムは、名古屋といえば「小倉トースト風味(**写真4**)」。「お味は？」というと、普通に小倉味で美味しかったです。

OSC千葉の会場は千葉工業大学

昨年はアンカンファレンス形式で開催した千葉ですが、今年は若干ステップアップして150名の大教室とブース展示での開催となります。開催は千葉工業大学で9月2日(土)です。「OSC東京はちょっと遠くて」という千葉県民のみなさん、ぜひ当日はご参加ください。

どのような形で開催できるか検討するため、また実行委員会で意見交換を行うため、会場を下見してきました(**写真5**)。

下見には何名か在学中の学生さんに参加してもらえました。当日、単なるお客さんとして参加するのではなく、企画段階から入ってもらえることで何かを学び取ってもらえればと思っています。

会場は教室も広いですし、展示スペース用の廊下部分もゆったりしているので、当日はじっくりとセミナー、ブース展示見学をしてもらえそうです。開催が楽しみですね。SD

Report

大阪、京都と関西方面も盛り上がってきました

千葉会場下見の翌日は大阪へ出張です。大阪での開催は今年も来年も1月ですが、「この間も実行委員会中心に少しずつでも集まろう」ということで、LT大会を企画してもらいました。当日は前回の実行委員だけでなく、新しい人も参加して、ビール&ピザでお互いのLT発表を楽しみました。来年1月の開催までさらに何回か開催して結束を強めていきたいところです。

その後は京都に移動して、8月開催に向けての決起集会です。実行委員だけでなく、ITとはまったく関係ない人たちにも声をかけて参加してもらい、いろいろと話を聞きました。「WordPressでWebサイト作りを始めてみたい」という意見が出たので、さっそくOSC京都ではWordPress入門のセミナーを開催してみようということになりました。このような形で、どんどんニーズを満たすセミナーを企画していきたいですね。

さて、この文章は沖縄行きの飛行機の中で書いています。次回はOSC沖縄の様子をレポートしたいと思います。もちろん、オリオンビールと泡盛も。

◀さくらインターネットの林 雅也氏の紙LT。少人数ならこれもアリですね

▶京都での決起集会の様子。すでにグッスリと寝てしまっている人も？

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第19回 OSC沖縄のついでに石垣島でリモートワークしてみた

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

宮原流リモートワークのご紹介

OSCで全国を飛び回っているなか、とくに好きなのが沖縄です。OSC沖縄を2005年に初開催して以来、毎年のように開催していますが、ここ最近はOSC終了後、離島にしばらく行くのを習慣にしています。

今回は6月15日(木)に沖縄に入ったあと、6月25日(日)まで10泊11日の長期滞在となりました。もちろん、その間遊んでいたわけではなく、石垣島に行ってリモートワークをしたりしていたので、今回は日記ふうに、その11日間を綴ってみたいと思います。

15 雨の沖縄

午後から沖縄に移動。沖縄はまだ梅雨が明けていないということで雨。到着後、沖縄に来たら必ず行く「ジャッキーステーキハウス」で食事。毎回供される謎の白いスープがあるのですが、今回なぜか味が美味しくなっていて、逆に物足りなさを感じます。その後、4月から私の会社に新卒入社した北村壮大氏、本コーナー常連の坂井恵氏と一緒に牧志公設市場の裏手にある立ち飲み屋でせんべろ[注1](**写真1**)。

16 美ら海水族館→会場設営

スタッフと一緒に美ら海水族館まで。名護市のオリオンビール工場で美味しいビールを試飲。いつもはドライバーですが、今回は坂井氏が運転してくれたので飲めました。感謝。

夕方からOSC会場の設営を1時間ほど行いました。終了後、海鮮居酒屋で沖縄の美味しい魚を堪能。2次会は泡盛専門バー「泡盛倉庫」で泡盛の古酒を満喫。AKB総選挙は中止に。

17 OSC当日→琉球居酒屋

OSC当日。雨はまだ降っていましたが、今回の会場はモノレール駅からほど近く、影響少なし。参加者は100名程度と例年並み。展示スペースをゆったりと取ったので快適でした。終了後、琉球居酒屋で懇親会。2次会は泡盛倉庫(**写真2**)。

やや飲み足りなかったので、工藤淳氏と居酒屋で刺身にビール。この時点で深夜1時。お疲れ様でした。

18 那覇市観光

スタッフと那覇市内観光。識名園、首里城、牧志公設市場、壺屋の焼物街をブラブラ。疲れを癒すために昼寝後、沖縄転勤中の友人と合流して「肉山」で肉を味わいました。

19 沖縄オープンラボ訪問

6月から加入した沖縄オープンラボ(うるま市)を訪問し、午前午後じっくりとディスカッション。終了後、那覇市内に戻り、ヘリオス酒造の直営店でビール三昧懇親会。2次会は泡盛倉庫へ行きました。

注1) 千円でべろべろに酔える、が由来の低価格で飲める居酒屋や立ち飲み店。

▼写真1 1,000円でつまみ1品、飲み物3杯が沖縄のせんべろスタンダードらしいです

▼写真2 泡盛倉庫にて。壁にもぎっしりレアな泡盛の瓶が並んでいます

▼写真3 日本UNIXユーザ会の法林浩之氏と。離島ターミナルは八重山の各島への高速船が発着しています

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真4　喜田紘介氏、由衣さんと婚姻届。石垣島で婚姻届を出すダイビング好きな人は多いらしいです

▼写真5　2日間お世話になったカフェスペース。リノベーションしたばかりのお洒落空間でした

20 Tuesday July　石垣島へ移動

梅雨明け快晴。石垣島に移動。まずは竹富島に行って食事、海で泳ごうと離島ターミナルに行くと、西表島に行く法林浩之氏とばったり遭遇(**写真3**)。

竹富島では「そば処 竹の子」で八重山そばを堪能し、コンドイビーチで泳ぎました。石垣島に戻って日本最南端の樽生ギネスビールを堪能後、一足先に石垣島に来ていた日本PostgreSQLユーザ会(JPUG)の喜田紘介氏と合流して海鮮居酒屋で泡盛を堪能しました。

21 Wednesday July　リモートワーク開始

喜田氏が石垣島市役所に婚姻届を出しに行くというので、カメラマン(野次馬)として同行(**写真4**)。1時間ほどで終わったので、そのあとは宿でリモートワーク。沖縄そばで遅めの昼食後、ホテルエメラルドアイランドのカフェでリモートワーク。無線LAN、電源も使えて、フリードリンクで500円は安いですね(**写真5**)。19時まで仕事。夜は喜田氏と海鮮居酒屋で泡盛を嗜みました。

22 Thursday July　リモートワーク(訪、辺銀食堂)

午前中は宿でリモートワーク。ランチは石垣島ラー油で有名な辺銀食堂でジャージャー麺。午後は昨日と同じカフェでリモートワーク。夜は喜田氏、JPUGの尾高 保氏と海鮮居酒屋で泡盛を満喫しました。

23 Friday July　那覇へ戻る

午前中は宿でリモートワーク。昼からANAインターコンチネンタル石垣リゾートにある真栄里ビーチで泳ぐ。ホテルのシャワーや更衣室が無料で使え、空港までのバスも停まるので、石垣島でもう一泳ぎするときにお勧めです。那覇到着後、翌日のイベントの準備のお手伝い。夜はたまたま社員旅行で沖縄入りしていたミラクル・リナックスのみなさんと琉球居酒屋で懇親会。2次会は泡盛倉庫で泡盛の古酒を堪能しました(**写真6**)。

24 Saturday July　ハッカーズチャンプルー

沖縄のみなさんが企画しているイベント「ハッカーズチャンプルー」にスタッフ参加。100人以上集まり、なかなかの盛り上がり。LTでラズパイオーディオを紹介、会場の片隅でデモをしたところ、興味を持ってくれる人が多く有意義でした。懇親会では琉球大学の学生さんといろいろお話ができました。沖縄でもYAPC(Yet Another Perl Conference)を開催するそうです。

25 Sunday July　帰途

もうさすがにやることもなくなったので、ホテルをチェックアウトしたらそのまま那覇空港に。11日間、お疲れ様でした。

♣

さすがにここまで長期間不在にしていると、多少仕事に支障はありましたが、一方で集中的に仕事をこなすこともできたので、たまには1人で離島合宿も悪くないなあと思いました。来年は宮古島あたりで合宿ですかね。SD

▼写真6　2次会は泡盛倉庫で泡盛古酒三昧

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第20回 今年のOSC京都も暑かった!

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

猛暑のOSC京都

オープンソースカンファレンス京都は毎回、夏に開催されます。今年も8月4日(金)、5日(土)という夏真っ盛りの時期に開催されました。この時期は台風5号の影響で西日本は猛暑に襲われており、8月6日(日)には島根県益田市で39.3度の気温を観測。もちろん、京都も暑かった! そんな京都の様子をレポートします。

今年も京都リサーチパークで開催

11回目の開催を迎えるOSC京都の会場は、ここ数年、京都リサーチパーク(KRP)で開催しています。市内の中心部からは若干外れますが、少し南に下ると京都鉄道博物館や京都水族館がある、やや西側のエリアです。毎回たくさんの出展やセミナーが開催され、来場者も多く訪れるため会場探しには苦労するOSCですが、KRPは展示スペース、セミナー会場ともに豊富なため、OSC京都の開催が成り立っています。また、この期間は「KRP WEEK」という会場全体でのイベントが行われていることもあって、会場側からのOSCへのバックアップがあるのもうれしいところです。東京などではなかなかこのような会場がないため、毎回たいへん助かっています。

OSC京都は学生スタッフが大活躍

OSC京都の特徴の1つとして、学生スタッフが運営に大活躍してくれている点が挙げられます。前日準備での配付資料の袋詰めや、2日間の受付、会場運営など、規模の大きいイベントでは多くのスタッフが必要となります。今回は京都女子大学、そして大阪のECCコンピュータ専門学校の学生さんたちがスタッフとして参加してくれました。また、京都開催のもう1つの特徴として、学生出展が多いことも挙げられるでしょ

▼写真1 懇親会でスタッフ集合写真。今回もたくさんのスタッフが開催を支えてくれました

▼写真3 納涼床から鴨川を眺めて。夕暮れの空と涼しい風が楽しめました

▼写真2 京都といえばおばんざい。これが冷酒に合います

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

う。今回も普段の活動を紹介する展示ブースに、学生さんの説明員がたくさん立って盛り上がっていました。こういうところは、まさにOSCの「OSSの文化祭」というキャッチフレーズにピッタリですね。実際、終了後の懇親会(**写真1**)も、学生さんがそのまま参加するため、ほかの地域の懇親会に比べると「若い人が多いな」と感じます。ほかでの開催も、どんどんこういう雰囲気を作っていきたいですね。

京都の夜は食べ歩き、飲み歩き

OSC京都のもう1つの魅力は、夜の食べ歩き、飲み歩きです。ここ最近では、前日の準備が終わったあとの夜の食事は五条烏丸にある「蕎麦の実 よしむら」というお店に決まりつつあります。店名のとおり、お蕎麦をメインにした居酒屋という感じですが、いろいろな蕎麦料理が楽しめます(**写真2**)。それに合わせた日本酒も各種取りそろえていますが、ここはやはり地元京都の日本酒でしょうか。

それ以外によく行くのが、鴨川の西側にある細い路地にお店がたくさん並んでいる先斗町(ぽんとちょう)です。この時期は川岸の店から川面の空中にせり出した「納涼床」が楽しめます(**写真3**)。今回も納涼床で日本酒と串揚げを堪能しましたが、日中の暑さに比べて、鴨川を抜ける風が涼しかったのが印象的でした。こういったその地域ならではの楽しみ方ができるので、暑い京都でのOSC開催も楽しめるというものです。

イギリスからPimoroniの人たちがやってきた

場所は変わって東京でのイベントの話題です。最近、Raspberry Piでいろいろとやることが多くなってきているのですが、8月8日(火)の夜にRaspberry Piを使って電子工作をする人たちの集まりである「Raspberry Jam Tokyo #008」に参加してきました。普通の勉強会と違って、自分の作ってきた電子工作をテーブルの上に並べて、お互いにああだこうだと情報交換をする楽しい会でした。今回はイギリスでいろいろなRaspberry Pi関係のハードウェア製品を開発・販売しているPimoroni社から、Paul Beech氏とNiko Kotilainen氏が来日してゲスト参加してくれたこともあり、なかなかの盛り上がりを見せました。イベント自体もビール片手に、という感じでしたが、終了後はさらにスタッフの打ち上げがあり、さらに大盛り上がりしました(**写真4**)。こんなふうに交流ができるのも、オープンなイベントならではですね。SD

▼**写真4　Pimoroniのみなさんと記念撮影。(飲み過ぎで)大盛り上がりです**

Report

細い路地にこそ名店あり?

隠れた名店を探すのも、これまた地方出張の楽しみです。今回も納涼床での食事を終わらせた後(観光地価格ですのでちょっと高いのです)、いい感じのお店を探します。いろいろと彷徨(さまよ)った挙げ句、細い路地を発見しました。経験上、こういう細い路地を入ったところには、こぢんまりとしていながらもこだわりのお店があるものです。一般人なら躊躇(ちゅうちょ)するような路地ですが、気にせず入り込んで店をチェックしていくと、日本酒BARを発見。ここはあやしい、ということで突撃したところ、これが大当たりでした。このお店、珍しい日本酒が100種類以上あるがメニューはないので、適当に頼むと店主が選んで出してくれる、というシステム。3種類飲み比べなどはあるのですが、金額も時価という、日本酒が好きな人でないと困ってしまうようなお店でした。お店の名前はあえて伏せておきますので、みなさんも京都に行ったら細い路地を探してみてください。私は次に京都に行ったら、多分また行ってしまうと思います。

▶**島根の隠れた銘酒「王禄」の20年古酒という謎の逸品。なんでこんなものがあるのでしょう?**

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第21回 オープンデベロッパーズカンファレンスを開催しました

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

「開発」をテーマにイベントを開催

本連載は全国各地で開催されているオープンソースカンファレンス(OSC)の様子をおもにお届けしてきましたが、OSCはどちらかというとインフラエンジニア向けのイベントでした。

しかし世の中ではDevOpsやSREといったキーワードが流行しているように、インフラエンジニアも開発者とのコミュニケーションをとる機会が増え、構築作業自体も自動化スクリプトで実現するなど「開発」に積極的に関わる必要が出てきています。そこで8月19、20日の2日間、「オープンデベロッパーズカンファレンス」(ODC)を開催しました。

久しぶりの日本工学院専門学校

ODCの会場となった日本工学院専門学校はJR蒲田駅すぐ近くと絶好のロケーション。校舎も建て替わって数年というすばらしい会場です。建物は違いますが、以前にもOSCの会場として利用させていただいたこともありましたので、久しぶりの会場です。

ODCは初開催ということもあって人が集まるのかどうか不安なところもありましたが、朝からたくさんの方が来場してくれてホッと一安心。最終的に、初日の土曜日が250名、2日目の日曜日が150名と、想定の400名ちょうど参加していただけたので、見込みどおりでした。

セッションの内容ですが、普段のOSCではあまり話すことができないOSSがどのように開発されているのか、コミュニティ開発の裏側について説明するセッションが複数あったのが印象的でした。私自身が企画したMySQLとPostgreSQLの開発の比較セッションも、たとえばPostgreSQLはRedmineなどのチケット管理ではなく、メーリングリストで開発の課題が管理されているというのは驚きでした。そのほか、システム設計やDevOpsに関わるセッション(**写真1**)など、私自身が今興味を持っていること(**写真2**)についてジックリ聴くことができたので、企画運営している私自身が楽しめるイベントになりました。こういう収穫があると、今後も頑張って継続していくぞ、というモチベーションアップになりますね。今回は東京での開催でしたが、今後の各地のOSCの中にも開発をテーマにしたセミナーを積極的に取り入れていくつもりです。

2日目のメインはLLイベント

今回のODCの2日目は、メインがLLイベントです。これまではLLは「Lightweight Language」でしたが、今回は「Learn Language」とい

▼写真1 私のDevOps超入門の講演。本連載のページをスクリーンに映して宣伝中

▼写真2 『スラスラわかるPython』(翔泳社)の監修をした寺田学氏と。機械学習の講演も大好評でした

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真3　LLイベントの竹迫良範氏の基調講演の様子。日曜日にもかかわらず100名以上が参加しました

写真4▶
日本酒立ち飲みの店「日本酒人」。次々と日本酒が入れ替わるので、つい通ってしまいそうです

うことで、基調講演の「ハッカーになるためには何の言語を勉強したらいいですか？」を始め、開発言語の学習がテーマとなりました(**写真3**)。とくに最近注目されている関数型言語のセッションなど、私も興味があったのですが、私は私で裏側でRaspberry Piのハンズオンなどをやっていたので聞けずじまい。それでも、あらためて自分の中で気になっていることを発見できるのも、このようなイベントの醍醐味ですね。

蒲田の夜は更けていく

さて、会場のあった蒲田はたくさんの飲み屋さんがありますので、当然懇親会も盛り上がります。前日準備が終わったあと、蒲田といえば餃子だろ、ということで餃子を堪能したあと、私は1人で翌日の2次会のお店を探しに1人で夜の蒲田をウロウロと。一応目星を付けておいた日本酒立ち飲みのお店(**写真4**)に行くと、いい感じだったので突撃して店主お勧め3種飲み比べを注文。それぞれ90ml(0.5合)が3つですので、1.5合につまみ2品が付いて2,000円は安い！　隣にいる常連のお兄さんたちの会話を楽しみながら、明日はここに何人来るかな〜と想像しながらほどほどで帰宅しました。

さて、翌日は懇親会1次会が終わったあと、有志でまた日本酒立ち飲みのお店へ、10名ほどでゾロゾロと。土曜日のせいか少し混んでいましたが、奥の方に陣取らせてもらって、思い思いに注文します。どれもこれも安いので、どんどん注文が入っていくのが怖いところ。明日もあるんですよ〜、と思いつつ、私も少し飲み過ぎてしまいました。しかし、**写真5**のように揃いのTシャツを着て入っていったので、いったい何者かと思われたに違いありません。SD

▼写真5　講師陣と個人スポンサーに配布した「開発」Tシャツで記念撮影

Report

まさに昭和！ 蒲田の「鳥まん 本店」

2日目は有志のみなさんが会場の片付けを手伝ってくれたので、その後そのまま打ち上げに。向かったのは会場ほど近くの「鳥まん 本店」です。昭和39年(1964年)創業の老舗、安くて美味しい大衆居酒屋です。とくに名前に鳥が入っているとおり、若鶏の唐揚げがサイズも大きくて、揚げたて熱々で美味しいです。また、こういうお店はビールももちろんいいですが、焼酎ボトルにホッピーが似合います。みんなで美味しく、2日間の疲れを癒すことができました。

▶鳥まんの鶏の唐揚げ。1人1皿ぐらいがちょうどいいです。火傷注意

◀左の赤いのは「バイス」と言うらしい。紫蘇風味で焼酎割りで飲むそうです。初めて見ました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

第22回 OSC東京／千葉とデブナイト出張

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

年間スケジュールとイベント開催時期

大規模イベントでは、できるだけたくさんの人が参加できる日程を検討する必要があります。**表1**に、月ごとの人の動きやすさを整理してみました。

整理してみると、イベント日程を組みやすいのは6月か10月。ただし、企業協賛は予算が執行可能になるのが5月～6月ぐらいまでずれ込むため、6月はイベント開催にはあまり向いていません。結局、日程に余裕がある10月を中心とした秋にイベント開催の日程が集中することになるわけです。

そこで、できるだけ重複を避けるために日程をずらそうとしますが、2017年はその思惑が逆に一致してしまい、9月にイベントが目白押しになるという事態になってしまったのは皮肉ですね。

▼表1　年間のスケジュール概要

4月	年度が始まったばかりで動きにくい。企業は予算がまだ固まっていないこともある
5月	GWのため、実質最後の1週間ぐらいしか使えない
6月	比較的動きやすい
7月	学生さんは月末ころに前期末試験があるため動けない
8月	夏休みがあるが、逆に狙い目？
9月	上期末なので月後半は動きにくい。週末は運動会などと重複する
10月	イベント開催のピークで日程が重複しまくる
11月	文化祭との重複が多い
12月	忘年会シーズン
1月	年末年始を挟むため、実質最後の1週間ぐらい
2月	学生さんは後期試験や卒論で忙しい。入試関係で学校は貸してもらいにくい
3月	年度末なので月の後半は人の動きが悪くなる

▼写真1　懇親会はもちろん大盛況。土日開催は土曜日が懇親会なので参加者が多めです

今回のOSC東京のイメージは「ゆったり」

イベント過密日程のトップバッターになったためか、いつもに比べると少し出展数やセミナー数が減った感じですが、それでも土日2日間合わせて1,100名とたくさんの人に集まっていただけました（**写真1**）。また、毎回展示スペースが過密でキツキツになることが多いのですが、今回は少し「ゆったり」とレイアウトできたため、結果として出展者と来場者が「ゆったり」と会話できたようです。この「ゆったり感」がよかったようで、出展者のみなさんからは好意的な意見が聞かれました（**写真2**）。一方で、企業出展の方などはやはりイベントとしての集客数のようなわかりやすい客観的な指標がないと協賛しにくくなるわけで、このあたりのバランスが難しいところです。

今後、数値的な指標だけでなく、「出展者・来場者満足度」のような質的な指標も提示していく必要があるかもしれません。

デブナイト出張版を開催

これまでのOSCでは、基本的に招待講演などは行わず、活動の成果を発表したい企業やコミュニティからの自発的な参加申請に基づいてセミナーや展示を行ってきました（写

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真2　毎度お馴染み終了後のスタッフ集合写真。いろいろな人が片付けを手伝ってくれたので早めに終わりました

▼写真3　OSCドリブンで開発が進められているプラレール半加算器。今回はさらにコンパクトになりました

真3)。ただ、最近のようにテーマが多様化してくると、OSCのようなメタなイベントですべてをカバーすることが難しくなってきます。その現れの1つが、前回レポートした開発者向けのイベントであるODC(Open Developers Conference)でもあったわけです。

そこで今回のOSC東京では、ほんの少しですがオープンソースとは関係ないセミナーを開催してみました。仕事柄、とかく不健康になりがちなエンジニア向けに開催してきた「デブナイト」というイベントの出張版です。これまでウェアラブルデバイスや健康アプリについてのLT中心で開催してきましたが、今回は板橋 里麻さん(株式会社たべかた代表・管理栄養士)をお招きして、健康についてのセミナーを開催しました。たべかたさんに作っていただいたランチボックス(ヘルシータコライス)を食べながら(**写真4**)、エンジニアが知っておきたい「食」の話を聞くという趣向です。かなり多岐に渡ったお話がありましたが、たとえばおやつにはカカオ成分の多いチョコレートや、低GI食品と呼ばれるスナック類が太りにくくていいようです。とくに大豆食品(納豆や豆腐など)が健康にいいとのこと。ぜひ参考にしてみてください。

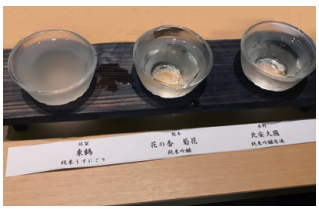
OSC千葉も開催しましたよ

OSC東京の前哨戦ということで、9月2日(土)に千葉工業大学でOSC千葉を開催しました。OSC東京の会場である日野市は千葉方面からみると完全に東京の横断が必要なため、場合によっては2時間以上かかってしまいます。昨年はアンカンファレンス形式でしたが、今回は大部屋1つを15分ごとのセミナー、そして廊下踊り場に展示スペースという形で開催し、100名以上の人に集まってもらえました。こちらも「ゆったり感」は同じで、出展者、参加者同士の会話も弾みました。コミュニティイベントとしてはこれぐらいがちょうどいいのですよね。

懇親会にも50名以上が集まり、大量の揚げ物と格闘するなどのイベントもありつつも盛り上がりました(**写真5**)。2次会も盛り上がり過ぎてうっかり終電を逃すという失態を演じてしまいましたが、楽しい開催となりました(**写真6**)。来年はもう少し規模感を大きくしての開催になりそうです。SD

▼写真4　ヘルシータコライス。お肉の代わりに大豆ミートで作られています

▼写真5　懇親会で出てきた揚げ物盛り合わせ。みんなで頑張りましたが、完食できず



▲写真6　2次会で飲んでいたらしい日本酒飲み比べ。すでに記憶がなく、スマホの写真で気づきました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第23回 2008年の縁のある3ヵ所でOSC開催

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

最初に余談……

前回は、出張デブナイトで健康を気にしたランチ（ヘルシータコライス）の写真の隣に、明らかにダメだろうという山盛りのコロッケの写真が掲載されていて、ちょっとダメな連載ですが、今月もダメさ加減120%（笑）でお送りします。

OSC福岡は2008年以来の福岡大学で

OSC福岡は2017年10月7日（土）に福岡大学で開催されました。福岡大学での前回開催は2008年ですので、9年ぶりに戻ってきた感じです。前日早めからの準備が必要だったので、前々日の10月5日（木）の夕方から福岡入りしました。

現地入りしてすぐ、「飲みに出かけるぞ！」ということで地元の方に教えていただいた、立ち飲みができる「こば酒店」に出かけました（**写真1**）。地元でも人気のある立ち飲み屋さんで大入り満員でしたが、なんとかテーブルを確保。「やはり地元九州のお酒を飲まないと」ということで「寒北斗（かんほくと）」や「若波」などをいただきました。飲みやすくてクイクイいけちゃう、危険なお酒ですね。このような気取らない、地元の人が集まる立ち飲み屋で飲んでいると、一気にその土地に入っていける気がします。私なりのルーティーンですね。

前日準備のあとは、準備を手伝ってくれた学生さんと一緒に大学近くの安い居酒屋で怪気炎を上げて、当日を迎えました。

当日は、九州産業大学の学生さんが授業の一環としてたくさん来てくれたこともあり、朝から若い人たちで大賑わいです。だいたい100名ぐらい来てくれたのではないでしょうか。若い人1人はおっさん3人に匹敵するという法則があるので、実質300人ぐらい来てくれた感じです（当社比）。残念ながら午後の授業に出席するために前半しか居られない学生さんが多かったのですが、みなさん楽しそうで、何かを感じて帰ってくれたようです（**写真2**）。OSCを続けられる原動力になりますね。

OSC島根は2008年以来10回目

OSC島根は2017年10月14日（土）に開催されました。島根開催は地元の方が自主的に運営してくれているので、今回はラズパイオーディオの会として出展しつつ、軽くお手伝いという感じで参加してきました。

OSC島根は2008年に初開催し、今回が10回目の開催です。年々、地元にオフィスを構える企業さんが増えてるなと感じるのは、OSS/Ruby効果でしょうか。最近では地元の高専の学生さんが展示をしてくれるなど、地元の若者たちとの連携も増

▼写真1 こば酒店にて、本連載の常連、坂井恵氏ほかと記念撮影

▼写真2 懇親会後、スタッフ中心に記念撮影。学生スタッフが今後も続いてくれるといいですね

▼写真3 渓にごりとOSC島根実行委員長の木村忍氏

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真4　島根の地酒を前にして、碇ゲンドウごっこ。「ひやおろしばかり？　問題ない」

▼写真5　和気あいあいとしたOSC長岡の展示。“Code for 新潟”の説明を熱心に聞く学生さんたち

えていっています。このペースで15年、20年と続いていってほしいですね。

さて、お酒の話。島根にある王禄（おうろく）酒造さんは、私の好きな日本酒ベスト3に入る蔵です。特約店にしか卸さないのですが、島根駅前にある居酒屋「根っこ」さんでは王禄酒造さんのいろいろな銘柄が楽しめます。飲み比べセットでは、この季節だけのひやおろしが楽しめて、コクのある味わい。さらに微発泡の「澱（おり）にごり」は、上澄み部分とにごり部分を分けて飲むという飲み方を教わりました（**写真3**）。でも2008年の初回のときに、これを飲み過ぎて翌日ひどい2日酔いになった苦い経験があるので、ほどほどにしておきました。

懇親会でもたくさんに地酒に囲まれて（**写真4**）、若い人たちのライトニングトークを聞いたり、突然ガンダム勉強会を開催したりと、楽しい時間を過ごすことができました。

OSC長岡も2008年以来の長岡技科大

OSC長岡は2017年10月28日（土）に長岡技術科学大学で開催されました。こちらも2008年以来なのですが、校舎がリノベーションされてピカピカになっていたのには驚きました。この開催でも、学生さんが授業の一環として参加してくれたので、朝から熱心に会場に足を運んでくれました（**写真5**）。

ほかの地域に比べると、OSSより技術寄りの話が好まれるようで、私が担当したDevOpsのセッションは何と参加者1名（関係者除く）。長岡技術科学大学の学生さんだったのですが、参加理由を聞くと「DevOpsという言葉が流行っているのと、研究室のシステムの運用をどうにかしたいので」ということでした。裏番組がRaspberry PiとIoTだったので、そういうほうが好まれる傾向があるのがわかったのも、ちょっとした収穫でした。

懇親会はもちろん、新潟の地酒三昧。1本数千円もするような銘酒が並びました。さらに翌日は酒蔵めぐりということで「吉乃川」、そして「久保田」を醸している朝日酒造を見学して帰ってきました。こんな感じで、図らずも2008年に絡む開催が3つ続きましたが、日本酒を堪能できたOSCツアーでした。次回は広島で開催されるOSCサミット、そしてOSC大忘年会の様子などをレポートしたいと思います。SD

Report

大分でサッポロビール工場見学

OSC福岡終了後に有志で高速バスに乗って大分県日田市まで移動しサッポロビール工場を見学しました。

ヱビスビールコースと黒ラベルコースがありましたが、今回は黒ラベルコースに参加。生産ラインをざっと見学後、お待ちかねの試飲タイムです。3杯まで飲めるので、普通の黒ラベル、黒い黒ラベル、ガイドさんが缶ビールを美味しく注いでくれた黒ラベルと飲んだところでタイムアウト。しかし、出口に向かうまでの間に「パーフェクト黒ラベル」というクリーミーな泡で飲める有料試飲があったのでさらに一杯。

いい感じになったところで、工場内にあるバーベキューレストランで焼き肉食べ放題をしながら、さらにヱビスビール、黒ラベルをピッチャーで。本当に贅沢な1日でした。ありがとうございました。

◀大人エレベーターで記念撮影。そういえば去年は大きないいちこボトルで撮影したな

▶パーフェクト黒ラベル。大分県に1台しかない専用サーバできめ細やかな泡を注いでくれます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第24回 OSCサミット@広島で2018年のOSCを考えた

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

各地のOSC実行委員会や各コミュニティをリードするメンバーが集まって、活動報告や議論を行うOSCサミットを2017年11月25日（土）に広島で開催しました。過去2回、沖縄で開催したのですが、2016年に本当のサミットが広島で開催されたこともあり、今回は広島での開催となりました。

報告の中から、印象に残ったことを私からのコメントも交えてお伝えしたいと思います。

OSC浜名湖の報告

OSC浜名湖実行委員会の杉本等さんからの報告。参加企業や参加者が頭打ちになっている中、静岡県立島田商業高等学校や静岡県川根本町（かわねほんちょう）などの出展を誘致した事例が報告されました。島田商業高校からは女子高生が授業で開発したアプリを展示、セミナーも行ったので、当日はかなり目立っていたのを覚えています。川根本町はITキャンプやサテライトオフィス実証実験などを行っているそうですので、興味がある方は調べてみてはどうでしょうか。

悩みとして、スタッフが県外に引っ越してしまって減っているとのことで、このあたりは東京以外の地域での共通の課題のように感じます。今後、もう少し広い地域の間で連携してOSCや各種コミュニティ活動を行っていけないかと考えました。

香川大学の報告

香川大学のプログラミングサークル「SLP」に所属する花川直己さんからの報告（**写真1**）。SLPは昨年のOSC広島にもサークル旅行として参加してくれており、過去にはOSC京都などにも同様に参加してくれているアクティブな学生サークルです。

学生がOSCに参加することは、就職して社会人になるうえでのロールモデルを見つける場になっているとのことでした。また、人脈を広げたり、新しいOSSを発見して実際に大学に戻ってから使ってみたりなど、社会人の参加者同様の意義もあるとのことです。

また、OSCでは学生LTなどで発表する場を多く設けていますが、発表を経験することで、大いに刺激を受ける学生もいるそうです。実際、昨年発表した1年生が興味のあるコミュニティに参加し始めるなどの変化があったそうです。

これまでのOSCでも参加してくれた学生さんから刺激になったという意見をたくさん聞くのですが、そのようなメリットがOSCに参加していない学生のみなさんにうまく伝えられていないと感じます。成長の場としてのOSCやコミュニティであることをもっとアピールしていかないといけないですね。

お二人以外にもいろいろな発表がありましたが、OSCは長期間継続して開催してきている分、課題も根本から変えないと解決できないことも多いので、2018年1年間は新しい施策も増やさないといけないなと感じました。

OSCサミット終了後は、皆で広島港まで移動して焼き牡蠣（がき）を堪能しました（**写真2**）。

OSC広島も大賑わい

OSCサミットも大事ですが、本番はOSC広島です。今回はセミナー、出展ともに希望が多く、セミナー枠

▼写真1 香川大学の花川直己さんの発表。今回はLTの司会も引き受けてくれました

▼写真2 牡蠣小屋の謎のマスコットキャラ。キモカワ系？

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真3　閉会式にて。最後までたくさんの参加者がOSC広島を楽しんでくれました

▼写真4　中国電力の特別講演の様子。午前中でしたが満員の盛況でした

は完売、出展もホワイエ部分まではみ出るぐらいの大賑わいでした(**写真3**)。

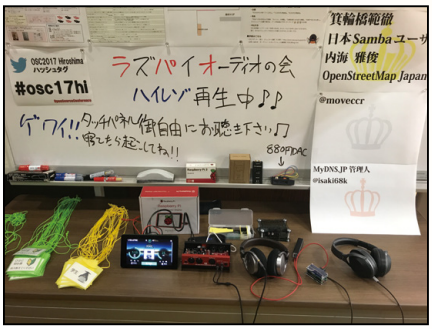
新しい趣向で、招待講演として地元の中国電力執行役員である丹治邦夫さんにお越しいただき、中国電力でのOSSの取り組みをお話いただきました(**写真4**)。

電力会社のような組織でOSSとは意外な感じがしますが、OSSに取り組むことでベンダ任せにならず、意欲的な取り組みが増えたそうです。DIY精神はOSSにとって欠かせないものですが、そのような面が作用したのでしょうか。非常に参考になる事例です。

展示会場も大混雑でしたが、私もスペースを見つけて、当日ゲリラ的にラズパイオーディオの展示をしてみました(**写真5**)。

来場者に実際に音を聴いてもらうと、高音質に驚かれていました。こういう反応があるから展示は楽しいですね。今回はRaspberry Pi純正のタッチパネルで操作できる環境を作ってみましたが、案内が足りなかったのか見ているだけの人も多かったので、無人でも楽しんでもらえるようデモ環境の作り込みが必要そうです。SD

▼写真5　ホワイトボードを活用してその場でラズパイオーディオをゲリラ展示



Report

オバマ大統領も飲んだ広島の日本酒

広島の日本酒は水が軟水であることもあり、京都・伏見同様「女酒」と呼ばれます。飲みやすさが特徴ではありますが、蔵元さんに行くと原酒などしっかりしたものも飲めるので、広島空港到着後、車で20分ほどで行ける西条に行ってみました。

まず行ったのが賀茂鶴酒造。オバマ大統領が来日した際に飲んだ「賀茂鶴ゴールド」で有名です。ふくよかな味わいでスイスイ飲めてしまいます。「日本酒は苦手」という人にもお勧めです。

次に向かったのが福美人酒造。こちらは比較的しっかりした味わいが特徴で、とくに原酒は女酒らしくないパンチ力があります。西条にはほかにも酒蔵がたくさんあるので時間をかけていろいろな酒蔵を巡りたいところですが、今回は時間切れ。後ろ髪引かれながら安芸の宮島・厳島神社に向かうのでした。

◀賀茂鶴酒造の試飲コーナー。いろいろな種類が好きなだけ味わえます

▶厳島神社への到着は夕方でしたが大混雑。さすが世界遺産

◀西条、宮島とまわって、最後は広島市内でお好み焼き

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第25回 2017年の締めのOSC.Enterpriseと大忘年会

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

2017年の締めはOSC.Enterpriseで

オープンソースカンファレンス東京のアンケートで「もっと都心で開催してほしい」というご意見は常に上位にランキングされるわけですが、そのような声にお応えするために開催しているのが「OSC.Enterprise」です（**写真1**）。もともとはデータベースにテーマを絞った「OSC.DB」や、クラウドに絞った「OSC.Cloud」などを企画開催してきましたが、より幅広くエンタープライズシステム向けのOSSソリューションに関する情報を提供する場として開催されるようになりました。

場所は、今回も渋谷駅のほど近くにある会場を借りて開催しました。渋谷駅にヒカリエという大きなビルができたおかげで、駅から会場近くまで屋根のある通路で来られる抜群のロケーション。もうこれで「会場が遠い」とは言わせません。今回も300名以上の方にご来場いただけました（**写真2**）。

会場の立地という意味では、渋谷はかなり良い場所ですが、やはり会場費がそれなりにかさむのがつらいところです。このような「集まりの持続可能性を考えると、高コスト体質は避けないといけないね」という話は本連載でも何度もしてきていますが、それでも「使うときには使う」ぐらいの感覚は必要かもしれません。要はバランスですかね。

OSC大忘年会を開催

OSC.Enterpriseを12月に開催しているのは、終了後の懇親会が出展者などのOSC関係者の忘年会を兼ねていることも理由の1つに挙げられます。今回も100名以上の方に参加していただいた大忘年会になりました。80名ぐらいを見込んでいたので、懇親会場内を移動するのも一苦労なぐらいの大盛況でした。それでも、みなさん1年の活動の総括ということでしょうか、会話が弾んでいました（**写真3**）。

立食形式だったので、料理は会場の片隅に並べられた大皿から取ってもらうビュッフェスタイルです。この手の立食パーティーでは料理を取るために長蛇の列ができるのはよく見る光景ですが、OSC福岡の懇親会から行っているビュッフェスタイルのルールを紹介します。

懇親会の食べ物渋滞を解消しよう

そもそも、なぜ長蛇の列ができてしまうかという原因を考えてみると、これは一種のパニック的な集団心理が起きているとみるべきでしょう。「早い者勝ち」「取りっぱぐれる」とい

▼写真1 展示会場は普段に比べてゆったり。出展企業の方とじっくり会話できます

▼写真2 私も「DevOps超入門」のセミナー開催。たくさんの方に聴講していただけました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真3　なぜかFacebookの画像認識で私と間違えられる川北英治氏と

う心理が働いて、人よりも早く、多く取ろうという行動が長蛇の列につながります。これは飛行機搭乗の際に列ができるのと似ています。そもそも、飛行機は席もあらかじめ決まっていますし、全員が搭乗しないと離陸できないので、遅く乗っても問題ありません。それでも、棚に荷物が載せられなかったらどうしよう、と考えて我先に乗り込もうとします。そして通路を塞ぐ人がいるため、なおさら乗り込むのが遅れる悪循環につながるわけです。

このような問題を起こさないようにするには、順番に秩序を与えることです。秩序だった動きをルールにすることで、全体の行動をコントロールできますし、パニックに陥らずスムーズに進めることができます。飛行機であれば、「まずお年寄りや小さい子供連れの乗客から乗せ、次に後方の座席の人から順番に乗せる」といった段取りです。とはいえ、やはり通路を塞いでしまう人はいるものですが、混雑は多少は緩和されるというものです。

食べ物は若手・女性から順番に取りに行こう

では、立食形式のときはどうすればよいでしょうか。具体的にはまず、学生や女性から優先的に食べ物を取りに行ってもらいます。人数としてはだいたい1割から2割といったところですので、そこまで混雑しません。その後混雑具合を見ながら、20～30代、次はそれ以上という感じで、年齢順に取りに行ってもらいます。このようなルールを作ることで、優先的に取りに行かせてもらっている人たちは「後の人のために取り過ぎないようにしよう」という配慮が生まれますし、待っている人たちは「慌てたらいけないな」と落ち着くことができるわけです。

IT系のイベントのあとにある懇親会で、立食形式の食事が瞬殺だということをよく聞きますし、私も実際にみたことがありますが、ちょっとしたルールを適用するだけでずいぶんと緩和されます。むしろ、OSC福岡のときも今回の忘年会も、あやうく食事が余りそうになるぐらいでしたので、ぜひみなさんも試してみてください(写真4)。SD

▼写真4　「心配しなくても大盛のパスタがありますよ～」という感じで

Report

ラズパイオーディオの会忘年会

今回は忘年会ネタばかりですが、以前紹介した私が活動に関わっているラズパイオーディオの会の忘年会が開かれました。オーディオの集まりということもあり、Raspberry Piでいい音楽を聴くために選ばれた会場が表参道にある「ペニーレーン」というお店。店名の由来はビートルズの「Penny Lane」という曲であり、また吉田拓郎の「ペニーレーンでバーボン」で歌われた店でもあります。現在のお店は、1990年に一度閉店したあと、2006年に系列店舗をリニューアルオープンしたものです。店舗の2階には小さなステージがあり、また総額うん百万のオーディオシステムがあるのですが、今回はこちらのシステムをお借りしての忘年会です。参加者の中には現役のオーディオ機器開発エンジニアの方もいたりして、たいへん充実した忘年会でした。今後もこのような集まりを継続して開いていきたいですね。

◀洒落た外観の「ペニーレーン」

▼乾杯もそこそこに高級オーディオに群がる人々。スピーカー1本50万円

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第26回 2018年は雪のOSC大阪からスタート

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

2018年を迎えて

2018年の年明けはやたらと寒く、東京でも大雪が降った年と記憶されそうですが、今年の最初のOSCは1月26日（金）27日（土）に大阪で開催されました。小雪が舞い散る中、400名もの方が参加する幸先のいいスタートでした。2018年のオープンソースも盛り上がりそうです。そんな当日の様子を紹介します。

最近話題のトピックはやはり自動化

OSCは土曜日開催が基本ですが、業務に役立つ内容のセミナーも多いので、今回も金曜日は裏で準備をしつつ、セミナーを半日1トラックという1.5日開催でスタートしました。

セミナーの内容は、OSSライセンスに始まり、Ansibleによる自動化、PostgreSQLやMySQL、そして冗長化・バックアップと、すぐにでも業務に役立ちそうな内容が並んだため、お仕事として参加されている方がほとんどでした。また、かなり真剣に聴講してくれているのを見ると、東京だけでなく全国各地で開催しているOSCの存在意義が確認でき、モチベーションアップにつながります。もっともっとたくさんの方に参加していただけるように頑張りたいですね。

ルンバの設定で四苦八苦

一方、セミナー会場の隣の準備部屋では、配布物の袋詰めや、翌日のAmazon Alexaの開発ハンズオンの準備（**写真1**）をしました。また、Amazon Echoとルンバの掃除機を連動させるセットアップをしていたのですが、なかなかうまくいきません。

あれこれ試すこと1時間、使用していた無線LANのアクセスポイントのセキュリティ設定が原因であることが判明。「ルンバが無線LAN接続後、同じ無線LANに接続しているスマホと通信できず、設定がいつまでも完了しない」という罠でした。使用していたバッファローの無線LANアクセスポイントには、「隔離機能」と「プライバシーセパレーター」という、似た2つの機能があります。設定画面上、後者は画面外で見えないため、前者だけ解除していた、というオチでした。こういう現場でのトラブルシューティングは、解決できれば達成感もあり、現場力が磨かれる気がします。1つ勉強になりました。

ゆったりした展示スペースが好評でした

今回は建物の3F、4Fにある広いスペースを展示にして、5Fの会議室をセミナーという構成にしてみました。昨年は会議室をコミュニティ

▼写真1 準備のおかげか、大好評だったAmazon Alexaハンズオンの様子。みなさん、黙々と開発中です

▼写真2 大阪情報コンピュータ専門学校ITcreate部のみなさん。OSCの展示ブース出展、お疲れ様でした

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

系の展示にしたのですが、奥まったところにあり、若干狭かったのです。今回の4Fのスペースは天井も高く、開放感のある展示会場となったため、みなさんゆったりと展示を楽しんでもらえたようです(**写真2**)。

ただし反省点もあります。前日準備を5Fでやっていたのですが、展示会場へ前日の内に荷物を移動できなかったため、朝イチは荷物の移動に人手が取られてしまい大混乱。やむなく準備が完全でなくても始まってしまいましたが、出展者や来場者のみなさんもそのあたりの事情は汲んでくれているので大きな支障もなく、なんとか乗りきることができました。数百人規模のイベントを少ない人数と短時間の準備で廻すのは本当にたいへんですが、このあたりのノウハウをもっと広めていきたいですね。

謎の腹痛によりお酒が飲めない

前日準備をしつつも、実は金曜日の朝から謎の腹痛に襲われていました。前日準備が終わるころには「早くホテルの部屋に戻って寝たい！」という状態で、準備が終わってスタッフと夕飯を済ませて、やっとホテルに帰着。微熱と腹痛でなかなか寝付けず、眠れたのは日付が変わったころでした。しかし4時過ぎに激しい腹痛で目が覚め、寝不足のまま会場に向かいました。痛くて動けないほどではなく、運営には支障なかったのですが、懇親会では美味しそうな日本酒が飲み放題なのに一滴も飲めず、個人的にはパッとしないOSC大阪になってしまいました。いつもなら楽しそうな2次会の写真を掲載しますが、今回はなしです。

大阪の仇(あだ)を浜名湖の地ビールで

OSC大阪の2週間後、2月11日(日)にOSC浜名湖が開催されました。地元企業であるヤマハがネットワーク機器を出展したり、昨年に続いて島田商業高校の高校生が授業で開発したアプリの展示とプレゼン(**写真3**)をしたりと、昨年以上に盛り上がりました。参加者も160名と若干増加しました。浜名湖(浜松)での開催も6回目ですが、地元に定着してきた感があります(**写真4**)。そして浜名湖といえば地ビールの「マイン・シュロス」。大阪で飲めなかったことが仇というわけでもありませんが、ドイツ系のビールを飲みながら大盛り上がり。「今度合宿しよう」「勉強会に来てほしい」など、次につながる話題がたくさん出ていたので、来年も楽しみです。SD

▼写真3　島田商業高校のみなさんのプレゼン。地域の課題解決に取り組むアプリ開発を行ったそうです

▼写真4　湖西市在住のきゅうり農家の小池誠氏が作ったきゅうり選果機。ラズパイでTensorFlowが動作しています

Report

浜松の美味しい居酒屋で討ち死に

浜名湖(浜松)は餃子が有名ですが、懇親会ではソーセージは出ても餃子は出ないので、前夜祭で美味しい浜松餃子を食べてきました。開始時間まで時間が空いたので、お店の周囲の飲み屋街をうろうろ歩いて、一軒よさそうな店を発見したので2次会にお邪魔してみました。これが当たりで、店内の雰囲気も良く、日本酒もつまみも美味しかったです。

メニューに載っていない隠し酒までいただいて、すっかりいい気分になってしまいました。「あ」というお店です。浜松で探してみてくださいね。

◀OSC浜名湖 前夜祭2次会のお店にて。おおむねいつもの面々です

▼2次会で飲み干された徳利のみなさん。この写真を撮った事自体、覚えてないという

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

第27回 OSC東京春とラズパイ6回目の誕生日イベント

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

はじめに

今回はOSC東京春の様子に加え、開催をお手伝いした「Raspberry Jam Big Birthday Weekend 2018 in TOKYO」の様子も紹介します。

大阪に続き、またもや体調不良!?

OSC東京春が2月23日（金）24日（土）の2日間で開催されました。のっけから個人的な話で恐縮ですが、OSC大阪に続き今回も体調不良での開催入りでした。水曜日に謎の腹痛（多分ウイルス性胃腸炎？）でグッタリ。翌日には多少回復したものの、前日準備も本調子ではありません。この時期は手洗いをまめにするなど普段よりも気をつけているのですが、完全には防ぎきれなかったようです。

それでも、最近では前日準備から学生ボランティアスタッフのみなさんが集まってくれて、なんとか準備をこなすことができました（**写真1**）。東京での開催は事務局スタッフもフルメンバーで準備に関われるので、ここ数年は極力、私以外のスタッフで準備および運営をしてもらっていたことも功を奏したかもしれません。今後は、一般の社会人ボランティアスタッフにも現場を経験してもらい、イベント運営のスキルを身につけられるような機会作りもしたいです。

子供のプログラミング教育とOSS

2020年度から小学校段階でのプログラミング教育がスタートすることを見据えて、今回のチャレンジの1つとして、子供のプログラミング教育に関するセミナーを2日間開催しました。この企画、実は毎回会場をお借りしている明星大学からの発案でスタートしました。教職課程があり、また地元の教育委員会と共同で先行的にプログラミング教育に取り組んでいることなどから、OSCと同時開催になりました。

セミナーでは明星大学の先行事例の紹介のほか、OSCに協賛している企業での子供のプラグラミング教育への取り組みや、CoderDojoのようにすでに多くの実績を上げている団体の事例紹介などが行われ、2日間で100名以上の参加者を集めました。

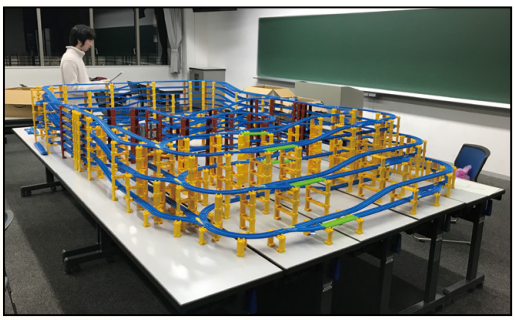
今回は初回ということで手探りな面もありましたが、今後も継続的に企画開催する予定です。実践的な事例紹介だけでなく、参加者間の交流や、実際にプログラミング教育を体験できるハンズオンの開催など、やりたいこと、やるべきこともたくさんありそうです。プログラミング教育の中でOSSが果たす役割も考えたいですね。

進化したプラレール全加算器

OSC東京の名物といえば、線型算

▼写真1 朝のスタッフミーティング。OSCはたくさんのボランティアスタッフに支えられています

▼写真2 プラレール全加算器の様子。見やすいよう、手前側は段差になっています



本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

法同好会のみなさんのプラレールでの演算装置(**写真2**)。これまでは半加算器でしたが、今回はバージョンアップして全加算器となりました。必要となるプラレールのパーツもクラウドファンディングで集め、レールが6層、7層と重ね合わされるボリューム感満点の構造となっていました。回を重ねるごとにバージョンアップする「OSCドリブン」な開発が進められていますが、今後の展開が楽しみです。今年はぜひ、東京以外のOSCにも出展していただきたいですね。

ラズパイバースデーイベントも盛大に開催

OSC東京春の翌週の3月3日(土)、4日(日)に、「Raspberry Jam Big Birthday Weekend 2018 in TOKYO」が東京・蒲田にある日本工学院専門学校をお借りして開催されました。Raspberry Piの6回目の誕生日として世界中の46ヵ国で同時にお祝いをするイベントです。

OSC東京春は事務局スタッフに準備をお任せしていましたが、こちらは私が準備をあれこれしなければならず、久方ぶりの大きめなイベントの裏方です。とくに今回はお借りした会場に机や椅子がないため、レイアウトを早めに決定してレンタル業者に数量を発注しなければならず、しかしそういうときに限って次から次へと変更リクエストが相次ぎ、「なんとなくシステム開発に似ているな」と思いながらの開催でした。

イベントの構成は、メインのセミナーと、分科会形式でハンズオンなどが開催され、そして企業やコミュニティの展示ブースが並ぶという、盛りだくさんの内容でした(**写真3、4**)。2日間で400名の参加者が集まり、Raspberry Piについて熱く語り合うイベントとなりました。とくに出展企業ブースでは各種パーツやアウトレット商品が販売されたため、私もついうっかりRaspberry Pi用ケースをいくつも購入したり、欲しかったパーツも大人買いしたりして散財してしまいました。OSCはいろいろなテーマのごった煮として開催していますが、こういうテーマを1つに絞ったイベントも楽しいですね。運営側にもかかわらず楽しんでしまいましたが、このイベントは継続的に開催に関わっていけたらと思います。SD

▼写真3　Raspberry Piのバースデーイベントに朝からたくさんの人が集まりました

▼写真4　懇親会ではバースデーケーキも。撮影会のあと、皆で美味しくいただきました

サードウェア 久保さんの思い出

非常に残念なことに、2018年3月3日(土)に株式会社サードウェア 代表取締役社長 久保元治氏がお亡くなりになりました。

サードウェアはLinuxでブロックストレージをネットワーク経由で複製する「DRBD」の商用サポートを行っていた会社として有名であり、2005年に開催されたOSC東京秋から10年以上に渡ってスポンサーとしてOSCを支え続けてきてくれました。

OSC東京春の開催時、「急に体調不良で参加できなくなった」とご連絡をいただいたときには単なる風邪かと思っていましたが、それが原因で1週間後には帰らぬ人となりました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

◀OSC2017東京春で、サードウェア20周年記念紅白饅頭を配ってくれました

▶OSC2017東京秋での2ショット。私自身の写真が少ないので貴重な1枚

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第28回 アンカンファレンス開催のススメ

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

OSunC川越に学ぶアンカンファレンス

3月、4月は年度の変わり目ということもあり、OSCの開催はお休みですが、4月14日(土)にOSunC川越(OSunC：*Open Source unConference*)が開催されました。すでに5回目の開催となるのでこの連載でも何度かレポートしていますが、「そもそもアンカンファレンスとは？」という疑問もあるようなので、その疑問にお答えする形で企画、準備段階からお話します。

アンカンファレンスとは？

アンカンファレンスの形式に明確な定義があるわけではありませんが、通常のカンファレンスが主催者やスポンサーなどが主体となって開催されるのに対して、参加者主導で開催される会議であることが基本です(**写真1**)。また、スピーカーやディスカッションのテーマは事前に決め過ぎず、場合によっては当日にホワイトボードや付箋などを使って決める方法なども特徴として挙げられるでしょう。

OSunC川越では、1人5分間のライトニングトーク形式で、参加申し込み時、あるいは当日でも飛び入りで発表が可能で、発表タイトルなどはGoogleスプレッドシートで発表希望者が自分で記入するスタイルを取っています。申し込み順の発表なので、テーマもバラバラですが、座って聞いているだけでいろいろな話が聞けるおもしろさがあります。通常のカンファレンスでは、自分の興味のあるセミナーにしか参加しませんので、視野が狭くなりがち。ですので、このあたりはアンカンファレンス形式の魅力の1つでもあるでしょう。

アンカンファレンスの開催スタイル？

アンカンファレンスは参加者主導型の会議ですから、開催にあたっての制約はそれほどありません。想定される参加者の人数に見合った広さの会場が確保できれば、最低限の準備は完了です。もちろん、ライトニングトーク形式で発表を行うのであればプロジェクター、あるいは大型のモニターなどが欲しいですが、あえてプレゼンテーションツールなどは使わず「喋り」だけで行うのもおもしろいでしょう。

あるいは、ライトニングトーク形式ではどうしても話している人と聞いている人、という形になってしまいますから、テーマ別に分かれたグループディスカッションのような形式で行っても良いでしょう。ただこの場合、自分の興味のあるテーマのグループに入る分、それ以外のテーマについては参加しないことになるので、最後の時間に全体で集まる時間を用意して、各グループごとに話し合った内容を発表するなどの工

▼写真1 参加者主導ですから、準備も自分たちで。買い出してきた食べ物を並べたり、ビールサーバを設置したり

▼写真2 交流スペースはガジェットで盛り上がります。真ん中は「CrystalDiskMark」の作者であるひよひよ氏

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

夫が欲しいところです。このあたりの開催方法は、アンカンファレンス形式のベースになった「オープン・スペース・テクノロジー」について調べてみるとよいでしょう。

OSunC川越の開催スタイル

OSunC川越では発表形式の一方通行を解決するために会場を2分割して、発表を聞くエリアと立食形式で参加者同士が交流するエリアを用意して、同時並行で進めるようにしています。エリア間の行き来は自由ですので、交流エリアで話をしている間、おもしろそうな発表が行われていれば発表エリアに移動して話を聞く、ということもできます。また、懇親会も同時に行っていることになりますので、時間の制約で懇親会にはなかなか参加できないという人にもうれしいしくみです(**写真2**)。

このような開催方法はあくまで一例ですが、そのイベントに集まる人や全体的なテーマに合わせたスタイルをあれこれ試して継続的に開催、改善していくと良いでしょう。

▼写真3　最後にスクリーン前で参加者全員での記念撮影。Software Designの記事執筆者もチラホラ

アンカンファレンスを開催してみましょう

繰り返しになりますが、アンカンファレンスは参加者主導の会議であることが大事で、これを満たさなければならない、というような厳密な決まりはありません。

OSunC川越は主催側がかなりあれこれと準備をしてくれていますが、もっとシンプルにするのもアリでしょう。とりあえず時間と場所だけ決めて、あとは告知と参加申し込みだけしてもらって、当日どうするか決める、ぐらいのカジュアルさでもまったく問題ないでしょう。現在、年間を通してOSCを全国で開催していますし、それ以外のイベントも頻繁に各地で開催されるようになりましたが、まだまだ集まる機会が少ない、と言われる地域も多いようです。そんなときこそ、幅広くいろいろなテーマで盛り上がれるアンカンファレンスを開催してみてはどうでしょうか？――意外と近くにおもしろいものが潜んでいるかもしれません(**写真3**)。SD

ビールサーバで美味しい生ビールを

OSunC川越では主催である小江戸らぐのみなさんが、川越周辺のB級グルメである川越焼きそばや東松山やきとんなどを用意してくれます(**写真A**)。また、ビールサーバも用意されているので、自分でカップに生ビールを注げるのも嬉しいですね。ビールサーバは第1回開催から用意していたのですが、最初のころは使い勝手がわからず泡ばかり出ていました(**写真B**)。泡が多くなった原因はサーバ内でビールを通す際に冷やすための金属プレートが十分に冷えていないためでした。金属プレートはCPUなどを冷やすヒートシンクのようなもので、表面がフィン状になっているため、氷を細かくしてフィンの隙間まで入り込ませないとよく冷えないのです。ビールサーバは酒屋さんなどで樽入りビールや炭酸ガスと一緒に用意してもらえます。盛り上がりますのでお勧めです。

◀写真A
川越周辺B級グルメ。インスタ映えする盛り付けを目指すも、色合いが地味過ぎ

◀写真B
ビールサーバ設置も慣れたので、理想的な泡の量で注げます。コップを無駄遣いしないよう、名前を書きましょう

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第29回 2018年度のOSCは名古屋から

宮原 徹(みやはら とおる)　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

OSC始めは尾張名古屋で

2018年度のOSCが始まりました。まずは5月19日(土)に開催されたOSC名古屋から今シーズンはスタートです。今後、沖縄、北海道、京都など主要都市を廻(まわ)りつつ、来春のOSC Tokyo/Springぐらいまで、毎月のように全国各地で開催していきます。この連載もすでに2年以上経ち、シーズンを2回廻してきてるのですが、それでもまだまだ書けることがたくさんあるのはすごいことです。それぐらい、OSCには毎回新しい出会いがあるということですかね。

名古屋は展示スペースが広いのですよ

OSC名古屋の特徴の1つとして、展示スペースがとても広いことが挙げられます。意外に出展者の数が多いからなのですが、一方でちょうどぴったりの広さの会場が借りられるわけでもないので、展示場を借りて、そこに展示ブース、ワークショップ会場、セミナー会場を同居させる形で利用しています。それでも使い切れないぐらい広いスペースがあるので、各ブースもゆったりしていて、出展者と来場者がじっくりと話ができる良さがあります。今回はとくに朝10時からたくさんの人が展示を訪れてくれて、熱気ムンムンでした(**写真1**)。

名古屋は学生さんがたくさんサポートしてくれています

数年前までの名古屋での開催は、開催規模に対してスタッフの少なさが大きな課題となっていましたが、年々学生サポートスタッフが増えてきて、スムーズに開催が行えるようになってきました。今年も、前日準備には名古屋工業大学や大同大学、当日運営には中部大学の学生さんが駆けつけてくれました(**写真2**)。

大事なことなので毎回書いていますが、OSCのポリシーとしてボランティアとして手伝ってくれているスタッフに何かの作業を強制することはしないようにしています。イベントとしての運営を下支えしてもらうことと、セミナーに参加したり展示を見て回ったりしてイベントを楽しむことの両立を目指しています。もちろん、OSCの開催時間はあっという間ですから両方を120%満たすことは難しいですが、今回も学生スタッフのみなさんが自主的に動いてくれているのを見て、頼もしく思いました(**写真3**)。

▼写真1　展示会場は1日中たくさんの人が来てくれて大盛り上がり

▼写真2　ポスターのデザインをしてくれた名古屋工業大学の齋藤孝徳さん。こんなところでも学生さんが活躍!

▼写真3　終了後にスタッフで記念撮影。1日お疲れ様でした!

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

会場で見かけたおもしろいもの

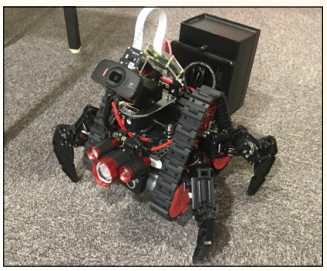
今回は開催直後に原稿の締め切りを設定したので、展示会場でおもしろいものを見つけるぞ！――と決めて、珍しくジックリと廻ってみました。今回、JPMUG(Japan MariaDB User Group)が出展していました。多分OSC初出展？　MariaDBはご存じのとおりMySQLから派生したOSSのデータベースですが、マスコットがアザラシです。というわけでブースでは白いアザラシのぬいぐるみを気前よく自由配布(**写真4**)。流線型のフォルムがなんとなく和菓子っぽい(？)2匹をいただいてしまいました。

浜松ポリテクカレッジでは、多足歩行ロボットをデモンストレーション(**写真5**)。青く塗ったら例のアレになりそうなフォルムで注目を集めていました。単に動くだけでなく、カメラで表情を認識して、それに応じて挙動が変わるという、ペットロボットのようなしくみも取り入れられているとのこと。これ以外にも全体的に電子工作などの出展が多いのが名古屋開催の特徴でしょうか。

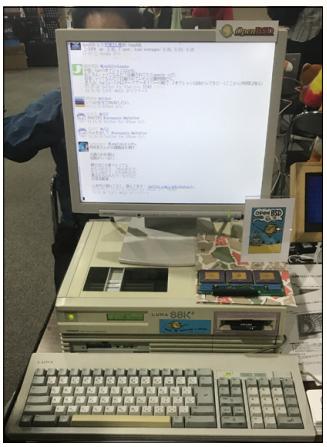
名古屋*BSDユーザグループでは、CPUにモトローラ製MC88100を使ったOMRONのLUNA-88K2でOpenBSDを動作させる動態展示を行っていました(**写真6**)。もともと廃棄物置場から回収したものにOpenBSDを移植して動くようにしたものだそうです。こういうレアマシンを見られるのもOSCならではですね。SD

▼写真4　ニョロッとした感じのアザラシぬいぐるみ。ストラップ付きなのでカバンに付けたらいいかも？

▼写真5　複合移動型ロボット「ペたた」が正式な名称だそうです。履帯で移動することもできます



▼写真6　LUNA-88K2稼働中。天板部分からCPUボードが見えるようになっています



Report

「焼き肉のコツを伝授」

今年のOSC名古屋の懇親会は焼き肉食べ放題(**写真A**)。昨年、一昨年と料理が少なくて悲しい思いをさせてしまったので、王道の食べ放題コースにしてみました。しかし、美味しい焼き肉を食べるにはそれなりのコツがあります。意外と知られていないので、ポイントを伝授したいと思います。

一番重要なのは焦がさないこと。焦げたお肉ほど美味しくないものはありません。そこで大事なのが「脂をしっかり鉄板に行きわたらせる」「火は強くし過ぎない」「野菜を使って蒸す」といったことを守る必要があるでしょう。お肉が焦げるのは、脂がない鉄板の上で強火で焼かれるから。焦らず、やや弱火かな(？)ぐらいの火加減でジックリと焼けば、誰でも美味しい焼き肉が焼けます。また、鉄板に直に触れると焦げやすいので、肉は一度野菜の上に乗せて間接的に加熱したあとに鉄板部分で手早く焼くと焦げにくくなります。ぜひお試しください。

◀写真A
懇親会でTシャツ争奪じゃんけん大会を開催。懇親会には80名以上が参加してくれました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第30回 台風6号にも負けず、OSC沖縄開催

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

まさかの台風発生!? そのとき現場は?

6月16日(土)にOSC沖縄が開催されました。沖縄というと、常夏！海と青い空！と連想される方も多いかもしれませんが、南国なので雨も多いです。そして台風の本場です。今回は開催直前に台風5号が発生していたので、その分大丈夫かな？と思っていたところ、突然台風6号が発生して、まさに開催日の朝から暴風雨に見舞われるという状況でした。

しかし、まだ台風シーズン本番前ということもあって、台風6号はそれほど勢力も強くなかったので、OSC沖縄は開催を決行。ばたばたの会場準備がどんな感じだったのか、時系列でお伝えします。

7時〜8時；だんだんと雨風が強くなる

宿泊先の那覇市内のホテルを8時に出発予定だったため、7時前に起床。ホテルの窓から眺めると、まだ雨風は強くなく、普通に傘を差して歩いている人もいます。1階に下りて外を眺めながら食事をしていると、徐々に雨風が強くなってくるのがわかります。出発の8時の段階では、傘を差すのが難しいぐらいの強風が吹き始めたのを感じながら会場に向けて車で出発。雨が強いので、ワイパーは速めにしないと追いつかないぐらい(**写真1**)。

9時〜11時；土砂降りの雨の中、荷物搬入と会場準備

会場は9時から借りていますが、台風の影響もあるので15分前から開けてもらいました。普段は荷物の搬入も建物の前に集積しておいて運ぶので時間的な余裕があるのですが、今回は濡らさずに置いておくこともできないので、会場が開いてから一気に運び込みます。このようなオペレーションの変更が発生すると、時間進行にズレが出てきて、後工程に大きく影響してきます。結局、すべての荷物の搬入が終わった時点で9時を過ぎていました。

さらに悪いことは重なるもので、いつもならば展示ブース用の机の配置が終わっているのに、今回は机も椅子も出ておらず、片付けられているはずのソファセットまで邪魔な位置に置いておかれるというマイナス状態から会場準備がスタート。展示スペースはそれほど広々としているわけではないので、現場合わせだけでも結構な手間がかかるのですが、机や椅子を並べる作業もしなければならないとなると大幅なタイムロスです。

たくさんのスタッフのおかげで何とか乗り切れた

幸いだったのは、地元の沖縄オープンラボラトリのみなさんがたくさんサポートスタッフとして協力してくれていたので、手分けして会場設営と来場者配布物の準備が行えたことでしょうか(**写真2**)。イベント運営は、どれぐらい手間がかかるのか事前に読むのが難しいので、たとえフタを開けてみたらやることがなくて暇だったとしても、スタッフは多めに参加してもらうに越したことはありませんね。

そんなこんなで、最低限の形を整

▼写真1　出発時のホテル前の木の様子。テレビの台風中継でよく見る状態

▼写真2　終了後、ガジュマルの樹の前でスタッフ記念撮影

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

えて、10時からのセミナーを開始することができましたが、準備はまだまだ終わりません。結局、場内案内などの準備が完了するのも含めると、11時ぐらいまでかかってしまいました。とくに9時から10時の間の最初の準備が忙し過ぎましたね。

イベント開催と危機管理

危機管理というと大げさですが、今回のようなことがあると、イベント開催におけるリスク要因をどのように織り込んでおくのかについて少し考えさせられました。

イベントは開催の日時や場所が決まっていますが、何かあった場合、参加人数が少なければ中止や延期で良いですが、参加人数が多く利害関係者が増えるほど中止や延期の判断は困難になります。今回のOSC沖縄の規模だと、スタッフ、出展者、来場者合わせて100名規模なので、気軽に中止できるほど小さくはありません。

今回は2日前から気象情報の変化を見ながら、最終的に台風6号はそれほど強くなく、影響は当日午前中

▼写真3
午後にはこの青空。自称晴れ男としては引き分けという感じです

だけと判断できたので良かったのですが、そのほかの災害などは突発的に発生しますし、判断は中止、延期に傾きがちでしょう。この記事を書いているまさに今日(6月18日)、近畿地方で大きな地震が起きましたが、今後同様のことが起きる可能性もあります。

OSCは幸い、開催コストそのものを抑えめにしているため、万が一中止になった場合でもダメージは大きくはありませんが、中止になったことの情報の伝達や善後策など、対処しなければならないことも多々あるため、まずは無事に開催できてホッとしています。

◆ ◆ ◆

結局、11時過ぎからは雨風も止み、

▼写真4　2次会はいつもの泡盛倉庫。「黄金まさひろ」の古酒と、海に沈めた海底酒を飲み比べ

▼写真5　前の日は天気が良かったので、まさひろ酒造の工場を見学

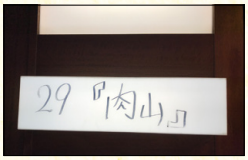
午後には晴れ間も広がり(**写真3**)、あの暴風雨はいったい何だったのだろう？という感じでOSC沖縄を終わらせ、那覇市内に戻って本番の懇親会、美味しい泡盛を飲む2次会と、沖縄の夜を満喫しました(**写真4**)。来年もOSC沖縄は開催予定です。観光も兼ねて、ぜひ参加してみてください。SD

Report

沖縄で肉山に登る

「肉山」というと、吉祥寺にある本店はなかなか予約が取れませんが、肉山 那覇は比較的予約が取りやすいので、沖縄を訪れるときに夕食に悩んだら予約してみることをお勧めしています。私もここ最近、沖縄に行くと1回は肉山におうかがいして、美味しいお肉を食べさせていただいております。

各お皿を登山の1合目、2合目になぞらえて、順々にお皿が出てきます。自分で焼いたりする必要もありませんし、食べやすく切ってあるので、おつまみ気分で美味しく味わえます。最後の締めは卵かけご飯か、肉入りのカレーで。



◀写真A
国際通り、牧志駅から徒歩5分ほど。隠れ家のような肉山の看板

◀写真B
希少部位のお肉が美味しくたっぷりと味わえます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第31回 夏の北海道で大盛り上がりのOSC

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと
北村 壮大（きたむら まさひろ） Twitter @nasa9084 日本仮想化技術株式会社

前回は沖縄でしたが、今回は北海道です。もともとOSCは開始2年目の2005年に東京のほか、北海道と沖縄の3ヵ所で開催したので開催地としては最古参のうちの1つです。すでに14回目。2日間合計で730名と過去2番目の来場者を記録（最高は2014年の800名）。すっかり北海道の地元イベントとして定着した感があります。今回は私も大忙しだったので、自分の行動を中心に開催の様子をレポートします。

台風7号の影響で荷物が届かない?

OSC北海道が開催された7月6日（金）、7日（土）には、台風7号の影響で西日本各地で大雨洪水となっていましたが、北海道も同様に旭川などで洪水が発生するなど影響が出ていました。この影響で東京方面からの荷物の運送が滞り、一部の荷物が準備段階で会場に届かないなどの問題が起きてしまいました。

数年前には津軽海峡を渡ることができず、会期中に荷物が届かないということが起きましたが、今回は何とか土曜日の朝には届けてもらえたので被害は最小限で済みました。配達期間に余裕を見て発送をお願いしてはいますが、どうしても遅くなってしまうことはあります。今回のように悪天候が見込まれる場合には、発送荷物が届かない最悪の場合でもセミナーや展示が行えるよう、ハンドキャリーで最低限の物品を持ってくるのが肝心かもしれません。

充実のセミナーラインナップ

OSC北海道にたくさんの参加者が集まる理由の1つとして、セミナーの数が多いことが挙げられます。土曜日だけで全部で9トラック、50セッションものセミナーが開催されます（**写真1**）。中にはさくらインターネットのIoTハンズオンや、カレーを食べながら話をする「カレーカンファレンス」などユニークなものもあります。かくいう私も、もともと自社のセミナーと、Linux技術者認定試験「LinuC」についてのセミナーの2つの講師を務める予定でしたが、ランチタイムのセッション枠がスコーンと空いていたので、ここぞとばかりにラズパイオーディオの会としてセミナーを急遽開催することに。あまり裏番組がなかったためか、50名以上の方が参加し楽しんでいただけました。とくに若い人が興味を持ってくれたらしく、その後懇親会でじっくりと音質を確かめてくれました。

そんな調子で土曜日の半分ぐらいはセミナー講師をしていたので、今回はあまりほかのセミナーに参加したり、展示をじっくりと見たりすることができませんでしたが、たまに展示スペースを覗（のぞ）くとみなさん楽しそうに話をしてくれていました（**写真2**）。

▼写真1 Elastic Stackを活用してログ解析をする方法について熱心に耳を傾ける参加者

▼写真2 今回も富良野緑峰高校、旭川高等専門学校の学生のみなさんをご招待しました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

また、初日は準備をしつつ、少しビジネス系のセミナーを開催する1.5日開催方式なのですが、こちらも常時50名ほど、ユニークで80名ほどの方に参加していただけました。これだけでも北海道の規模感としてはそれなりの人数が集まっているかと思いますので、今後も続けていくぞ！と励みになりますね。年に1回のOSCだけでなく、もう少し継続的に年間を通して小まめにイベントを開催していきたいところです。

大懇親会で沖縄の泡盛を振る舞ってみる

今回も大懇親会に170名以上の参加者が集まりました。会場は前回同様ANAクラウンプラザホテル札幌なのですが、前回は最上階で眺めは良かったものの狭かったので、今回は3階の広々としたバンケットホールでの開催です。昼間の本番とは別に懇親会も協賛したので、展示ブースとして机を1ついただいてしまいました。何をやろうか考えたのですが、ここはひとつ、北の大地のみなさんに南の島酒「泡盛」の美味しさを広めるエヴァンジェリストとしての活動を行ってみました(**写真3**)。

▼写真3　懇親会の展示ブースに並べられた高度数泡盛。後ろは弊社の伊藤宏通CTO

みなさん、食事や懇談に忙しくて大勢の方が押し寄せる、とまではいきませんでしたが、何人か泡盛好き！という方に66度や50度の原酒を飲んでみてもらったり、44度の3年古酒の味わいを楽しんでもらうなど、当初の目的は達成できたように思います。それ以外に、昼間はセミナーしかできなかったラズパイオーディオのデモ展示や、ライトニングトークでドローンをScratchから制御するなど、昼間の延長戦という感じで楽しむことができました(**写真4**)。結果、一口も食べられないという事態になってしまったので、2次会に行く前にスープカレー屋に(**写真5**)。そして札幌の夜は更けていくのでした。SD

▼写真4　ラズパイオーディオのデモ。富良野から招待した高校生が食いついてくれました

▼写真5　スープカレー。すすきのの「ショーリン」がホテルから近くてお気に入りです

Report

北海道はLTも大盛り上がり

OSC北海道実行委員、LT＆閉会式で司会を務めた北村壮大です。2016年から3回連続で司会を務めています。今回は8人の発表者に5分間のLT発表をしてもらいました。

他地域では比較的淡々と進行するLT大会ですが、OSC北海道では、司会も発表間のつなぎで積極的に会場を盛り上げるよう心がけています。また、各発表もおもしろく、尖ったものが多いので、OSC北海道のLTは毎年非常に盛り上がります。

今年も、1998年(！)の最新情報のLTから始まり、ejectコマンドや海外カンファレンスでの登壇話など、多彩なLTを披露してくれました。ステージ上でLTの順番待ちをしている間に、前の登壇者のネタをしっかりスライドに反映させる超技能も見物です。

また、大懇親会でもLT発表があります。なんと、大懇親会が始まってから資料を作成する様子も見ることができます。技術に関係のないLTも多く、一風変わった内容を楽しめるのが懇親会LTの魅力でしょう。

◀写真A
懇親会LTでドローンを飛ばす筆者(宮原)。撮影：三谷公美

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第32回 すがやみつる先生の講演に京都の夏が燃えた!

宮原 徹(みやはら とおる)　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

日本全国が記録的な猛暑に見舞われる中、暑さで知られるOSC京都が8月3日・4日の2日間、京都リサーチパークで開催されました。今回は招待講演に『ゲームセンターあらし』の作者でお馴染みのすがやみつる先生が登壇するなど、普段のOSCとはひと味違う開催となりました。

運営や展示に学生さんが大活躍

全国のOSCは学生のみなさんの献身的な協力のおかげで成り立っているといっても過言ではありませんが(本当に)、OSC京都はとくに学生のスタッフや出展が多い開催です。

今回も、前日準備の段階でたくさんの学生スタッフのみなさんがお手伝いに集まってくれました(**写真1**)。届いた出展者からの荷物の仕分けやブースへの配置、来場者配布物の制作など、いつもだと結構たいへんな作業も、たくさん集まってくれたおかげで人海戦術でいつも以上に早く終わりました。空き時間ができてしまったので、届いたばかりのソニーの小さなマイコンボード「SPRESENSE」をセットアップして動かしてみたり、ドローンを飛ばしてみたりと、準備だけでなくおもしろいことも一緒に楽しんでもらえました。

当日も、受付や来場者の誘導などの運営スタッフのほか、展示ブースでアイロンビーズ体験や、キーボードのキートップや基板を活用したアクセサリの販売など、来場者が楽しめる展示をしてくれました(**写真2**)。

このように学生さんが活躍してくれる開催は京都の伝統になりつつあります。今回は過去に学生スタッフとして参加し、現在は社会人となった人たちも何人か来場してくれていましたし、伝統がつながっていくといいですね。

招待講演『「学ぶ」ということについて』

今回、若干個人的な動機による企画として、招待講演を行いました。講師にお招きしたすがやみつる先生は、現在京都精華大学マンガ学部キャラクターデザインコースの教授を務められています。我々の世代(40代後半)からするとアニメにもなった『ゲームセンターあらし』が代表作ですが、実は『こんにちはマイコン』(小学館／1982年)というマイコン(今でいうパソコン)を紹介する教育マンガを描かれています。このマンガでマイコンに目覚め、そのままIT業界で仕事をするようになった人も多数います。もちろん、私もその一人なのですが。

講演では、生い立ちからマンガ家になったこと、マイコンにはまり、その後パソコン通信を始めて海外

▼写真1
前日準備の様子。来てくれた人数が多かったのであっという間に終わりました

▼写真2
2日目の朝に撮ったスタッフ記念写真。運営に、展示に、頑張りますよ!のガッツポーズで

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

とF1の情報を交換するようになったことなど懐かしいお話ばかりで、「あらし世代」には大うけでした。が、そのほかの若い聴講者には若干「はてな？」という感じだったかもしれません。

その後、57歳でeラーニングで早稲田大学に入学、さらに教育工学の修士課程を修了し、京都精華大学で教鞭をとるようになった経緯をふまえて、大人の学び直し（リカレント教育）に大事なことをお話いただきました。とくに私がそのとおりだと思ったのが「プライドを捨てる」ということ。確かに、ある程度大人になると、自分の成功体験に縛られて、新しいやり方にチャレンジできなくなったり、物事を低く見たりすることが増えてきます。それらを捨て去り、素直に学ぶ姿勢というのはどんな年齢でも大事なことだと思いました。また、おもしろいことをどんどんする、という姿勢も大事とのこと。このあたりはOSCに集まる人たちは実践できているなと感じました。

▼写真3　すがやみつる先生にお願いしてMacBookにあらしを描いていただきました。感激しすぎて酷い顔になってます

懇親会にも参加いただき、参加者と交流を深めたり、サイン会になったりと大いに盛り上がり、お招きした甲斐のある招待講演でした（**写真3**）。

SD編集部 宮島さんが取材に来てくれました

Software Design編集部の宮島幸太さんがはるばる京都まで取材に来てくれました（**写真4**）。さらに私がガイドをつとめるブースツアーにも同行して、いろいろと取材していってくれました。レポートを書いていただけるということなので、詳しくはそちらの記事をご覧ください（p.178、およびhttps://gihyo.jp/news/report/2018/08/1701）。宮島さんの目にOSC京都がどのように映ったのか、楽しみですね！

SD

▼写真4
宮島さんを逆取材。放浪記のページを開いて記念撮影しました

Report

京都は日本酒が美味しいです

夏の京都はやはり日本酒です。キリッと冷やした冷酒を飲みながら、暑い夜を過ごします。昨年発見したとある日本酒バーは、メニューがなく、マスターに飲みたい感じを伝えるとそれに合った日本酒を出してくれるシステムになっています。今年もOSC京都の1日目が終わったあと、2次会でうかがいました。

まずは「京都の夏」というフワッとしたオーダーをしたのですが、同じようにオーダーした2人に別々の日本酒、しかも飲み比べ3種なので合計6種が出てくるマニアックぶりです（**写真A**）。そのあと、あれこれオーダーすると、予想の斜め上を行く日本酒が出てきて、ついうっかり飲み過ぎたのですが、美味しかったせいか翌日はすっきりでした。とても小さな店なので店名は伏せておきますが、ネットで検索すれば見つけられると思うので興味がある方は探してみてください。

◀写真A
（左）最初に出てきた「京都の夏」3種。「真夏の！」が頼もしい限りです
（右）カウンターに並んだ日本酒たち。まだ空いてますが、このあと常連さんで満員になりました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第33回 ODCで開発について考える2日間

宮原 徹(みやはら とおる) Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

オープンデベロッパーズカンファレンス(ODC)は、昨年から開催を始めた開発に関するカンファレンスです。オープンソースカンファレンス(OSC)はセミナーのテーマがオープンソースソフトウェアの「使い方」に寄りがちですが、ODCでは「開発する」というテーマに絞りました。

今回も、OSSの開発や自動化、スマホアプリの開発など、幅広い開発に関するテーマのセミナーが行われました(**写真1**)。

ODC実行委員会によるプログラム編成に手応え

OSCも各地域での開催では実行委員会を編成して企画や運営を行っていますが、東京のOSCは規模も大きいため実行委員会を組んでの企画・運営を行っていません。一方、ODCは2日間で来場者も400名程度とほどよい規模感なので、実行委員会でアイデア出しをして、講師をお願いするプログラム編成も行ってみました。

昨年も実行委員会によるプログラム編成を行ってみましたが、アイデアはたくさん出たものの、具体的に話してもらえる人を見つけるのが困難だったため、あまりうまくいきませんでした。そこで今回は、話してほしいテーマと講師をセットでアイデア出ししてみました。この方法だと、アイデア出しの段階で誰にセミナーを依頼すればいいか明確なので、実行委員からのお願いでいくつかのセミナーが実現しました。それほど数は多くはありませんでしたが、新しいやり方のコツがつかめたので、今後のOSCやほかのイベントでも同じパターンで企画していけそうです。

挫折させない開発勉強会

相変わらず運営で忙しいのでゆっくりとセミナーに参加できないのですが、前述のように実行委員会からお願いしたセミナーのうち、板谷晃良さんの「挫折させないiOS App開発勉強会の裏側」に参加しました(**写真2**)。

学生時代に行ったアプリ開発勉強会についての経験談で、あらかじめ用意しておいたサンプルコードを少しだけいじってもらう、という工夫をしていたとのこと。言語の学習にはソースコードを全部入力させる「写経」が有効という話もありましたが、スマホアプリなどの場合には、まずは全体像をつかんでもらうことが理解の助けになるようだというお話でした。

ラズパイオーディオハンズオンを開催

ODCは1日目が各種セミナー、2日目はLLイベントやコミュニティ企画が開催されましたが、私自身はラズパイオーディオ関係のコミュニ

▼写真1 フォワードネットワークの展示。強化学習で板の上のボールがきれいに転がるようになります

▼写真2 板谷さんの講演の様子。勉強会の対象は初心者と経験者の両方をカバーしたとのこと

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

ティ企画を行いました。

まず午前中はラズパイオーディオハンズオンということで、Raspberry PiとUSBオーディオインターフェースを接続して音が鳴るようにしました。音は段ボール箱に穴を開けてスピーカーを取り付けるという手作り感満載の企画です。過去に何度か開催してきましたが、今回も11名の方が参加してくれました。実際に音が出たときの達成感を感じてくれるのは、毎回教えていて楽しい瞬間ですね。

夏のラズパイオーディオミートアップも開催

午後はラズパイオーディオミートアップを開催し、Raspberry Piで音楽を鳴らすためにいろいろな開発をされている方3名にお話をしていただきました。参加者も40名以上と、思ったよりもたくさんの方が集ってくれました。

ワンボードオーディオコンソーシアム代表の海上忍さんによる発表では、独自に開発されているディストリビューション「1bc」に関心が集まりました。現在独自に開発を進めているが、リリース後はオープンソースにして開発を進めるとのことで、リリースが待ち遠しいですね。

2番目のTakazineさんは、Sabre BerryシリーズなどのRaspberry Pi用DACを独自に開発していますが、その背景にあるさまざまなノウハウを語ってくれました。オーディオ機器開発のプロの話を聞けるのは貴重な機会ですが、半分ぐらいは難しすぎてわからなかったので、デジタル回路の基本から勉強しないといけないですね。

3番目の㈱あおごち代表の山田斉さんは、ラズパイオーディオ用のケースなどを制作・販売していますが、このケースに組み込む各種電子デバイスについて解説してくれました。スイッチやボリューム、OLEDなどを使うと、ラズパイオーディオがより快適になるということで、工作意欲が高まる内容でした。

▼写真3
kitamura_designの球形スピーカー。真ん中のプレーヤ部分にラズパイが組み込まれています

さらにLTでは、独自に開発されているiOS用オーディオ再生操作用アプリや、球形スピーカーが紹介されるなど、ODCにふさわしい開発の実践例を発表いただき、参加者の満足度も高かったと感じました(**写真3**)。スマートフォンなどで手軽に音楽を聴けますが、自分で再生環境を自作するのも楽しいですよ。ぜひ、みなさんも試してみてください。SD

Report

沖縄で避暑？　おもにビール

ODCが終わったあと、会社で所属している沖縄オープンラボの会議に参加するため、沖縄に行って来ました。初日はサミットも開催された万国津梁館でオープンソースとビジネスについてのディスカッションを行い、翌日は那覇市内で人材育成について話し合いました(**写真A**)。

どちらの議論でも感じたのが、大きな会社になるほど、オープンソースに取り組むにはコンプライアンスが壁として立ちはだかっているということ。そのような課題を解決しようと頑張っているうちに、OSSを活用したり、自社で開発したソフトウェアをOSSにしたりするようなオープンな会社が成長し、エンジニアを獲得している現状を考えると、なんだか複雑な気持ちになります。

そんなモヤモヤを吹き飛ばすべく、夕陽を見ながらオリオンビールを飲んだり、土砂降りの雨の中、ヘリオス酒造のクラフトビールを飲んだりして、東京よりもなぜか涼しい沖縄の夜は更けていきました(**写真B**)。

◀写真A
沖縄オープンラボのエンジニアメンバーと。夕陽が強すぎてハレーション起こしてます

◀写真B
ヘリオス酒造でクラフトビール。議論の延長線上であーだこーだやっています

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第34回 南島原市からIT/IoTソリューションを発信するために

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

みなさんは長崎県南島原市をご存じでしょうか？　長崎県の島原半島にあり、歴史的には島原の乱があったことで有名です。一揆軍が立てこもった原城が先日、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界文化遺産に登録されました。海あり山あり温泉もあり、風光明媚な土地です（**写真1**）。主な産業は農業や漁業、そして手延べ素麺（そうめん）の製造も盛んで、みなさんも食べたことがあるのではないでしょうか。

そんな南島原市を今、IT/IoTの人材集積地にしようと3年ほど前から活動しています。「なんで南島原市で？」と思うかもしれませんが、いわゆる田舎特有の閉鎖的なところがなく、外部からの人材流入を歓迎する空気があり、少しずつUターンIターンで南島原市に移り住む人が出てきています。こんなところでIT/IoTの研究開発を行えるようにしたらおもしろいのではないか？　そう思って活動を始めました。今回は南島原市で開催したアイデアソンの様子を紹介したいと思います。

南島原ローカルITサービス創発塾

まず9月7日から9月9日の3日間開催されたのが「南島原ローカルITサービス創発塾」のアイデアソンです。今年で3回目となるイベントで、地域の課題をITで解決しようという趣旨で開催されています。1回目には参加しましたが、2回目はOSCの日程と重複したため参加できず、久しぶりの参加です。今回は「体験型民泊」「世界遺産」「移住」の3テーマに分かれて、それらの業務に従事されている方へのインタビューを行い、グループ内のディスカッションを経て、最後はアイデアをプレゼンするという流れで活動を行いました。

移住してもらうにはどうしたらいい？

私は移住グループに入り、まずは南島原市のSWOT分析（強みや弱みを抽出する）を行い、そこから課題を取り上げ、解決策を考えます（**写真2**）。課題として挙がったのが、すでに住んでいる人でも地域のお店などの情報が入手しづらいということ。基本的に口コミで情報が広がる土地柄で、情報チャネルが整備されておらず、またネット上にもあまり情報が掲載されていません。確かに、住む場所を探してみようと有名な不動産情報検索サイトで南島原市の物件を検索しようとしても、1件も登録されていない状態です。

▼写真1
ドローンを飛ばして原城を海上から撮影してみました。南島原市はドローン飛ばし放題です

▼写真2
地元チームと外部チームに分かれてSWOT分析。お互いが南島原市をどう見てるか比較しながら課題を抽出します

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

これでは移住どころか、住んでいる人も不便すぎます。というわけで、私のグループでは地域情報サイトを立ち上げて情報をきちんと掲載していけるようにしよう、ということになりました。まったく革新的なアイデアではありませんが、まずは基礎が大事だよね、ということで、10月に開催されるハッカソンで実際にサイトのプロトタイプを開発する予定です(**写真3**)。

南島原 IoT Hack Day 2018にも参加

翌週には「南島原 IoT Hack Day 2018」が開催されました。こちらはIoTに特化したアイデアソンで、農業チームと漁業チームに分かれてIoTソリューションを考えました。私は漁業チームに入り、フグの陸上養殖、ハマチなどの洋上養殖を行っている事業者さんにインタビューをさせていただきました。実際にフグが大量に養殖されているところや、

▼写真3
2つのアイデアソンの間、私も南島原市にお試し移住。現地のチームメンバーと家飲みで作戦を立てます

船で海の上の養殖生け簀にまで連れて行っていただくなど、普段なかなかできない経験をさせてもらいました(**写真4**)。

魚の養殖での共通の課題は、魚の数を数えたいということ。現在は出荷時の水の体積などからだいたいの数を推測しているが、もっと正確に数えられないか、という要望です。魚を出荷する際にはポンプで吸い上げてパイプ伝いに水槽に移すそうなので、このときにセンサーを使ってカウントできそうです。実は同様のソリューションはすでにあ

▼写真4
船に乗せてもらって、洋上の養殖魚を見に行きます。漁業チームは平均年齢高めでした

るようなのですが、非常に高額でコスト面で採用できません。原理は単純ですから、現在はアイデア段階ですが、Raspberry Pi＋電子工作でプロトタイプぐらいはできそうですね。そのほか、病気になった魚を画像解析で見つけるなど、いろいろなアイデアが出て、充実した2日間でした。現在、さまざまな地域で課題を解決するためのアイデアソンやハッカソンが開催されています。みなさんもぜひ参加してみてください。

SD

Report

合宿形式で濃密な議論を可能に

南島原市でのアイデアソンは「エコパーク論所原」というキャンプ場に泊まり込みで行っています(**写真A**)。島原半島は火山による造山活動でできたため、非常に起伏が激しい地形です。この傾斜地を利用して造成しており、とても景色の良い高原のキャンプ場になっています。別荘地のようにキャビンに宿泊できるので、お酒を飲みながら夜遅くまで議論をすることができます(**写真B**)。薪でご飯を炊いてカレーを作ったりもしますので、アウトドア気分も楽しめます。今後も頻繁に開催しますし、ご案内もできますので、開発合宿をやりたい！という方がいらっしゃれば私までご連絡ください。

▼写真A　エコパーク論所原の素敵な景色。週末にはオートキャンプを楽しむ人で賑わいます

▼写真B　キャビンの中での飲み会の様子。ほかのグループの議論の様子を聞いたり、アイデアを出し合ったりします

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第35回 日本酒三昧! OSC新潟に行ってきました

宮原 徹(みやはら とおる)　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

11月10日(土)にOSC新潟が開催されました。ここ2年ほどは長岡市での開催が続いていましたが、2018年は3年ぶりに新潟市に戻っての開催です。新潟といえば酒処、日本酒が美味しい土地です。今回も美味しい日本酒を楽しみにして新潟に行ってきました。

燕三条の包丁工場で感動

今回のOSC新潟の会場は市立図書館のホールを使用することもあって前日準備ができなかったので、ややゆっくりめの新潟入りです。現地の方が車で迎えに来てくれるということなので、上越新幹線で新潟駅のやや手前、燕三条駅に降り立ちました。燕三条といえばステンレスなどの洋食器生産で有名な土地です。昔はiPodの裏側がツルツルなのも、燕三条の磨き職人さんが1つ1つ手作業で磨いていたということで話題になりました。ちょうどテレビドラマ「下町ロケット」の舞台として燕三条が使われているらしく盛り上がっているようでした。私は見ていないのでよくわからない中、事前にいろいろと調べた中で包丁を作っている工場が見学できる「藤次郎オープンファクトリー」(https://tojiro.net/)を訪問してみました。

お洒落なインテリアのショールームに、たくさんの包丁が並んでいます。一般的な包丁は合金板から打ち抜いたものを研磨して作るそうですが、やはり鍛造で作っている一点物は、表面に現れる波紋が全部異なっているそうでとても美しいです。私は料理は全然しないのですが、見ているとお料理をしてみたくなりますね。自由に見学できる工場も包丁作りについて勉強になることしきり。こういった工場見学も、各地域の産業を理解するうえで欠かせないので、今後の各地のOSCでも続けていきたいと思います。

新潟のワインと日本酒と

次に新潟でワイン造りをしている「カーブドッチ」を訪問しました。包丁をいろいろ見すぎてしまって到着が遅くなり、ショップの閉店15分前に飛び込みましたが、白ワインと赤ワインを試飲し、木箱入り赤ワイン6本セットを購入しました。新潟の海岸に近い土壌は砂が堆積してできているため、水はけがよく痩せていて葡萄の生育に向いているのだそうです。試飲できなかったワインもセットには含まれているので、年末にゆっくりと飲もうと思います。

▼写真1　日本酒で乾杯。たくさん飲みましたが、不思議と翌日残りませんでした

▼写真2　締めはサッパリしたへぎそばで。いくらでも食べられてしまうのが不思議です

その後、新潟駅前のホテルにチェックインしたあと、前夜祭として居酒屋に(**写真1**)。日本海の美味しい魚と、新潟の地酒が飲み放題。全部で11銘柄ありましたが、全種類を制覇してしまいました。そのあと、布海苔が入っていてツルツルしている新潟独特のへぎそばで締めて、翌日のOSC新潟本番に備えました(**写真2**)。

少人数ながらも満足度の高いOSC新潟

10時開場、11時開始となかなかタイトなスケジュールでしたが、朝からスタッフおよび出展者総出で机や椅子を並べたり、電源配線したりと会場設営を行って、なんとか予定どおりスタートすることができました。会場のホールをステージ側がセミナー、後ろ半分を展示スペー

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

スと分けたので、出展している人たちもセミナーを聴いていられるというメリットがあります(**写真3**)。今回は参加者が全部で70名とほかの開催に比べれば少なめでしたが、全体として一体感があり、出展者からも満足の声が上がる開催となりました(**写真4**)。

私は昼食休憩明けの13時からGitについての話をしたのですが、時間になってもあまり人が戻ってこない？　会場の図書館は住宅街の中にあるので、近隣にあまり飲食店がなく、みなさん遠くまで食事に行っていたようです。話しているうちにみなさんがゾロゾロと帰ってきて、会場が賑やかになりました。会場が飲食禁止でなければ何か配達してもらって会場で食べることもできるのですが、このあたり、次回への課題ですね。

次回は、これまた日本酒が美味しい島根・松江でのOSCの様子をお伝えする予定です。SD

▼写真3
セミナーの間の休憩時間は展示コーナーで情報交換。ちょっと狭いですが、一体感があって良いですね

▼写真4
スタッフおよび最後まで残ってくれた人たちで集合写真。このまま皆で懇親会になだれ込みました

Report

日本酒だらけのOSC新潟懇親会

OSC新潟の懇親会といえば、新潟の美味しい日本酒の飲み比べです。今回は乾杯用に甕(かめ)に入っていて柄杓(ひしゃく)で注ぐ萬寿鏡の「甕覗(かめのぞき)」という日本酒が用意されておりました。そのほかにも精米歩合40%の「萬寿鏡F40」のような初めて見る日本酒など、バリエーション豊かな日本酒の飲み比べで、大満足の懇親会でした(**写真A**)。

▼写真A　用意された日本酒と一緒に記念撮影。真ん中にある甕には一升(1,800ml)入っています

しかし、翌日朝早めに帰宅するために新潟駅に来ましたが、時間が余っていたので駅前の「ぽんしゅ館」で利き酒をしてみました(**写真B**)。93の酒蔵の日本酒を、500円で5種類まで試飲できるコーナーがあり、朝9時30分から営業しています。帰る前にお気に入りの日本酒を見つけて、お土産に買って帰るのもいいですね。

▼写真B　ぽんしゅ館の利き酒コーナー。ズラッと並んだ機械にコインを入れてボタンを押せばお猪口(ちょこ)に注がれるしくみです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第36回 島根、長崎とたまにはイベント参加を楽しむ

宮原 徹(みやはら とおる)　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

OSC島根でラズパイオーディオ

OSC新潟で日本酒三昧したばかりですが、11月23日(金)に開催されたOSC島根でも日本酒三昧してきました。出雲国造り神話もあるとおり、太古の昔から歴史のある島根は日本酒造り発祥の地でもあります。毎回、美味しい日本酒を楽しませてもらっています。もちろん、OSC島根も楽しんできました。

OSC島根はスタッフがたくさんいるので運営は地元のみなさんにお任せして(**写真1**)、私はラズパイオーディオの会として出展してみました。Raspberry Pi自体は島根でも幅広く使われているようで、たとえば同じスペースに出展していた松江工業高等専門学校でも学校内の温度などをセンサーで測ってデータを集める展示などを行っていました(**写真2**)が、趣味性の高いオーディオで使うのは目新しかったらしく、興味深くブースを訪問してもらえました。

一人LT3本勝負は惜敗

また、セミナーは1部屋だけで15分一本勝負というスタイルですが、私は「プログラミングでドローンを飛ばす」「ラズパイオーディオ」「git入門」を一人LT形式で5分×3本という無謀な挑戦をして、結局gitはしくみだけ話してあとはSlide Shareにアップされている資料を見てね、という残念な結果になってしまいました。それぞれ3分ぐらいずつで話すつもりで準備をすればいけるかな？　次回はOSC浜名湖で15分スタイルの発表機会があるはずなので、その際に試してみようかと思います。

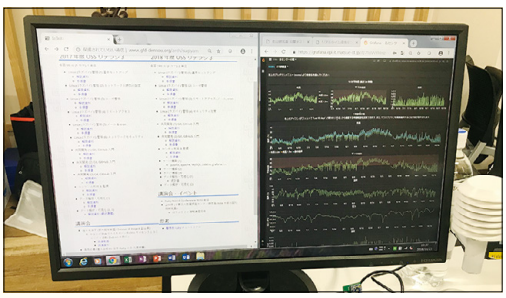
世界文化遺産「原城跡」をマッピング

OSC島根の1週間後、12月1日(土)に、今度は以前紹介した長崎県南島原市でOpenStreetMap(以下、OSM)のマッピングパーティを開催しました。南島原市にある原城跡は世界文化遺産にもかかわらず、OSM上ではわずかに線が引かれている程度で、ないに等しい状態でした。8月に東京で開催された「State of the Map Japan 2018」のLTで呼びかけたところ、たくさんのマッパーの方がはるばる南島原市まで集まってくれました。

私も含めて何名かはマッピング作業自体が初めてなので、OSMアカウントの作成からスタートです(私はアカウント作成は以前していたのでパスワード再設定)。今回は地元の島原翔南高校から先生に勧められて高校1年生が1名参加してくれました。パソコンはそれほど詳しくない、ということで、私自身も初めてですがマンツーマンで教えながら作業を行いました(**写真3**)。

▼写真1　OSC島根の運営スタッフのみなさん。インドから松江市に交流で来ている女性もLTのドラ担当としてお手伝いしてくれました

▼写真2　松江工業高等専門学校のRaspberry Piのデモ。収集したデータをグラフで可視化すると、いろいろな傾向が見えてきておもしろいですね



本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真3　事前準備の様子。左側が参加してくれた高校生の中山颯太さん。泊まり込みから翌日のフィールドワークまでフル参加してくれました

マッピングは意外と楽しい

アカウントの作成やツール(JOSM)の初期設定などが終わったところで昼食を取りつつ、当日現地入りの人たちと合流し、本格的にマッピングパーティがスタートです。まずはフィールドワークということで、原城跡をうろうろと歩き廻り、写真などを撮っていきます。GPSを有効にしておけば、あとでその写真がだいたいどのあたりで撮ったものかわかりますが、印刷した地図にもメモしていきます。原城跡は遺構などがあまり残っていない城跡ですが、起伏に富んだ地形にあるため、マッパーの人たちもかなり楽しんでいただけたようです。予定の1時間を大幅に超えたところで、作業場所に移動してマッピング開始です。私は原城にある温泉施設の前に置かれている「獅子吼」というライオンの像をマッピングしてみました。この像は長崎の平和公園にある平和祈念像を制作した彫刻家、北村西望氏が地元出身ということで置かれています。実際の地図と重ね合わせて、OSM上にオブジェクトをマッピング、アップロードすると、しばらく経ってOSM上に情報が現れます。これで世界中の人から見てもらえるようになるということですので、なんだかうれしくなりますね。ほかの人も思い思いにマッピングを行って、何も書かれていなかった原城跡の地図が、それなりに見られるようになりました(**図1**)。

南島原市内には、古い街並みが残っているため、お地蔵さんや道祖神、記念碑等々がたくさんあります。今後、地域の高校生や中学生などを巻き込んで、マッピングパーティを継続的に開催していく予定です。どんなことになっていくか、楽しみですね。SD

▼図1　できあがった原城跡の地図。上にある案内所とトイレは中山颯太さんがマッピングしてくれました

Report

OSC島根の前にぶらぶら観光

OSC島根は3連休の初日に開催ということもあり、少し早めに現地入りし、まずは日本庭園が有名な足立美術館へ(**写真A**)。見事な日本庭園と、充実の横山大観のコレクションの両方が楽しめます。やや遠いところにありますが、JR安来(やすぎ)駅からシャトルバスも出ていますので、ぜひ一度足を運んでみてください。季節ごとに異なる景色が楽しめるので、何度行っても飽きませんね。

今回は車で行ったので、そのあとに有名なバリスタの方がやっている喫茶店でエスプレッソをいただいたり、境港まで行って海鮮丼を堪能したり(**写真B**)。そして夜は毎回訪問している松江駅前の居酒屋「根っこ」にお邪魔して、あまりよそでは飲めない島根の日本酒「王禄(おうろく)」を飲み比べ。翌日からのOSC島根に向けて鋭気を養いました。

◀写真A
足立美術館の庭園。遠くの山が借景になっています。あいにくの天気でしたが、水墨画のようで風情がありますね

写真B▶
境港の市場で海鮮ランチ。新鮮な刺身に煮付けと、味もボリューム感も満点です

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第37回 2018年末は国際色豊か？ アフリカ、そしてアジアからも

宮原 徹（みやはら とおる） Twitter @tmiyahar 株式会社びぎねっと

早いもので2018年も終わり、1年間で15回ものオープンソースカンファレンス（8月のオープンデベロッパーズカンファレンス含む）を開催してきました。ほぼ毎月のように全国各地のみなさんにお会いして、そして飲んできましたが、その締めくくりとしてOSC福岡、さらに東京で開催されたOSC.Enterpriseについてレポートします。

OSC福岡は今年も学生がたくさん参加

2018年12月8日（土）にOSC福岡が開催されました。

OSC福岡の特徴と言えば、毎回学生のみなさんがたくさん参加してくれるということです。今年もいくつかの大学、専門学校の先生が呼びかけをしていただいたおかげで、たくさんの学生さんが参加してくれました（**写真1**）。

何人かの学生さんに声をかけて話を聞いてみましたが、Linuxなどは演習などの環境として普段から使ってはいるものの、あまりオープンソースソフトウェアであることは意識していないということ。このあたりがこの10年で大きく変わったところだなと感じます。利用する人のすそ野は確実に広がっている一方で、OSSの理念的なところはそこまでは広がっていない。というか、ごく当たり前にOSSがあるので、オープンではないものとの違いを意識しないでいいということなのでしょう。幸せなことではありますが、今後のことを考えると、啓蒙活動も大事な点ですね。毎回、若い人たちから学ばされます。

今回は早めに福岡入りをして、いくつかの学校を訪問して、来年はぜひ参加だけでなく出展も、とお願いしてきましたので、来年の開催はもっと賑やかになるかもしれません（**写真2**）。

アフリカのOSS事情について聞いてみた

東京に戻って、2018年12月14日（金）にOSC.Enterpriseを開催しました。名前のとおり企業向けのOSSソリューションが中心のテーマですが、今回アフリカから日本にインターンとして来ているナミビアのTomas Kapiye氏、ルワンダのDieudonne Dukuzumuremyi氏、エジプトのHatem Wasfy氏の3氏がプレゼンテーションを行ってくれました。

Tomas氏は少し日本語がわかるということで、日本語と英語を混ぜてプレゼンテーション。LibreOfficeのアフリカーンス語へのローカライズについて話してくれました。Dieudonne氏はLibreOfficeのQA（品質保証）について話してくれました。Hatem氏はLibreOffice OnlineとNextcloudを組み合わせた、ク

▼写真1
前日準備にはISIT（九州先端科学技術研究所）のみなさんもお手伝いに来てくれました。毎回ありがとうございます

▼写真2
お昼休みの時間帯、受付前は参加してくれた学生さんのアンケート提出とくじ引きで大混雑です

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

ラウド版オフィス環境についてデモしてくれました(**写真3**)。

アフリカでも、企業などはWindowsとMS Officeを使うことが多いそうですが、大学では予算などの関係もあってオープンソースが活用されていて、LinuxやLibreOfficeがたくさん使われているそうです。また、さまざまなネットベンチャーも生まれてきていて、クラウドが活用されているそうなので、日本のような状況になってくる日も近いかもしれませんね。

香港のオープンソースカンファレンス

2018年の年末は国際色豊かなゲストが多く、クリスマス休暇を利用して香港からCalvin Tsang氏が来日されました。Calvin氏は香港のオープンソースカンファレンスである「HKOSCon」やPythonのカンファレンスである「PyCon」などの運営をされているそうです。たまたまツテで知り合ったので、日本のOSC関係者やシビックテック関係の人たちに集まってもらい、日本のコミュニティの現状をお話ししたり、香港での活動についてお話ししてもらったりしました(**写真4**)。

アジアでは、HKOSConのほかに、台湾でCOSCUP(Conference for Open Source, Coders, Users and Promoters)というイベントも開催されており、日本からも何人かが参加しています。これらのイベントで香港、台湾、日本がゆるやかにつながり始めており、2019年は各イベントで海外ゲストトラックを持ちたい、という提案を受けました。まさにこの原稿を書いている最中に、以前来日された際にお会いしたCOSCUP関係者から連絡があり、OSC東京春に行くからよろしく、OSC東京秋では海外ゲストトラック作らせてよ、とのこと。というわけで、2019年はさらに国際色豊かにあれこれ活動していくことになりそうです。SD

▼写真3 プレゼンしてくれた3人と、LibreOffice Japanese Teamの榎真治氏とで記念撮影

▼写真4 Calvin Tsang氏と集まったみんなで記念撮影。あまり集まらないかと思って会場変更したら思ったより集まりました

Report

2018年の締めくくりも飲んでました

この連載も37回目と4年目に突入しましたが、相変わらず飲んでいます。OSC福岡では前日準備終了後、「博多うま馬」で前夜祭。この店は博多ラーメンの源流である「三馬路」というお店の流れを汲む店らしく、コースの最後に半ラーメンが食べられるので、締めのラーメン店を見つける必要がないという、うれしいんだか悲しいんだか(**写真A**)。

そしてOSC.Enterpriseのあとは、OSC全体の忘年会を兼ねての懇親会。2019年に向けて鋭気を養いました(**写真B**)。

▼写真A 冬の博多はやっぱりモツ鍋。明日の本番に向けて締めのラーメンまで一軒で終わりにできるのはありがたいですね

▼写真B OSC.Enterpriseの懇親会。来年はもう少し広い会場を探さないとダメかも

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第38回　2019年はOSC大阪からスタート!

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

2019年最初のOSCは大阪の開催です。1月25日(金)、26日(土)の2日間、毎回恒例の産業創造館(大阪市中央区)での開催です。この時期の開催は雪などの天候が不安なところ。京都、奈良あたりでは雪が降ったようですが、大阪では幸い降らなかったこともあり、2日間で350名が参加してくれました。大阪は、なんとなくほかの開催地よりも年齢層が若いような気がする、活気のある開催となりました。

朝の準備で大忙し

2日間の開催ですが、前日は会場の一部しか借りることができないため、2日目の準備は朝一番から行わなければなりません。ブース展示をする3階と4階に、前日に5階で受け取った荷物を降ろす作業は、荷物が多い分だけたいへんです。それでも朝イチから学生スタッフのみなさんはじめ、出展関係者もお手伝いしてくれたお陰で比較的短時間で準備を終わらせることができました。ただ、出展関係の準備に気が行きすぎたせいか、セミナー会場のプロジェクタの準備がギリギリになるというハプニングもありました。

本当なら前日に余裕を持って準備をしたいところですが、開催規模が大きくなるとなかなか思いどおりにならないこともあり、このあたりがイベント開催の難しいところです。

セルフハンズオンでLチカし放題

今回、新しい企画として、セルフハンズオンを企画してみました。通常、ハンズオンセミナーは講師やアシスタントがいて、解説を行いつつ実際に手を動かして試してみる形で進めますが、セルフハンズオンでは資料を見ながら自分一人で進めてもらう形を取っています。そのため、あまり難しいことや複雑なことはできません。

手軽にできる題材としてRaspberry Piを用意して、Pythonでプログラミングをして LEDを使った信号機をチカチカさせる、いわゆる「Lチカ」を選びました。8名分の機材を設置し、実際に来場者に触ってもらいましたが、最大でも同時に7名が試してくれて、1日の間それなりの人数の人が遊んでくれました(**写真1**)。また、実際にやってみてもらって、用意しておいた資料に不備があるなどもわかったので、改良したものを今後各地のOSCで展開していこうと思います。

太陽の塔に行ってきた

大阪といえば大阪万博の開催が決まりましたが、前回1970年に開催された万博のシンボルといえば太陽の塔です。実は私の住んでいる川崎市や、オフィスのある渋谷などは制作者である岡本太郎に縁が深く、作品をいくつも見ることができるのですが、代表作である太陽の塔を見たことがありませんでした。今回は前日入りの時間を前倒しにして、リニューアル公開された太陽の塔に行ってみました。

近くで見るとさすがに大きく(高さ約70メートル)、存在感十分です(**写真2**)。中に入ると、復刻された第4の顔(地底の太陽)と世界中のさまざまな仮面が展示され、プロジェクショ

▼写真1
セルフハンズオンの様子。みなさん、テキストを見ながらもくもくとLチカしてくれました

▼写真2
夕陽に照らされた太陽の塔。遠目からでも想像よりも大きくてびっくりしますね

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

ンマッピングが鑑賞できます。さらに塔の内部にある生命の樹の周囲を、さまざまな生物を鑑賞しながら階段で上っていきます。音響効果も考えられた塔の内部は、さまざまな色でライティングされて、幻想的な雰囲気です。作られた当時のままにされているものも随所にあるので、歴史も感じることができる、なかなかよい観光スポットでした。私もそうでしたが、地元の方でも意外と行ったことがないらしいので、一度行ってみることをお勧めします。予約制となっていますが、週末は結構混んでいるようなので、平日が狙い目ですね。

箱根で温泉合宿

大阪から帰ってきて、今度は箱根で開催された温泉合宿に参加しました。今回で4回目の開催となる合宿ですが、都内近郊だけでなく遠方からも参加があり、今回も44名が集まりました(**写真3**)。

私は2回目からの参加ですが、前回に引き続きラズパイオーディオの分科会を主宰しました。今回は参加者が1名と少なかったのですが、基本的にもくもく作業をして、わからないことがあったらアドバイスするというスタイルなので、あまり気になりません。私は以前買って放置していたRaspberry Piに装着する3.5インチタッチパネルを使ってオーディオの再生や停止ができるようにしました。普段、ついめんどくさくてやらないことも、合宿の課題にすれば集中して取り組むことができるのが合宿形式のメリットですね。SD

▼写真3　夜は大宴会。LT大会もあるので毎回大盛り上がりです。その勢いでさらに2次会、徹夜麻雀と続きます

Report

「鉄道バー 駅」で発車オーライ

さて、今回は比較的長期出張となったので、たまには変わったお店にでも行ってみよう、ということで上本町(うえほんまち)にある「鉄道バー 駅」に行ってみました。店の外観は鉄道風になっていて、中は立ち飲みですが釣り革が付いているなど、鉄道テイスト溢(あふ)れる店です(**写真A**)。

マスターにお勧めを聞くと、ワンカップ酒を勧められました。確かに電車で飲むのは缶ビールかワンカップ酒ですね(実際には小瓶の日本酒を飲むことが多いですが)。店内では工事用のヘルメットや駅員さんの制帽など、小道具を自由に使って鉄分溢れる写真も撮影できます(**写真B**)。上本町はやや行きにくい場所にありますが、ほかにもディープな立ち飲み屋がある「ハイハイタウン」の地下の一角にありますので、観光のついでに行ってみてください。

▼写真A
お店の外観。車輌のようになっているので、ひと目でそれとわかりますね

▼写真B
店内でワンカップ酒を立ち飲み。制帽をかぶって「発車オーライ!」もできます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第39回　週末イベントで冬を乗りきる！

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

2019年2月は、毎週末に何かイベントが入っていて大忙しでしたが、何とか乗りきることができました。各イベントの様子をお知らせしていきましょう。

今回も盛況、OSC浜名湖

まずは2月10日に浜松で開催された、OSC浜名湖です。小規模ながら毎回盛況で、今回もスペースいっぱいに展示ブースを並べての開催です。何度も開催していると、だんだんとみなさん展示する側に回ることもあってこのような状態になりますが、セミナースペースが隣接していて展示しながらセミナーを聴くことができるので、OSC本来のお互いの活動に関する情報交換という意味で私の好きな開催スタイルの1つです。

また、毎回学生さんがしっかりと展示、発表をしてくれるのが楽しみでもあります。時期的にも1年間かけて研究、開発してきたものを見せることができるタイミングなのでしょうね(**写真1**)。2019年度はさらに学生さんの活動を支援する取り組みを行っていく予定なので、たくさんの学生さんにOSCに足を運んでもらいたいですね。

▶写真1
卒業研究の制作物を学生さんが展示してくれています。スマートホームの模型を展示中

第2回南島原マッピングパーティ開催

2月16日には、長崎県南島原市で2回目のマッピングパーティを開催しました。今回は昔ながらの蔵と街並みが残っている有家(ありえ)地区をブラブラして、マッピング。2月とは思えない暖かい陽気で、歩き廻ってみると思った以上にいろいろなものがあるのがわかってきました。お地蔵さんや、「そろばん恵比須」という算盤(そろばん)を持った珍しい恵比須様が至る所にあったりするのが興味深いですね(**写真2**)。5つある蔵では飲食ができたり、さまざまな物産の販売が行われたりしていて、つい予定をオーバーして楽しんでしまいました。もちろん、歩き廻ったあとはみんなでOpenStreetMap上でマッピングして、今まで何もなかったエリアに少しだけですがランドマークの情報を入れることができました。

思わぬ発見があるマッピングパーティ、今後も継続して開催していこうと思います。みなさんもチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

▼写真2　有家地区の至る所にこのようなお地蔵さんなどがあります。江戸時代末期に筑後(現在の福岡県)から来たらしい

OSC2019東京春でエンジニアのライフスタイルを考える

2月22、23日には、OSC2019東京春を開催。今回もたくさんの学生スタッフのみなさんが前日準備から2日間の開催を支援してくれました。2日目の土曜日は、裏番組として都内でAWSの大きなイベントが開催されていたため、お仕事っぽい人はそちらに流れてしまったのか、2日間を通じて学生さんや若手が多いなと感じられる集客となりました。

以前からの取り組みとして、エンジニアのキャリアを考えるセミナーや婚活のためのセミナーなど、技術に限らないコンテンツの企画を継続していますが、少しずつですがアンケートで良い評価をいただくようになってきました。OSC自体、さまざまな技術をごちゃ混ぜにしたイベントですが、今後はエンジニアのライフスタイルを考えるような、そん

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

なイベントに少しずつ進化していくとおもしろいのかなと手応えを感じています。何でもありの自由なイベントにしていけたら楽しいですね(**写真3**)。

Raspberry Pi 7周年イベントでハンズオン開催

3月3日には、Raspberry Piの誕生7周年を祝うイベントでハンズオンを開催してきました。OSC大阪、東京春に続いて3回目の開催で、改善点としてはHDMIケーブルを細くて柔らかいものにしてレイアウトしやすくしたのと、マウスをワイヤレスにしてケーブルを減らしてみました。テキストも相当見直しをして、ほぼ完成形に近付きました(**写真4**)。

さすがにRaspberry Piオンリーのイベントなだけに、OSCに比べて多くの人が立ち寄って遊んでいってくれたので、常時満席に近い状態でした。これまではセルフハンズオン形式で参加者の反応がわからなかったのですが、今回は張り付きで様子を見ていたところ、満足度も高かったようで手応えを感じました。セミナーもいいですが、やはり実際に手を動かすハンズオンのほうが参加者の満足度が高いようですね。今後は各地のOSCなどで展開して、みなさんに遊んでもらおうと思っています。SD

▼写真3　OSCに貢献された方を表彰するOSCアワードを開催。この連載への最多出場の方も表彰させていただきました

▼写真4　ハンズオンコーナーの様子。朝一番の動作確認から手伝っていただきました

Report

蔵めぐりは楽しいイベントでした

南島原マッピングパーティは「ありえ蔵めぐり」という地域イベントに乗っかる形で開催しました。5つある蔵で飲食したり買物したりできるという、単体でも楽しいイベントだったので、私も思わず満喫してしまいました。

この連載でもお馴染み、創業100年を超える酒蔵「吉田屋酒造」さんでは、升を500円で購入すると飲み放題ということで、今年の新酒を飲み比べ。「これはおでんが欲しくなりますね？」と言ったら、なんとおでんの屋台が出ていて、その場で完全に飲みモードに入ってしまいました(**写真A**)。

今回は、春から南島原市に移住するための家探しに訪れていた岩村孝治さん一家も飛び入りで参加してくれました(**写真B**)。こんな出会いがあるのもイベントを企画する醍醐味ですね。

▼写真A　私がおでんに日本酒なところを岩村わたる君が撮ってくれました。このアングル、ナイスセンス

▼写真B　みんなで楽しくマッピング作業。私の横にいるのが岩村わたる君。春から小学生です

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第40回　OSC事務局のお仕事、教えます

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

オープンソースカンファレンス（OSC）は2019年2月のOSC東京春で170回の開催を数えましたが、14年以上の開催を裏方で支えてきたのがオープンソースカンファレンス事務局です。2019年3月は珍しくOSCの開催がありませんでしたので、今回はOSC事務局がどのようにしてOSCを開催しているのかを紹介しようと思います。

日程調整が最大のお仕事

OSC事務局の最大のお仕事は日程を調整することです。ほぼ毎月のように全国で開催しているOSCの日程が重複しないように調整していくのはなかなか一苦労です（**写真1**）。

調整にはちょっとしたルール、アルゴリズムがあるのですが、プログラミングして自動的に調整できるというわけではないのが難点です。

■開催間隔はできれば4週間、最低でも2週間、間を空ける

さすがに2週間連続開催となると、準備作業もたいへんですし、出展する側もたいへんです。できるだけ間を空ける必要がありますが、とくに秋ごろになると過密日程になってしまい、ひと月に3回開催なんてときもあります。

■予約しやすい会場は上半期、学校は下半期

公共施設など年中利用可能な会場での開催は、早いと1年、遅くとも半年前から予約が可能です。一方、学校を借りて開催する場合、年間の利用予定が決まるのが4月以降、場合によっては5月のゴールデンウィークを過ぎてからということもザラにあります。そのため、日程を確保できるのはどうしても秋以降になってしまい、10月から12月の間の日程が過密になってしまうわけです。必然的に予約しやすい会場での開催は上半期に集中することになります。

会場を予約するのも意外とたいへん

予約しやすい会場と書きましたが、実は意外とたいへんなことが多いです。たとえば1年前から予約ができる会場には大阪や札幌などがありますが、このような施設は自治体所有のものが多く、一般予約の開始前に自治体が主催や後援、誘致するイベントで日程が埋められてしまっている場合が多々あります。ずるい！

そんなわけで、予約開始前に埋まっている日程を確認し、同時に3つから4つの開催の日程候補を組み合わせて開催スケジュールを決める必要があります。

さらに予約をインターネットや電話で済ませられる会場はよいですが、施設によっては毎月1日に抽選会を行って予約を受け付けるようなしくみになっている場合もあります。こうなると、現地の方にお願いして抽選会に行ってもらうしかありません。さらに開催前には会場との打ち合わせや消防署への届け出などが必要な場合もあり、毎回、現地スタッフのみなさんには助けていただいています。ありがとうございます。

▼写真1
OSCの日程調整に欠かせないポスターカレンダー。開催日程にマグネットを貼っています

出展受付は地道な作業

開催3ヵ月前から出展受け付けが始まります。年間協賛で出展をあらかじめ決めている企業、スポット出展する現地の企業、さまざまなコミュニティにお知らせして受け付けますが、締め切りを過ぎても連絡がないこともままあります。お忙しいんだろうと心苦しく思いつつも、申し込みを催促するのも事務局の大事な仕事です。この作業に意外と手間がかかってしまっているので、この記事を読んでいるみなさん、内容は仮決めで後から変更してもいいですから、申し込みはお早めにお願いします。

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

セミナースケジュール調整は付箋紙で

開催5週間前に向けてセミナースケジュールの調整を行いますが、付箋紙を使って行っています。申し込み時に希望時間帯や内容のカテゴリ分けをしてもらっているので、これらを付箋紙に記入して、まずは希望時間に合わせて割り当てをしていきます。人気がある時間帯は13時や14時なので、この時間帯は第2、第3希望などを見つつ調整していきます。その後、同じ時間帯で内容的に重複しているものがないかをチェックして、セミナースケジュールのバージョン1が完成です。

さらにそのあとに、追加セミナー枠の要望を調整したり、空き時間枠を埋めるために講師を探したり、細かいセミナースケジュールの調整が入ります。この調整は配布プログラム印刷後、開催ギリギリまで続けられることになります。これってアジャイル開発ですかね？

ロジスティクスも大事な仕事

OSCの開催ではたくさんのモノが動きます。これらの調整、いわゆるロジスティクスも大事な仕事です。

まず、会場にモノを持ち込む搬入の調整。出展者が会場に送る荷物の把握が必要です。大規模な開催の場合、配送業者さんが扱いきれないぐらい大量の荷物が届くので、搬入日を2日間に分けて送ってもらう調整が必要です(**写真2**)。来場者に配る配布物の種類も多くなるので、事前に種類と数量をリスト化し、会場で確認します。送るのを忘れていた、予定した印刷物が在庫切れ、指定した日に届かない、行方不明などなど、トラブルが最も多いのがこの部分です。イベントにモノを送る際には、きちんと伝票の追跡番号を控えておくと、いざというときの対処がしやすくなることを覚えておくとよいかもしれません。

さらに終了後にはモノを送り返す搬出が必要です。配送業者さんに会場まで集荷に来てもらうのですが、お中元やお歳暮の時期になると多忙のため集荷に来てもらう時間が遅くなったり、翌日になったりする場合もあったりして、この調整も一苦労です。人手不足を実感しますね。

このように裏で支える事務局のおかげで、毎回楽しくOSCが開催できていることをぜひ知ってくださいね。SD

▶写真2
規模の一番大きいOSC東京では100個近い荷物を扱うので、2日に分けて搬入し、仕分けも一苦労です

Report

懇親会の調整もしっかりと

忘れてはならないのが懇親会の調整です。懇親会は各開催地によってかなり形態が異なりますが、一番事務局が動く必要があるのが学校の食堂などで開催する場合です。多くの場合、食堂を運営している会社に食事や飲み物をお願いするのですが、学会などと混同されると上品に少量しか料理が出ないという事態になります。頼むときには「体育会学生向けで」「質より量で」「炭水化物多めで」とお願いするのがポイントです(**写真A**)。

また、飲み物も飲み放題でない場合には持ち込み交渉をして、焼酎や日本酒、ワインなどを持ち込んでお酒が不足しないようにするなどの工夫もしています。

楽しいOSCの締めくくりの懇親会にも、ちょっとしたノウハウが投入されているんですね(**写真B**)。

▶写真A
OSC懇親会の様子。学食運営の会社さんにお願いして、低コストで満足度の高いメニューを出してもらうよう調整しています

▶写真B
OSC沖縄ではビーチパーティを開催したことも。事前予約がちょっとたいへんですが、またやりたいですね

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第41回　平成最後のOSCは沖縄で開催

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

2019年5月1日から元号が平成から令和に変わりましたね。というわけで、平成最後のOSCは4月20日に開催されたOSC沖縄でした。その前の週に開催されたOSunC（オープンソースアンカンファレンス）川越の様子と合わせてレポートしたいと思います。

ビール片手にアンカンファレンス in 川越

アンカンファレンスは事前にセミナープログラムを決めず、当日に発表順などを決めるスタイルで開催するイベント形式です。事前調整が少なくて済むので、気軽に開催できるのが魅力です。4月13日に開催されたOSunC川越も7回目となり、開催もかなりこなれてきた感じがします。

OSunC川越のスタイルの特徴は、前後に長い会場を2つのエリアに分けて、前方を1人5分のライトニングトーク形式で話すプレゼンスペース、後方を懇親会スペースにしていることが挙げられます。ビールを飲みながらプレゼンを聞いたり、来場者同士で話し込んだりもできます。また、土曜日の午後1時から開始して4時半に終わりますので、休みの日の夜ぐらいは家にいないと、という人にも優しい開催になっています。もちろん、終了後に有志で2次会に行きますが、私は今回はパスさせてもらったので、開催中にたくさんビールを飲ませていただきました。

開催準備も楽しみの1つ

OSunC川越の開催準備ですが、開催の中心になっている小江戸らぐのメンバーを中心に会場設営、おつまみの買い出し、ビールサーバーの設置などなどを行います。川越焼きそばや東松山やきとんなど、川越ならではのおつまみメニューが並ぶのも楽しみの1つです。とくにやきとんに辛し味噌を付けて食べるのがビールに最高に合います。つい食べ過ぎちゃいますね。

今回は懇親会スペース側で話し込む時間が長かったですが、普段ほかの開催地で顔を合わせる人ともなかなかじっくり話せないので、こういう機会は貴重ですね（**写真1**）。

▶写真1
終了後にみんなで記念撮影。運営と参加者の垣根がないのもアンカンファレンスの楽しいところ

平成最後のOSC in 沖縄

続いて4月20日に開催されたOSC沖縄は、平成最後のOSC開催となりました。もともと、OSC沖縄は2005年に1回目が開催されており、今回で15回目。平成の30年間のうち、半分の間開催してきたことになります。

今回の会場は、沖縄県庁にほど近い沖縄県市町村自治会館。ここでの開催も回数を重ねてきているため、準備や運営もかなり慣れてきました。交通の便もよく、那覇空港からモノレール1本で来ることができるので、当日朝に飛行機で移動して直接会場入りする出展者もいらっしゃいます。それでも、せっかくの沖縄ですから前日から入られている方も多数いらっしゃいますので、今回も恒例の前夜祭を開催しました。前夜祭会場の「肉山 那覇」は、東京ではなかなか予約の取りにくい肉の専門店の沖縄支店。今回は貸し切りにさせていただき、県外からの出展者と、沖縄で活動をされている方で美味しいお肉を堪能させていただきました。そして終了後は毎回お世話になっている会員制泡盛専門バー「泡盛倉庫」にお邪魔して、美味

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

しい泡盛を楽しみました(**写真2**)。

学生さんをもっと呼びたい!

当日はあいにくの雨で蒸し暑い気候でしたが、会場もゆったりしているので展示ブースではゆっくりと説明を聞いたり、話し込んでいる様子が見えました。毎回恒例になっている琉球大学の学生さんによる展示もあって、学生さんがたくさん来てくれたのもうれしかったです(**写真3**)。そこで知り合った学生さんがちょうど翌週東京に来るということで、会社訪問もしてくれました。こういう縁を拡げていきたいですね。

今回は開催前に地元の専門学校を訪問してOSCを紹介させていただいたところ、次回はぜひ出展したいと言っていただけました。ほかの開催地でも時間を見つけては情報系の学校中心に訪問させてもらっていますが、今後も若い人たちがたくさん参加してくれるイベントにしていきたいですね。

◀写真3
Raspberry Piの展示に食いつく小学生参加者。こういう子たちもたくさん呼びたいですね

▶写真2
毎度おなじみ「泡盛倉庫」。入るためには指紋認証が必要という会員制バーです

10連休にラパオの会で打ち合わせ

今年のGWは10連休でそのうち半分は旅行に行っておりましたが、最後の日に私が活動しているラズパイオーディオ(ラパオ)の会の打ち合わせを行いました。夏のコミケに向けて同人誌を出そう(第4号)ということで、今回はいろいろな方にもお声掛けしての企画会議でした。あれこれアイデアを出し合って、なんとか企画はまとまりましたが、これから原稿執筆、レイアウト、発行、販売と続きますので、気が抜けませんね。後日、成果もお伝えできればと思います。SD

Report

近江神宮で聖地巡礼

GWの半分は、今まで行ったことのなかった琵琶湖畔の旧跡を巡ってきました。長浜城や彦根城など、戦国時代の舞台になった城跡を巡り、石山寺や三井寺なども廻ってきました。その中でも一番テンションが上がったのが近江神宮です。百人一首を題材にしたマンガ『ちはやふる』の作中でも何度も出てくる、いわゆる聖地です。

近江勧学館では、子供向けのかるた教室(というよりも強化トレーニング?)が開催されていたり、実写映画で使われた小道具が多数置かれていたりと、作品の世界に没入できること間違いなしです。足を運んでみる価値はありますので、ぜひ行ってみてください。

▼写真A　近江神宮の階段。『ちはやふる』では何度も出てくるおなじみの場所

▼写真B　競技かるたで名人位・クイーン位決定戦が行われる浦安の間も(使っていなければ)見学できます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第42回　令和最初の北海道は熱かった！

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

前回のOSC沖縄は平成最後のOSC（オープンソースカンファレンス）でしたが、今回のOSC北海道は令和最初のOSCとなりました。OSCは2004年に東京でスタートして、2005年は東京以外に北海道と沖縄でも開催しましたから、奇しくも初期開催地が改元前後に並ぶ形での開催となりました。

沖縄と同じく15回目の開催となるOSC北海道。開催の前週には佐呂間町で39.5度を記録するなど、今回は北海道らしくない気候でドキドキしながらの現地入りでしたが、幸い天気も良く、暑すぎず寒すぎず、ビールが美味しい気候に恵まれました。そして毎回、たくさんの人が集まってくれて、とくに学生が多いのも特徴の熱いイベントとなりました。

前夜祭は石鍋亭で生ラムジンギスカン

OSC北海道といえば前夜祭です。開催地の札幌には、同じ道内の函館や旭川から参加する場合にも前泊する人がいますし、道外から出展する人たちもたくさんいますので、みんなで集まって前夜祭を開催します。人数的には30人以上集まるので、ちょっとした宴会です。会場はススキノにある石鍋亭。この連載でも何回か取り上げていますが、OSCのスポンサーになってくれている飲食店はここだけです。今回も美味しい生ラムジンギスカン（**写真1**）にモツ鍋、締めの雑炊と英気を養わせていただきました。でも、明日が本番。2次会はあまり移動せず、同じビルの1階にある札幌の酒蔵「千歳鶴」の直営店で地酒をいただいて終わりにしました。

たくさんの学生さんと交流できました

当日は朝の準備から大忙しでしたが、たくさんの方が朝一番から熱心に参加してくれました。この熱気は北海道ならではですね。私は今回は「初学者教育のプロが教える学習のポイント ～できるインフラエンジニアを目指そう～」というタイトルでセミナーを開催したところ、たくさんの学生さん、若手のエンジニアさんが参加してくれました。また、北海道入りした日に地元の専門学校をいくつか訪問して、OSC北海道を宣伝させていただいたのですが、先生や学生さんが当日に参加してくれました。そこで急遽みなさんを引き連れてブースガイドツアーを特別開催。みなさんとブースを回りながら、OSSのビジネスやコミュニティのあり方などをお話ししたり、ノベルティグッズをもらいまくったりしました（**写真2**）。これからエンジニアになる人にあれこれとお話しさせてもらえるのが、OSCの醍醐味ですね。これまでもOSCをきっかけにさまざまな活動を始めたり、技術を勉強したりしてくれた人たちがいるので、末永く続けていければと思います（**写真3**）。

◀**写真1**
石鍋亭で美味しい生ラムジンギスカン。翔泳社の近藤佑子さんも来てくれました

▶**写真2**
ツアー終了後に参加してくれた学生さんと記念撮影。こういう交流がOSCの一番楽しいところです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

▼写真3　公立はこだて未来大学のブースにて、Raspberry Piで作ったデジタルサイネージ。うちわで扇いでいないと熱暴走するらしい

LOCAL感謝賞をいただきました

OSC北海道の運営の中心を担ってくれているのが、一般社団法人LOCALのみなさんです。先日10周年を迎え、その際に10周年拡大版LOCAL感謝賞として、株式会社びぎねっとを表彰いただきました。実は1月に10周年記念のパーティがあり、そこで行われた表彰式には私用のため参加できませんでした。そのことをすっかり忘れていたのですが、今回のOSCの閉会式でサプライズ受賞式を行っていただきました。なにも知らされずに会場に呼ばれていて「あれ、怪しいな」と感じつつも、とくに何もなく終了になりそうだったので「考え過ぎだったかな？」と思ったら、本当に最後の最後に壇上に呼ばれて感謝状をいただきました。あまり褒められることがないので、表彰式は緊張しますね（**写真4**）。

閉会式のあとはサッポロビール園で187名（！）参加での大懇親会を行いましたが、ここで逆サプライズ。LOCALの10周年をお祝いするケーキを用意させていただきました。生クリームの美味しいフルーツケーキ、みなさんにデザートとして堪能いただきました（**写真5**）。

その後、ススキノに戻ってスタッフ打ち上げに参加。ここでは公立はこだて未来大学の学生さんと盛り上がり、今度OSunC函館をやろうと約束しました。函館ではしばらくイベントをやっていないので、楽しみですね。さらにその後、3次会、4次会と北海道の夜は更けていくのでした。SD

▼写真4　表彰後にLOCAL代表理事の澤田周さん、OSC北海道実行委員長の工藤裕さんと記念撮影

◀写真5　ケーキを囲んで記念撮影。盛り上がりも最高潮!?

Report

余市蒸溜所で日本のウイスキーを勉強

OSC北海道の翌日、ニッカウヰスキーの余市蒸溜所を見学してきました。札幌から小樽まで行き、さらに乗り換えて余市に到着。蒸留所は駅から3分のところにあるので車がなくても安心です、というより車で行くと試飲ができませんから！

まずはガイドツアーに参加し、ウイスキーの製造工程と、ドラマ「マッサン」で有名になった創業者の竹鶴政孝氏にまつわる話を聞きます。最後に無料試飲がありますが、やっぱり有料試飲のほうが魅力です。すでに終売になってしまっている銘柄を試飲できます。今回は1つの樽だけから瓶詰した「シングルカスク余市10年」、2000年代の原酒からブレンドした「シングルモルト余市2000's」、そして「竹鶴21年（**写真A**）」と楽しませていただき、最後に売店で余市蒸溜所限定品を何本か購入しました。ウイスキーはアルコール度数高めな分、ゆっくりと時間をかけて味わえるのでお土産にも最適ですね（**写真B**）。

▼写真A　竹鶴21年。1本3万円以上はしますが、15cc単位で試飲できます

▼写真B　ニッカウヰスキーが最初に出荷したウイスキー。少しずつ減っているらしい

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第43回　OSCの合間に長崎であれこれ活動してきました

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

令和最初のオープンソースカンファレンス（OSC）であるOSC北海道から、その次のOSC名古屋まで1ヵ月半ほど空くのですが、その間にも長崎に出かけて活動をしていました。いつもの南島原市だけでなく、今回は初めて長崎市内でITエンジニアのミートアップを開催してきましたので、そのときの様子を報告したいと思います。

出島で長崎ITミートアップを開催

まず、6月20日の夜、長崎県長崎市内にあるスタートアップ交流拠点「CO-DEJIMA」でITエンジニアの交流会「長崎ITミートアップ」の第1回を開催しました。

会場として利用したCO-DEJIMAはその名のとおり、長崎の出島近くにあります。ちなみに日本史の教科書に必ず出てくる出島ですが、最近発掘調査と復元が進み、オランダとの貿易で使われた商館などが復元されて見学できるようになっています。私も先日訪れてみましたが、鎖国のころの南蛮貿易の歴史がわかる展示がされており、なかなか楽しめました。長崎への旅行の際にはぜひ立ち寄ってみてください。

▼写真1　長崎総合科学大学の学生さんのプレゼン。みんなでゆったりと話が聞ける会場になっています

さて、ミートアップですが、第1回ということもあり「関係者で集まって、今後どうするか考えましょう」ぐらいのつもりでの開催でしたが、実際には大学生を含めて20名もの人が参加してくれました。社会人も、身内だけでなく、たまたまconnpassでイベント募集を見かけて参加してくれた方、昔からの知り合いでずいぶんとご無沙汰してしまった方など、少ないながらも多彩な顔ぶれでした。また大学生は、5月に開催したオープンキャンプにも参加してくれた学生さんたちで、長崎総合科学大学、長崎県立大学シーボルト校のみなさん。とくに長崎総合科学大学の学生さんは、学内で開催しているビジネスプランコンテストの紹介と、しっかりとスポンサー企業の募集をしていってくれました（**写真1**）。

私も、いつもの持ちネタであるドローンをPythonで飛ばすLTをしたりして盛り上がり、気がついたら終了時間を大幅にオーバーしてしまいました。

長崎ITミートアップは今後も継続して開催していく予定ですので、この記事を読んで興味を持った長崎市周辺の方がいらっしゃれば、connpassで「ミナサポ」グループ[注1]を探してみてください。

小学生のプログラミング教育の支援を始めます

翌日は南島原市に移動し、地元の教育関係者を訪問させてもらいました。まず小学校を訪問し、校長先生、教頭先生から2020年度に始まるプログラミング教育の必修化について取り組みを聞かせていただいたり、PC教室を見学させていただいたりしました。必修化への取り組みはこの夏ぐらいから本格的に詳細の検討が始まるとのことで、検討を行う主担当の先生を中心にいろいろな形で支援させてもらうことができそうです。とりあえず8月の登校日に合わせて先生方向けのワークショップを開催させていただくことになりました。

そのあとは南島原市の教育委員会を訪問。学校教育課を訪問し、市全体としての取り組み状況を聞かせていただきました。現在、市としてはPepperの導入を行っており、今後ドローンなどの活用も興味があるとのこと。待ってましたとばかりに

注1） https://minasapo.connpass.com/

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

Raspberry Piを使ったプログラミングやドローンを飛ばすデモをお見せしたところ、こちらもかなり興味を持っていただけました。今後、いろいろと情報交換させていただけそうですので、まずは最初に訪問した小学校での取り組みをうまく横展開していけたら、という感じでしょうか。

まずは南島原市を長崎県内で一番IT教育に力を入れている地域にすべく、頑張っていこうと思います。このあたりは今後、このページでも紹介していきますね(なんか真面目な連載っぽくなってますが……)。

「にっぽんの宝物」島原半島予選を審査

さらにその翌日、若干の二日酔い(市役所の人たちと飲み過ぎた)になりながら、この連載では毎度お馴染み「はねぎ搾り」の日本酒蔵、吉田屋さんに訪問しました。今回の訪問の主目的である食のコンテスト「にっぽんの宝物」島原半島予選の審査員を務めるためです。前回大会では吉田屋さんの甘酒が世界大会でグランプリを獲得しましたが、今回は島原半島全体から17チームがエントリー(**写真2**)。審査員は各チームの試食品を食べて採点しないといけないのでなかなかたいへんでしたが、一部時間切れになった以外はちゃんと完食できました。

どのチームも力作ぞろいで優劣がつけにくかったのですが、とくに美味しいと思ったのが地元のさとうきびで作った黒蜜。これを長崎和牛のローストビーフにわさびと一緒にかけて食べる、というメニューがとても美味しく、今回のグランプリとなりました(**写真3**)。グランプリ、準グランプリは東京で行われる全国大会に進出となりますが、勝ち進んでほしいですね(**写真4**)。SD

▼写真2　コンテスト開始前に、参加者全員で気炎を上げます。熱の入ったプレゼンが続く楽しい時間でした

▼写真3　終了後の懇親会で。グランプリの長崎和牛の生産者 小川博信さん、イベントプロデューサーの羽根 拓也さん、準グランプリの吉田 嘉明さんと

▼写真4　誤えんしない「なめらかすてら」。お子さんやお年寄りでも安心して食べられます。こちらもグランプリ

Report

南島原にお洒落なカフェができました

ずっと工事中で楽しみにしていたカフェがオープンしていたので、ランチタイムに行ってきました。今回お邪魔した「KAKKON CAFE」さんは、ミナサポのオフィスから車で5分ぐらいの場所にある、製剤薬局さんの建物を改修して作られた(薬局は2Fで営業中)お洒落カフェです(**写真A**)。ウッディな内装で、スペシャリティコーヒーが楽しめます。今回はハンバーガーと水出しコーヒー(**写真B**)をいただきましたが、カウンターにはいい感じのエスプレッソマシンが置いてあるので次回はエスプレッソも試してみたいですね。

コンビニに立ち寄ると、意外とレジ横のコーヒーを購入していく人が多く見られますが、コーヒーを飲む人はそれなりに多いようです。私もなんとか地元でカフェを開けないか画策しており、車通りの多い国道沿いにいい物件がないか探したりしています。都会ではなかなかできないこともできるのが魅力ですし、あれこれチャレンジしたいですね。

▼写真A　きれいな内装と明るい店内。こんなカフェを作りたいですね

▼写真B　ランチのハンバーガー。野菜も有機野菜を使うなど、食材にもこだわっているようです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第44回　熱かったOSC名古屋、暑かったOSC京都

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

7月13日にオープンソースカンファレンス（OSC）名古屋、8月2〜3日にOSC京都と、OSCの中では規模の大きい開催が続く熱い1ヵ月となりました。

展示会場が新しくなったOSC名古屋

会場自体は昨年と同じ吹上（ふきあげ）ホールでしたが、今回はいつもの会場を別のイベントで押さえられてしまったので別の展示会場になりました。セミナー会場に行くには少しだけ不便になってしまいましたが、天井が高くなり、照明も明るくなったので、展示会場としてはよい雰囲気です（**写真1**）。ただ、ちょっと広すぎて、休憩スペースがやたらと多いなと準備のときには感じていました。しかし開催中は意外とみなさんが座って作業をしたり、談笑したりと活用してくれていたので、結果オーライといったところでしょうか。

前日準備には毎年のように、学生はじめ地元の若手のみなさんが集まってくれたので、机や椅子の配置から当日配布物の準備まで、かなりスムーズに終わらせることができました。なにぶん初めての会場ですので、机のレイアウトを最終的に決めるまでに試行錯誤が必要になります。少し楽だったのは、床から電源が取れること。これがないと通路に電源コードを這（は）わせることになるので、電源配線にかなり気を使うことになります。とはいえ、常にちょうどいい位置に電源があるわけではないので、微調整が必要になるのが難しいところで、経験とノウハウが活かされます。

準備が終了したあとは、これも毎回恒例になりつつありますが会場近くの手羽先の店「風来坊」で前夜祭（**写真2**）。今回はとくに若者が多かったのもあり、飲み物がノンアルコールばかりでした。酒飲みのオッサンには意外な展開でしたが、酒飲みだけが片隅に集まって、冷酒の4号瓶を2本空けるのでした。

OSC名古屋当日も盛況

さてOSC名古屋当日ですが、今回も来場者が500名と、これまで同様の盛況でした。前述のとおり、展示会場は広くてかなりゆったりしているので、来場者のみなさんは出展者とじっくりお話ができるようでした。

私も自社ブースでRaspberry Piで構築したKubernetesクラスタというマニアックな展示を行っていたのですが、意外と目を引いたらしく何人もの人がブースに立ち寄って質問をしていってくれました。

出展の成果を集めた名刺の数で判断する必要がある商業イベントと異なり、一人一人とじっくりお話できるのがこのようなイベントの醍醐味（だいごみ）でもあります。とくにエンジニアのコミュニケーション能力を高めたい、と考えている企業にはうっ

▼写真1
準備前のホールの様子。
広くて明るい会場になりました

▼写真2
毎回恒例、OSC名古屋前日準備後の飲み会。
手羽先を食べまくります

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

てつけの教育の場だと思います。もっともっと、活用してもらえたらいいなと思います。

OSCの前に京都の伝統に触れてみる

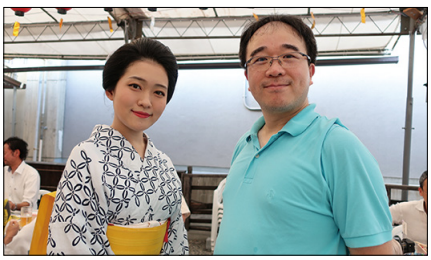
8月初旬は毎年OSC京都という感じで、今年も京都にやってきました。事務局スタッフからの命令で、私一人で準備の前日(木曜日)から京都入り。前日準備の午前中に、誰かが会場で荷物の受け取りをしないといけないのでしかたありません(社長なのに……)。しかたがないので京都の知人に連絡して、空いた時間に宮川町のビアガーデンに連れて行ってもらいました。

宮川町は鴨川のほとり、東山の四条と五条の間にある花街です。京都の花街といえば祇園が有名ですが、宮川町は小さいながらも風情のある街といった趣です。ビアガーデンでは地元の割烹料理屋さんの美味しいお弁当を食べながら、舞妓さん、そして芸妓さんがテーブルを廻ってきて親しくお話ができたり、舞台で舞を披露してくれたりするなど、お座敷は敷居が高いなという人でも京都の伝統を楽しめるようになっています(**写真3**)。私も初めて行きましたが、京都の夏を満喫したい人にはお勧めできると感じました。予約が必要ですが、夏の期間に京都に訪れる予定があれば行ってみることをお勧めします。

暑さとゲリラ豪雨の京都でOSC

OSC京都の前日準備は、こちらも学生さんや若手のみなさんが集まってくれたので、手分けしてスムーズに進行。ただ、荷物の受け取りをしたあと、昼食を食べに行ったところでゲリラ豪雨に遭遇。会場に戻ることができず、しばらく待っていましたが、やむ気配がないのでしかたなく土砂降りの中を会場までダッシュしてビショビショになる羽目に。以前の開催でもゲリラ豪雨に見舞われたことがありますし、この時期は暑いうえに天候が激変してたいへんです。

2日間の暑い中、今年もたくさんの方が参加してくれました。以前ほどの来場はなくなりましたが、参加されているみなさんを見ていると、楽しそうにセミナーや展示を興味を持って見てくれているので、今後も継続していけそうです。SD



◀写真3
宮川町のビアガーデンにて。宮川町の芸妓さん、舞妓さん4人が踊りなどを披露してくれます

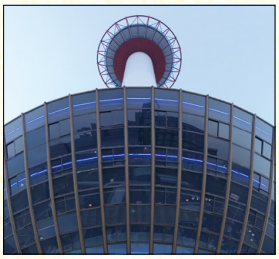
Report

京都タワービアガーデンで懇親会！

OSC京都の懇親会は、これまでは会場の京都リサーチパーク(KRP)で立食形式で行っていましたが、今回から京都駅前の京都タワー屋上にあるビアガーデンでの開催です。全部で125名もの参加者を集めた大ビアパーティとなりました。京都タワーは、下に10階建ての建物があり、その上に全高131メートルのタワーがある二重構造になっています(**写真A**)。ビアガーデンは下の建物の屋上にあります。

日が暮れた後とはいえ、真夏の猛暑の中のビアパーティですので、ビールがはかどります。さらに終了後は地下のイートインで地ビールを味わうなど、最高の懇親会でした(**写真B**)。

▼写真A　OSC京都の懇親会会場は京都タワー。真上にタワーがそびえ立っています



▼写真B　学生、若者の参加者が多いので、ノンアルコールドリンクのマシンは大混雑です

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹のオープンソース放浪記

第45回　夏の終わりは開発者祭り

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

8月24日にオープンデベロッパーズカンファレンス（ODC）を東京・蒲田の日本工学院専門学校で開催しました。いつものオープンソースカンファレンス（OSC）とは異なり、開発に特化したカンファレンスということで、今年も300人近い方が参加してくれました。

今年で3回目の開催となり、やっと夏の終わりの恒例イベントという感じになってきました。過去2回は土日2日間の開催で、日曜日はODCの会場内でLL（Learn Language）イベントも同時に行うというスタイルでしたが、今回は土曜日だけの開催となりました。懇親会もODCとLLイベントの両者合同ということで、普段接点がない人たちとの交流もあり、なかなかおもしろいイベントになりました。

といっても、私は相変わらず運営側で忙しくしており、ほかのセミナーなどはゆっくりと見ていられないので、私自身が関わったセミナーについて紹介します。

DevOpsの実践経験を発表

まず、「これから始めるDevOps～1年間DevOpsをやって分かったこと～」というタイトルで、私が単独で発表しました。こちらは2018年4月から関わったスクラム開発によるアプリケーション開発案件で、私自身は開発全体のコンサルティングとして、さらに技術スタッフをDevOpsのOps担当として配属した経験をもとにして得られた知見を発表しました。

詳細な資料はSlideShareにアップしてある[注1]のでそちらを見てもらうとして、かなりたくさんの方に興味を持って聴講していただけたのが印象的でした。とくに「DevOpsあるある」的なところをお話ししたときは、みなさんに頷（うなず）いていただけたので、まだまだDevOpsの領域は開拓し甲斐（がい）があるのだなと、逆に私が感じさせてもらえました。

恒例のラズパイオーディオLT大会

続いて、これも毎回恒例になっていますが、私が所属しているラズパイオーディオの会でLT大会を行いました。今回は私も含めて4名が発表しました。

トップバッターはChimoto氏。Pi MusicBoxというあまり日本国内では知られていないRaspberry Pi用音楽ディストリビューションをハックしたお話。世間的にはVolumioなどを使う人が多いので、なかなかマニアックな選択です。その分、いろいろとたいへんなようですが、Spotifyに手軽に接続できるということで、海外では人気があるようです。

2人目は鈴木康之氏。「yaMPC」という音楽再生用コントローラを開発されています。少し説明を加えると、Raspberry Piで音楽を再生する際には、MPD（Music Player Daemon）というデーモンを動作させます。デーモンですのでユーザーインターフェースを持っておらず、さまざまなクライアントが用意されています。一般的なのはWebアプリケーションとして実装されたものをWebブラウザから使う方法ですが、yaMPCはiOS用アプリケーションとして実装されており、MPDとTCP/IPで通信をして再生、停止などの制御を行います。昨年のODCでも発表されており、正式版リリース直前でしたが、現在はアルバムアートの取得やiPad版の開発など、1年経って着々と進化しているというお話でした。

3人目はTakazine氏。同氏はRaspberry Pi用のDAC（Digital to Analog Converter）であるSabre Berryシリーズの開発をされていますが、今回はRaspberry Pi Zeroを使って、腕時計型ビデオ再生デバイスを作成したお話です。こちらはTakazine氏のブログ[注2]に詳細が掲載されていますが、1.3インチ液

注1）https://www.slideshare.net/tmiyahar/devops-166504916

注2）http://nw-electric.way-nifty.com/blog/2019/08/post-32f210.html

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

晶でMPlayerという動画プレーヤーを動作させるというもの。腕時計型に実用性があるかどうかは微妙ですが、いろいろと応用が利きそうなお話でした。

続いて、つに氏の電流正帰還パワーアンプについてのお話。スピーカーの低音をアンプで制御してしまうという不思議なアンプです。スピーカーによって特性が違うので、微妙なコントロールを自分でやる必要がありますが、低音大好きな人にはおもしろいかもしれません。

最後に私がVolumioの新しいβ版UIがかなり良くなっているよ、という報告をして終了となりました(**写真1**)。

その後、最後の締めとしてライトニングトーク大会があったあと、LLイベントとの合同懇親会で今年のODCは無事に終了しました(**写真2**、**写真3**)。SD

▼写真1　ラズパイオーディオの会のLT。なぜか満員です

▼写真2
締めはLT大会。
最後までたくさんの方が残ってくれました

▼写真3　濱田康貴氏による「コミュニケーションツールとしてのゆで太郎活用TIPS」という謎のLT。開発にはまったく関係なし

Report

蒲田といえばニーハオの羽根付き餃子(ぎょうざ)

ODCの会場のある蒲田といえば、「ニーハオ」の羽根付き餃子。というわけでODCの懇親会はニーハオ別館で餃子づくしの宴会となりました(**写真A**)。羽根付き餃子(焼き)はもちろん、水餃子、小籠包など、これでもかとばかりの点心責め。やっと食べ終わった、と安心したところに、大盛りの炒飯が振る舞われて食べきれませんでした。あまりにもお腹いっぱいになってしまったので、例年のように日本酒立ち飲みで二次会、とかには行きませんでした(**写真B**)——よかった、前の日の準備のあと、1人で行っておいて……。

▼写真A　ニーハオで記念撮影。LLイベント運営のみなさんとの交流も楽しめました

◀写真B　リーズナブルな価格で日本酒が飲める「日本酒人」。今年は二次会として行けなかったので来年こそ

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第46回　西の島根、東の新潟で日本酒三昧

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

基本的にお酒はどんな種類でも飲むのですが、その好みはなんとなくローテーションしており、ここ最近は日本酒をメインに飲んでいます。そしてなんの偶然か、今回は西の酒どころである島根、そして東の酒どころ新潟でのオープンソースカンファレンス（OSC）開催となりました。さらに広島でも美味しい牡蠣と日本酒を堪能してきましたので、3県でのイベントを合わせて紹介します。

もうすぐ10周年のOSC広島

OSC広島は3連休の中日、9月15日に開催されました。会場も毎回お馴染みのサテライトキャンパスひろしまです。今回から、ご厚意で無料で貸していただけることになりました。OSCが継続的に開催できているのも、このような支援を受けてのことで、本当にありがたいです。

今回も、企業やコミュニティが多数出展してくれました。とくに広島の場合、地元や中国地方で活動している地域コミュニティの出展が元気なのが特徴です。

▼写真1
前夜祭で焼き牡蠣に日本酒。やはり広島の地酒が合いますね

そして、今回も懇親会に学生さんが多く参加してくれたので、賑やかな感じになりました。やはり、若い人がいると盛り上がるな、と思うのは歳を取ったせいでしょうか（**写真1**）。

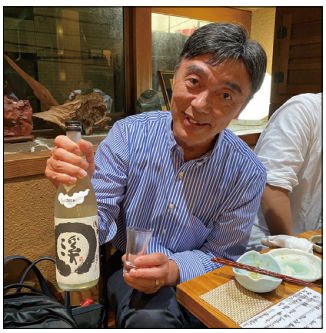
OSC広島の開催も今回で9回目で、かなり安定した感があります。来年は10回目ですので、少し特別なこともやってみたいですね。

OSC島根はもくもく会スタイルが新しい

OSC島根は9月28日に開催。2週間もあけず、また中国地方に舞い戻りました。今回は米子鬼太郎空港から入ってレンタカーで境港に向かい、まずは美味しい海鮮丼を食します。空港から車で15分ほどで行けるのでお勧めです。さらに島根のパワースポット、神魂神社、八重垣神社を巡り、しんじ湖温泉で足湯に浸かったあとに松江に入りました。

前日準備ということで、配布物作成やハンズオンセミナーの準備をしたあと、必ず行く居酒屋「根っこ」へ。私の大好きな島根の日本酒「王祿」が飲めるお店です。今回も飲み比べセットから入り、人数も多かったので4合瓶でどんどん行きます。残念だったのが「渓」のにごりがなかったこと。発泡していて、癖になる味なのです（**写真2**）。さらに2次会では、地元の地酒が豊富に揃っているバー「S-PARK」へ。今年も定番コースで島根を満喫しました。

▼写真2
にごりではない「渓」。ネットワーク応用通信研究所の井上浩社長と



OSC当日ですが、今回は会場がユニークでした。大きなお部屋はセミナーに使わず、展示と地元コミュニティのもくもく会に使用します。

松江市はRuby Cityを名乗っているようにRuby関連の開発コミュニティの活動が盛んですが、それ以外にも開発コミュニティが多くあり、それぞれテーブルに分かれてあれこれ話をしたり、文字どおりもくもくと開発したりと、普段のOSCとはまた違う光景が見られました。このスタイルも今後、ほかの地域のOSCに取り入れていきたいですね。

今回は実行委員会のメンバーにかなり新しい人が入り、学生スタッフも多めだったためか、全体的にフ

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

レッシュな開催でした。島根県外で現在仕事をしている人もOSC島根を機会に戻ってきて参加していたりと、地元に根付いたイベントになりつつあると感じました(**写真3**)。

OSC新潟は地酒三昧

OSC新潟は10月5日に開催。4週間で3回連続のOSCはなかなかのヘビーローテーションです。今回も、地元の日本酒が美味しい居酒屋での前夜祭からスタートです。なんと地酒25種類が飲み放題で、さすがに全制覇は無理だろうと思っていました。参加者8名で2合ずつ頼んで、結局全種類を制覇？　ただ、きちんとチェックしていたわけではないので、本当に制覇したのかはやや怪しいところがありますが。

さて、当日は会場の新潟市中央図書館のホールで、スタッフ、出展者が一緒になって机並べからスタートです。今回のOSC新潟は限りなくアンカンファレンスに近いスタイルで開催したため、事前準備もあまりしていませんでした。とはいえ出展者も慣れている人が多く、意外と現場合わせでなんとかなるものですね。1人15分のプレゼンをみんなで聞いたり、休憩時間には各ブースであれこれ情報交換したりと、小規模開催ならではの和やかな雰囲気は今年も健在でした。

そして懇親会は新潟の地酒を持ち込み、あれこれと飲み比べ(**写真4**)。途中からラグビーワールドカップの日本対サモア戦を観ながら盛り上がったりと、楽しい時間を過ごすことができました。SD

▼写真3
小規模開催はスタッフ、出展者、参加者の一体感が魅力です。終了後にみんなで記念撮影

▼写真4
恒例の新潟の地酒たち。それでも今回は飲みきれる程度の数に抑えてもらいました

Report

倉敷でノンビリ美術鑑賞

広島からの帰り道に、少しだけ岡山県倉敷(くらしき)市を初訪問。主な目的は大原美術館です。大原美術館は、画家・児島虎次郎が集めた西洋絵画を展示した日本初の西洋絵画中心の美術館です。エル・グレコやモネ、マティスなど、有名な西洋画家の作品が鑑賞できます。とくにエル・グレコの『受胎告知』は美術館を代表する作品です。専用の展示スペースがあり、すばらしい大作ですが、うれしいのは東京での美術展に比べて人が少なくじっくりと鑑賞できたことでした(**写真A**)。

その後、最近いろいろと観ている民藝(みんげい)(民衆的工芸)を集めた、日本で2番めの民藝館である倉敷民藝館で焼き物などを観たりして、しばしの倉敷観光を楽しんで帰りました(**写真B**)。

▼写真A
大原美術館分館前の庭に、私の好きなイサムノグチの作品がありました

▼写真B
開館までの時間つぶしにお堀を巡る舟に乗ってみました。笠が似合い過ぎ？

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第47回　2019年秋のOSCは九州で大忙し

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

オープンソースカンファレンス（OSC）の開催はだいたい毎月1回ぐらいですが、2019年の10月は新潟、徳島と2回、さらに11月も福岡、東京と2回で大忙しでした。さらにその間にいろいろなイベントが挟まるので、本当に休む暇もない1ヵ月でした。どのような感じだったか、ちょっとまとめてみましょう。

- **「OSC徳島」開催（10月19日）**
  - 徳島から福岡に移動
  - 福岡から長崎県西海市（さいかいし）に移動
- **「SAIZENSEN」参加（10月23～24日）**
- **「長崎QDG」参加（10月25日）**
  - いったん帰京
- **「アグリハックデイ南島原」参加（11月3～4日）**
- **「OSC福岡」開催（11月9日）**

とてもではありませんが全部紹介できないので、主だったところをレポートしたいと思います。

徳島はAIが熱い!?

10月19日のOSC徳島は、徳島駅前にある四国大学交流プラザで開催されました。四国大学の学生がたくさん参加してくれるので、興味を持ってもらえるようにとNVIDIAの方をお招きして、AIに関する基調講演をしていただくなど、普段のOSCよりもアカデミックな雰囲気となりました（**写真1**）。

私は午前中、「経営層に学ぶ面接教室」と題して、キャリアについて語るセッションでお話ししました。やはり学生から見て、IT業界のお仕事は何をするのかわかりにくいのだなと感じました。業界自体も変化が早いので、エンジニアもスキルをどんどん変化させていけないと置いていかれてしまいます。そのような流れにこれから飛び込む若者はたいへんだといつも思いますが、逆にやり甲斐（がい）もある業界ですので、ぜひチャレンジしてもらいたいと思いました。

▶写真1
徳島県のマスコットキャラクター「すだちくん」とOSCスタッフで記念撮影

これからは地域が最前線!

徳島から福岡に飛び、武雄温泉（たけおおんせん）で疲れを癒しつつ噂の武雄市図書館を視察したり、本土最西端の駅「たびら平戸口駅」に到達して最東西南北端の駅を完全制覇したりしながら、長崎県西海市にたどり着きました。

▼写真2　西海市は巨大伊勢海老が有名です。懇親会に出た伊勢海老で大盛り上がりでした

西海市にも「西海クリエイティブカンパニー」という地域商社があり、私が取締役を務めている南島原市の「株式会社ミナサポ」と共同で、これからの地域のあり方を考えるイベントを1泊2日で開催しました。

長崎県内では次々と地域商社が立ち上がり始めていて、単なる地域の物産販売だけでなく、教育や環境問題など地域課題を解決するためのさまざまな取り組みが進められていることを実感できる2日間でした。多種多様な方が集まっていてテーマも絞られていたので、今後一緒に活動できそうな知り合いが増えたのも収穫でした。異業種交流会になんとなく参加するのではなく、同じ方向を向けるような集まりに参加するのが重要ですね（**写真2**）。

そのあと長崎市内に移動し、「4th 長崎 Software Quality and Development Gathering」に参加。名前のとおり、ソフトウェア品質に関す

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

るイベントでした。私の中では「派生開発」という考え方が新鮮でした。また、組み込み系の開発と、Webサービスなどの開発の違いを実感するなど、今後の業務に役立ちそうな知見が得られたので参加した甲斐がありました。

農業高校生とスマート農業アイデアソン!

いったん帰京したあと、また長崎にとんぼ返りして、今度はスマート農業を考えるアイデアソン「アグリハックデイ南島原」に参加です。今回は地元の島原農業高校から3年生が7名参加してくれたので、普段に比べて平均年齢がグッと下がりました。

私のチームはみかん農家さんを訪問していろいろな課題をお聞きし、1人1つずつアイデアを形にするようにしました(**写真3**)。やはり人手不足が大きな課題ですので、降水量を測定、摘果(実のつきをよくするために早い段階で実を減らす)や収穫をロボットで行うなど、自動化が重要なポイントになりそうでした。また、私自身は耕作放棄地の問題が大きいと感じたので、土壌が農地転用可能か簡単に調べられるように農地データベースとGPSを接続するスマホアプリを考えてみました。

最後にほかのチームからもアイデアの発表がありましたが、高校生は全員緊張しながらも発表し、とても良い機会になったと引率の先生方に言っていただけました。すぐに成果は出ないかもしれませんが、今後も継続的にアイデアソンには取り組んでいく予定です。

▼写真3　みかん農家さんを訪問。農業高校で3年間学んできただけあって、質問も専門的です

長かった九州出張もOSC福岡で締め!

南島原市で小学校や高校でのプログラミング教育について打ち合わせなどをこなしたあと、車で福岡に向かいます。諫早(いさはや)市まで一般道で1時間、さらにそこから高速道路で2時間かけて福岡に入ります(遠い!)。今回の会場は九州産業大学、毎回100人以上の学生が参加してくれて朝から賑(にぎ)わっていました。

展示の中で目を引いたのが、九州の学生が集まって勉強会を開いているというKSA(Kyushu Student Association)の活動紹介。ネットワークやセキュリティなどの勉強会を自主的に開催しており、いろいろな学校間での交流をしているとのこと。こういう活動はぜひ応援したくなりますね(**写真4**)。

こんな感じで、永い長い九州出張も終わりを告げたのでした。SD

▼写真4　KSAで活動している学生2名(中央と右)。活動紹介プレゼンもしっかりと作られていました

Report

龍馬も通った料亭「花月」に行ってきました

長崎出張の合間をぬって、坂本龍馬も通ったという長崎市内の料亭「花月」に行ってきました(**写真A**)。伝統的な卓袱(しっぽく)料理(りょうり)が食べられるほか、建物の中を見学させてもらえます。広間には坂本龍馬が酔っ払って刀で斬り付けた床柱の傷(**写真B**)などもあり、歴史を感じられますね。料金はちょっとお高いですが、龍馬ファンなら一度は訪れてみたい場所です。

▶写真A
料亭「花月」の入り口。雰囲気がありますね。頼山陽や勝海舟も訪れたとのことです

▼写真B
龍馬の付けた刀傷。補修されていますが、かなりえぐれた傷が3ヵ所もあります

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第48回　ゆく年くる年、OSC放浪記はまだまだ続きます

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

この連載も48回目となり、開始から4年が経ちました。あっという間ですね。このまま100回連載を目指したいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

今回は11月23日、24日に開催されたオープンソースカンファレンス（OSC）東京の様子と、2019年のふり返り、そして2020年へ向けた展望をお話ししたいと思います。

雨で来場者ダウン、でも楽しい企画で盛り上がった

のっけから天気の話ですが、筆者は自他ともに認める晴れ男です。毎回OSCを開催するたびに天気が心配されても、最終的には雨が上がり、当日には晴れ渡ることがほとんどでした。しかし、今回のOSC東京だけは違いました。朝から土砂降りで、最寄り駅から会場までの間の通路も屋根が付いていますが、横から吹き込む雨で濡れてしまうほどの大雨。さすがの晴れ男パワーもかないませんでした。

OSCはエンジニアのみなさんが参加しやすいように土曜日に開催していますが、どちらかというとお祭り的な要素がある分、天気が悪いと「行くのは止めておくか〜」と来場者数がガタンと落ちこんでしまう傾向があるようです。今回はその影響を大きく受けてしまいました。天気だけは運を天に任せるしかないのでしかたないとはいえ、楽しい企画が盛りだくさんだったので、ちょっと残念でした。

書籍関連企画が目白押し

今回は独自企画を複数用意しましたが、私自身が企画に関わったのが書籍関連です。まず、OSCに協力いただいている各出版社さんにお願いして、今読んでほしいOSS関連書籍を5冊ずつ推薦、提供していただきました。最終的に7社が参加してくれました。

そして、これらの書籍を並べるために、これまでは通路などに置いていた書籍コーナーのために1つの展示室を用意（**写真1**）。そこに書籍販売ブースなども同居して、書籍部屋となりました。もちろん技術評論社ブース（**写真2**）も設置し、『Software Design』や新刊書籍の展示も行いました。

写真1のように部屋中が書籍だらけで、準備を手伝ってくれた学生スタッフいわく「この部屋に1日居られる」という状態でした。来場者にも好評だったようです。

さらに、イチ押し書籍を5分間で紹介する「ビブリオバトル」も開催し

▼写真1
技術評論社の読んでほしい書籍。みなさんはもう読みましたか?

▼写真2
技術評論社ブース。次回2月のOSC東京春でも出展予定とか?

▼写真3
ビブリオバトル発表者・司会者のみなさんと記念写真。今後、OSCの定番イベントになりそうです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

ました。通常のLTと異なるのが、最後に投票で一番読みたくなったチャンピオン本を選ぶ点です。今回は4名が登壇して合計4冊が紹介され、チャンピオンには『作って理解するOS』[注1]が選ばれました。ぜひ、手に取って読んでみてほしいですね（**写真3**）。

そのほか、今回は台湾で開催されているオープンソースイベント「COSCUP」[注2]の運営・コミュニティのメンバーが大挙して来日し、さまざまな話をしてくれたり、新しい出展者（**写真4**）も増えたりと、それなりに成果もある開催になりました。

翌日の日曜日は天気も回復しましたが、日曜日に開くOSCは比較的人数が少ないため、ゆったりとした時間が流れていました。こうして無事に2日間の行程と、そして2019年の全OSCが終えられました（**写真5**）。

2019年のふり返りと2020年の展望

2019年の1年間をふり返ってみると、年間来場者が約6,000名と、ここ数年の来場者減の傾向も下げ止まってきたように思います。一方で、オープンソースが一般化して当たり前のように感じられるようになったことで、新しい人、これまで関わっていなかった人の興味を惹く機会が減ってしまったようにも感じます。

OSCの使命は、OSSに関わる人たちのコミュニケーションの活性化にあり、そのためには適度な新陳代謝が必要であると考えると、現状学生さんや若手の人が参加してくれているのは好ましい面はありますが、まだまだ取り込み不足な面も否めません。コミュニティという特性上、何かと内側に閉じこもり気味になるのはしかたないとはいえ、新しい人に入ってきてもらうための取り組みは一層行っていかないといけないでしょう。

今後はOSC以外のイベントへの支援メニューを提供するなど、活動の幅を広げていく予定ですので、それらの様子についても本連載で紹介できればと思います。SD

▼写真4
コニカミノルタ㈱の展示にあったFPGAを使った画像認識。人体の骨格を検出。開発環境がOSSで提供されています

◀写真5
イベント終了時にスタッフで記念撮影。明星大学での開催はしばらくお休みです

注1）林高勲 著、川合秀実 監修、技術評論社、2019年
注2）https://coscup.org/2019/

Report

クラフトビールで「Bar root」開店

OSC終了後の懇親会で、持ち込み可能な場合にはいろいろなお酒を用意して「Bar root」というコーナーを作るのですが、今回はキリンの子会社でクラフトビールを造っている「SPRING VALLEY BREWERY」のビールを100本用意してみました。柑橘系の爽やかな味から、キャラメル風味の黒ビールまで7種類用意してみましたが、やはり定番の味が一番口に合うようで、ほかのビールより多めに用意して正解でした。黒ビールも同じく多く用意したのにほぼ捌けてしまったので、みなさん、一通り飲んでくれたのでしょうね。

そして、本数が少ないながらも一番最初になくなったのは「on the cloud」というビールでした。やっぱり、みなさん名前に惹かれたのかも？（**写真A**）

▼写真A
懇親会に飛び入りでVLCの開発者の方が来てくださいました。一目見てわかりますね

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

第49回　久しぶりに平穏な年末年始

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

2020年になりました。2019年11月のオープンソースカンファレンス（OSC）東京から1月下旬のOSC大阪までの間にOSCの開催がないので、2019年から2020年にかけて、久しぶりにゆったりとした時間を過ごせました。でも、もう少し暇になるかと思ったら、そうでもなかったので、今回はOSCにあまり関係ない話をつらつらと。

HKOSCONのメンバーが遊びに来てくれました

2019年12月上旬、香港のOSCであるHKOSCON[注1]のメンバーが東京に遊びに来てくれたので、OSCのコアメンバー（？）で忘年会も兼ねて集まりました。ここ最近、香港、台湾（COSCUP[注2]）との交流が増えてきていて、だいぶ顔見知りになってきました。

注1）https://hkoscon.org/2019/
注2）https://coscup.org/2019/

今回はHKOSCONボランティアスタッフの大学生も一緒に来てくれて、活動についてあらためて紹介してくれました。その中でもおもしろかったのがマスコットキャラクター「KOTTIS」の紹介で、きちんとデザイナーさんにデザインをお願いしたとか。今回は大きなぬいぐるみ、小さいぬいぐるみ、ピンバッジなどを持参してくれていました（**写真1**）。

ちなみにOSCのマスコットはワニなんですが、こういうグッズ展開はしていないので、ぜひやってみたいですね。どこに発注したらいいのでしょうか？

沖縄オープンデイズに参加

続いて、那覇で開催された沖縄オープンデイズに参加しました。ただ、今回はセミナーの企画もせず、講師もしていないので、一般参加者としての参加です。内容的には、気になっていた5G＋水中ドローンのお話を聞くことができたのが収穫でしょうか。また、こういう遠方でのイベント参加は、普段ゆっくりお話しできない人たちと飲み会などで情報交換できるのもうれしいところ。今回もいくつか有意義な話ができたので、2020年の活動につながりそうです（**写真2**）。

イベントが終わったあとは、少しだけ休みを取って、沖縄でノンビリしてきました。沖縄では毎回、オープンカーを借りてドライブするのですが、今回は「ロードスターRF」をレンタル（**写真3**）。電動タルガトップ型ですので座席後方にもウインドウがあり、巻き込み風が少なめです。また、最高気温26℃ととても暑かったので、日差しが強過ぎてオープンにしておけないぐらいでした。とくにどこか観光しなきゃというところもないので、気ままにあっちに行ったり、こっちに行ったり、夜はビー

▼写真1
KOTTISのぬいぐるみ大小。こういうのがあるといいですね

▼写真2
那覇のクラフトビールのお店で、OpenStack関係の人たちと飲み会です

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

ルや泡盛を堪能したり。たまにはこういうリフレッシュも大事ですね。

コミケに初参加しました

私自身が参加して活動しているコミュニティ「ラズパイオーディオの会」ではコミックマーケット（コミケ）に合わせて同人誌を発行しているのですが、第5号の今回は全編私が書いた原稿をベースに作成したこともあり、売り子として参加してみました（**写真4**）。

実は人がたくさん集まったり、やたらと並ばされたりするのは好きではないので、コミケに参加するのも初めてだったりします。大晦日の朝8時に現地集合して、設営、そして販売開始。出店場所の周囲はIT系の同人誌が多いので、見知った顔もチラホラ。また、座っていると目の前をOSCなどでよく見る顔が何人も通っていきます。何人かは珍しがって買ってくれましたが、多くの人は前回も買ってくれた人か、事前のTwitterなどでの宣伝を見て買いに来てくれた人でした。お陰様で、新刊120部、既刊の残部が50部と1日で170部の売上。初参戦としてはまあまあの数が売れたのではないでしょうか。自分で手売りするのも楽しいですね。

ちなみに本の内容ですが、前回の第4号がマニアック過ぎたので今回はラズパイオーディオ超入門な内容にしました。一部の方からは簡単過ぎるというお声もいただいたので、次回のコミケでは応用編、というよりもまたマニアックな内容にする予定です。おそらく次回も手売りしていると思いますので、見かけたらぜひ買ってやってください。SD

▼写真3
ロードスターRF。沖縄はスポーツカーのレンタルが安いのでお勧めです

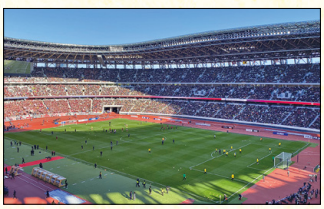
▼写真4
開店準備中。
本誌でもお馴染（なじ）みEject本と共同ブースです

Report

新国立競技場に行ってきました

2020年の元旦に、サッカー天皇杯の決勝を観に新しくなった国立競技場に行ってきました（**写真A**）。紆余曲折（うよきょくせつ）を経て完成しましたが、新しくなったもののデザインなどにあまり特別な感じはしませんでした。

3階席最前列に座りましたが、以前に比べると高い位置だけど前にせり出している感じがします（**写真B**）。観客席に角度がついているので後方からでも見やすいですが、急角度過ぎて上り下りが怖いかも。また、席移動のための通路が極端に少なく、席の前のスペースも狭いので、真ん中あたりの席の人は出入りがかなりたいへんですね。オリンピックもありますが、今後機会があれば行ってみてはいかがですか？



◀写真A
全周屋根付きで、冷たい風に当たらないで済むようになったのが助かります

◀写真B
新しく買った望遠レンズを初出動。でも、トラックがあるので遠くてたいへんでした

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第50回　連載50回を記念して編集長に聞いてみた&OSC大阪

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

早いもので、気がついたらこの連載も第50回です。全国で酒を飲んでいる様子をレポートするだけの記事がまさか50回も続くとは、筆者自身も思っていませんでした。そこで、最近の『Software Design』でどんな記事が読まれているのかなど、連載100回に向けた傾向と対策を池本公平編集長に聞いてみました。

実は第16回でも編集長との対談を掲載したことがあるのですが、そのときはいきなり飲み始めてしまったので、今回はSoftware Design編集部の会議室でお話をお聞きしました。一問一答＋私のコメント、という形式でレポートします。

2019年は機械学習が読まれた

――2019年をふり返ってみて、どうでしたか？

池本：ひと言で言えば機械学習ですね。1月号の「機械学習と線形代数入門」、3月号の「ITエンジニアのための機械学習と微分積分入門」など。線形代数などはゆとり世代は高校課程でやっていないので、重要な内容だと思います。

宮原コメント：確かに、2019年は機械学習に関する特集が多かった印象を受けます。昨年夏に行った弊社インターンでも機械学習を使いたいという要望を受けたり、遅ればせながら私も少し機械学習を触ってみようかな、とJetson Nanoを購入してみたりしました。ただ、最近では使える・使えないが明確になってきたため、一時期ほど熱狂的なものは感じなくなってきました。今後、より実践的な内容の記事が望まれるようになるのですかね。

――最近のエンジニアについて感じるところがあれば聞かせてください

池本：いい環境で学習しているかどうかが重要ですね。あと基本が大事。たとえばタマネギを炒（いた）めるのは西洋料理の基本なわけですよ（このあと、飴色（あめいろ）タマネギについてひとしきり教えてもらいましたが省略）。とにかく、わかったつもり、できているつもりになるのは危険ですね。たとえば、釘（くぎ）を打つには……（このあと、釘打ちの基本を説明してもらいましたが割愛）。

宮原コメント：前回の対談でも基礎・基本の重要性を編集方針に挙げられていたので、3年経っても方針はぶれていないようですね。私も基本が大事で、応用は基本の積み重ねと思っているので、この考え方には納得です。一見難しそうな話でも、実は基本がわかっていれば、ということもあります。逆に「この技術がわからない」ということがあれば、わかるためにはどんな基本的技術を身に付ければいいのか考えるといいのではないでしょうか。今後の誌面でも、そのような読み方をしてもらうといいですね。

このあと、近所の居酒屋に移動して、さらにあれこれお話ししたのでした（**写真1**）。

▼写真1　編集長行きつけの居酒屋のカウンターでIT業界談義。酒も肴（さかな）も美味かった！

▼写真2　初日が終わり、前夜祭（?）。出展関係者で集まって会場近くのクラフトビールのお店をハシゴしました

2020年はOSC大阪でスタート

2020年最初のオープンソースカンファレンス（OSC）は大阪での開催です。毎回恒例の大阪産業創造館を会場に、1月24～25日に開催されました。24日は前日準備を行いつつ一部屋だけのセミナー開催ですが、今回もたくさんの方に熱心に参加していただけました（**写真2**）。

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

これも恒例になりつつありますが、アイクラフト株式会社に海外インターンに来られている方がLibre Office関係の発表をしてくれました。今回はマダガスカルから来られたNirinarisantatra Randrianarivony（ニリナリサンタトゥラ ランドリアナリヴニ）さんが発表（**写真3**）。Libre Office Onlineを大規模運用するためにHAProxyを活用する、というなかなかの内容でした。

翌日25日はセミナーが5トラックと、今回もなかなかの充実ぶり。さらに大阪の会場は展示スペースが商用のイベントのために作られているため、ほかの会場に比べてもゆったりとしています（**写真4**）。でも、あんまりゆったりとしていると、OSCのようにセミナー参加が中心のイベントではガラーンとした印象になってしまうので、そこは痛し痒しのところがありますね。

最後のライトニングトークは、次々と飛び入り発表者が出てきて、なかなかの盛り上がりぶりでした（**写真5**）今後の開催でも飛び入り歓迎ですので、ぜひ一ネタ作ったうえで参加してもらえるとうれしいですね。もちろん、事前登壇申し込みも歓迎です。SD

▼写真3　発表するSantatraさん。年齢は35歳でIT業務経験が豊富なだけに、しっかりとした発表でした

▼写真4
コミュニティ関係の展示スペース。ブース間での行き来もあるので、ワイワイガヤガヤな感じです

▼写真5
最後の締めはライトニングトークで。中賢剛氏が司会を引き受けてくれました

Report

アウトドアにはまりつつあります

『ゆるキャン△』をきっかけにアウトドアが流行りつつありますが、私もそろそろアウトドアを始めるか！という感じではまりつつあります。

年明け早々に有志で三崎口にある「ソレイユの丘」というオートキャンプ場でデイキャンプ。暖冬の影響か日中は上着がいらないぐらい暖かく、ゆったりと過ごすことができました（**写真A**）。

▶写真A　デイキャンプでお鍋を作ってくれた、GMOインターネット株式会社の郷古直仁氏

そして1月末にはいつもの長崎県南島原市で焚き火キャンプ。夕方から始めて夜中まで延々と薪を燃やしつつ、電気を全部消すと星空がとてもきれいで、こういうところでリモートワークもいいよな～と思わされました。今年はここでのキャンプを定期的に行うことになりそうです（**写真B**）。

▶写真B　南島原市のいつもの面子で焚き火キャンプ。池田勝久氏が作った素麺を温かくいただきます

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の
オープンソース放浪記

第51回　新型コロナウイルスの影響でOSC開催中止

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

2月21日、22日に開催予定だったオープンソースカンファレンス（OSC）東京ですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を中止としました。開催1週間を切るまでギリギリの調整を進めていましたが、最終的には開催3日前に開催中止の決断を下さざるを得ませんでした。

今後のためと思い、開催中止後に今回の対応の経緯などをまとめて書き残しました。そのときの心境も影響していると思いますので若干の加筆修正はありますが、そのまま掲載したいと思います。

OSC中止決定の理由

開催まで1週間を切った2月17日午前中の時点では、会場をご提供いただく駒澤大学側からの中止要請はありませんでした。また、OSC事務局としても対策を徹底する形で、最小限での開催の方向で調整を進めておりました。

しかし、OSCを開催して感染が広まるようなことがあれば問題になると判断し、2月18日の午後、OSC事務局として中止を決定しました。最終的な中止の決定は、事務局責任者である宮原が単独で行いました。判断にあたっては、協賛企業からの出展キャンセルが増えていたこと、日本国内での感染状況（感染経路が把握できない感染者が出てきていること）などを勘案して、中止の判断を行いました。

とくに懸念したのが展示会場で、顔を合わせたコミュニケーションを重視しているOSCとしては、リスクがないとは言い切れないと判断しました。

開催に向けて行ったこと

- 参加者に対する体調管理や来場時の消毒などの徹底のお願い
- マスク、消毒液の準備
- 懇親会のキャンセル（マスクなどで飛沫（ひまつ）の防止が行えないため）
- 出展者からのキャンセル受付（協賛キャンセル料なし）

金銭面での対応

OSCはおもに企業からの協賛によって成り立っていますが、今回は出展キャンセルのキャンセル料、および開催中止にあたって協賛費用をいただくことはしませんでした。年間協賛の形で費用を前払いでいただいている場合には、返金ではなく、今後の開催での協賛への振替という対応を取らせていただきました。

おもな理由としては、協賛していただくにあたって開催中止についての取り決めがなかったこと、個別対応となった場合は企業によって取り扱いが異なってしまう可能性があることの2つがあり、それならば一律に協賛金をいただかない方針としました。それ以外にも、各種配布物や出展物の返送もすべて事務局側の負担とさせていただきました。

OSCは、比較的協賛の集まりやすい東京などの大規模開催で協賛金を多く集め、その収入を原資にそのほかの地域での開催の事務局運営および会場費などのコストをまかなうスタイルを採っています。そのため、今回の開催中止は当然大きな打撃ですが、一方で企画運営を㈱びぎねっとで行っているため、このようなリスクもある程度は許容できることが、その他のコミュニティイベントの運営と異なる点です。

今回のマイナス分については、今後の開催でゆっくりと取り戻してい

▶写真1
OSCロスを癒（いや）すため、2月23日に調布の河川敷でデイキャンプ

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

ければと考えています(**写真1**)。

中止して感じたこと

今回の開催中止はたいへん残念でしたが、一方でいろいろな方から励ましの言葉をいただき、OSCがたくさんの方に支えられていることがあらためて感じられました。次の東京での開催は今年10月を予定していますが、現在の新型コロナウイルスの影響が収まったころに、一度みなさんで集まれる機会を作れればと考えています(**写真2**)。

また、東京に出展予定だったみなさんには、ぜひ東京以外の開催に出展していただければうれしく思います。

オンライン化はしないのか?

今回の中止とは関係なく、単発セミナーの開催は検討を進めていました。また、独自の動画配信も検討をしていたので、その流れでセミナーのオンライン化も視野に入れています。

OSCについて再認識する機会に

開催中止後に書いたまとめは以上です。この連載も50回続きましたが、OSC開催がない回はあれど、中止することは一度もなかったので私自身も非常に残念に感じています。

まとめの最後に触れましたが、セミナーのオンライン化、動画などの配信は以前から検討は進めていたのですが、なかなか着手できていませんでした。一方で、今回の件でオンラインセミナーの需要が大幅に高まったこともあり、計画を早回しで進めなければとも感じています(**写真3**)。

この連載も、動画配信で「リアル放浪記」化の企画を検討していますので、楽しみにしていてください。SD

▼写真2
早く収まるよう、コロナビールを買ってアルコール消毒しています

▼写真3
基本的に在宅勤務に切り替えたので、aiboの「なな」さんが仕事を邪魔しに来ます

Report

沖縄でラズパイオーディオハンズオン

世間的に自粛ムードが漂う中、私が活動しているコミュニティであるラズパイオーディオの会で沖縄合宿を行ってきました。目的は発行している同人誌の原稿を書くことと、ハンズオンの開催です(**写真A**)。

合宿会場として民泊のお部屋を借りて泊まり込み、2月23日の日中にハンズオンを開催しました。今回は琉球大学の大学院生と、私の知人が小学3年生のお子さんを連れて参加してくれました(**写真B**)。

あまり事前準備なくスタートして、30分ぐらいで終わるかと思いきや、曲の再生時にエラーが多発してトラブルシューティング大会でした。トラブルの切り分け作業をあれこれやった結果、どうやらRaspberry Pi 4に対する給電が足りず、USBバスパワーで動作していたオーディオインターフェースが電力不足で動作しないという結論に。バタバタしたおかげで同人誌の原稿を沖縄合宿中に終わらせられませんでしたが、最後は大満足で終了でき、有意義な合宿でした。

▼写真A
沖縄といえばお馴染み泡盛倉庫。アルコール消毒に励みます

▶写真B
過去最少年齢の参加となる小学3年生。持ってきてくれた音楽データは『パプリカ』でした

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

第52回　OSunC川越でオンライン開催に挑戦してみました

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

オープンソースカンファレンス（OSC）東京春に続き、3月28日に開催を予定していたOSunC（Open Source UN-Conference）川 越、4月11日に予定していたOSC浜名湖も開催を中止せざるを得なくなってしまいました。カンファレンスの性質上、どうしてもセミナーでは密閉した空間に多人数が集まったり、展示会場などでは密接した距離での対話が発生したりするため、感染防止の観点から開催は難しいという判断になりました。

一方で、オンラインによるセミナーやビデオ会議などが広まってきている状況をふまえ、いったん中止となったOSunC川越をオンラインで開催してみました。

オンライン開催を前日決定

OSunC川越はアンカンファレンス形式のため、発表予定者は事前、または当日に発表予定者シートに記入してもらうようにしています。通常のOSCが基本的に開催1ヵ月前までに事務局に発表の申し込みをしておく必要があるのに比べると、OSunCは大きく異なります。

また参加者は飲食しながら発表を聴ける、というのも異なる点でしょう。今回の開催も、前日の3月27日夕方に急きょ決定というかなりバタバタしていた状況でしたが、それでも比較的スムーズに開催できました。もともと首都圏には外出自粛（じしゅく）要請が出ていましたから、急に開催を決められても参加できない、という意見は聞かれませんでした（**写真1**）。

開催告知については、connpassにイベントを作成し、もともとのリアルイベント参加予定者への一斉メール通知や、Facebook、Twitterでの告知を行うことで、参加してくれそうな人たちにはおおむね開催を通知できたと思います。

Zoomミーティングでアンカンファレンス

今回のオンライン開催のツールはZoomを利用しました。参加者は100名までしか接続できませんが、規模感として多くて50名程度が見込まれていたので、とくに問題なしと判断しました。100名以上参加するような大規模な場合には、発表者はZoomで、その動画をYouTube Liveから再配信というテクニックも使えますが、こちらは今後の大規模開催の際に挑戦してみようと思います。Zoomは無料版だと40分までしか使えない制限がありますが、ちょうど業務でプロ版のライセンスを利用していたので、こちらを使用できました。

スケジュールは12時に開場して、本番スタートの13時までを事前リハーサルの時間としました。ミーティングへの接続確認、音声や映像の送受信テストを行い、発表者はプレゼンやデモの画面共有が行えるかをテストする時間に充てました。

とくに画面共有についてはセキュリティの設定も関係しますので、いきなりやろうとするとうまくいかない場合もあり、事前リハーサルの時間をゆっくりと取っておく必要があるかと思います。この際にミーティング設定も一部見なおす必要がありますが、その際にホストだった私がミーティング全体を一度終了してしまい、接続していた数名が全員切断されてしまうというハプニングもありました（てへぺろ）。

思った以上にうまくいきました

さて、13時になって開始、と思いましたが、乾杯役がなかなかオン

▼写真1
私もずっと在宅勤務ですが、気晴らしに部屋キャンプしたりしています

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

ラインになりません。少し遅れてオンラインになりましたが、仕事が忙しくてどうにもならない、ということですので、乾杯のあいさつだけしてもらって、そのあとの進行は私のほうで引き継ぎました。

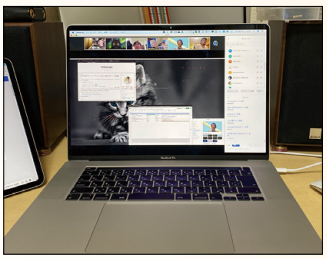
発表希望者にはGoogle Docsのシートに名前やタイトルなどを記入しておいてもらったので、だいたいその順番で進行。私もラズパイオーディオのネタで話をさせてもらいました。発表者がそれほど多くなかったので、発表時間はだいたい5分〜10分でした。そのあと質疑応答を行い、1時間に3名ほど発表したら少し休憩、雑談という感じでの進行となりました(**写真2**)。といっても、とくにオンラインだからこのスケジュールというわけではなく、リアルにアンカンファレンスを開催するのもだいたい同じような感じですので、それをオンラインに載せ替えただけですね。

注意点としては、会場の様子が見えていないので司会進行役が積極的に声がけをしていくこと、発表や質問も司会がテンポ良く指名していくことなどでしょうか。また、雑談のための休憩も気持ち長めに取ったほうがいいように思いました。

今後もオンラインイベントを開催していきます

思った以上にうまくいったので、4月24日、25日に、中止になってしまったOSC東京春で発表予定だった講師のみなさんにお声がけして、「OSC 2020 Online/Spring」を開催することを急きょ決定しました[注1]。開催まで2週間しかないタイミングでの決断ですが、こんな状況だからこそやれることをやろう、という想いでの開催です。SD

▼写真2
オンライン開催の様子。発表者のデスクトップを共有してデモもできます



注1） https://event.ospn.jp/osc2020-online-spring

Report

オープンソース放浪記オンラインを開催しました

OSunC川越のオンライン開催に加えて、以前から温めていた企画である「オープンソース放浪記オンライン」も開催してみました。『Software Design』2020年4月号の記事を執筆された方をお招きして、執筆時のエピソードや裏話、参加者のみなさんとの質疑応答などを行いました(**写真A**)。今回は第2特集の志茂吉建さん、「Visual Studio Code快適生活」の職業「戸倉彩」さん、「シェル芸人からの挑戦状」の上田隆一さん、「Monthly News from jus」の法林浩之さん、「MySQL GISへの招待」の坂井恵さん、2019年10月号「Ejectコマンド工作」のあっきぃさんがトークに参加してくださり、楽しい時間を過ごすことができました(**写真B**)。

今後も、各号発売後のどこかで開催していく予定ですので、興味のある方はconnpass上のグループ[注A]からご参加ください。

▼写真A
本誌を手元に参加してもらいました。買いにいけない人も電子版で簡単に買えます

▼写真B
参加者みんなで記念撮影。40名以上の方が参加してくれました

注A） https://hourouki.connpass.com/

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

第53回　OSCオンラインを3トラック同時並行で開催

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

前回はOSunC（オープンソースアンカンファレンス）川越オンラインの開催をお伝えしましたが、4月24日、25日の2日間、今度は3トラック同時並行でオンラインセミナーを行う、OSC2020 Online/Spring（オープンソースカンファレンスオンライン）を開催しました。各セミナーとも100人以上、2日間で延べ800人が参加してくれる大きなオンラインイベントになりました。どのように運営を行ったのか報告します。

2週間で開催にこぎつけました

4月7日に緊急事態宣言が発令され、今後生活が変わりそうだと感じたので、4月10日に急きょOSCオンラインの開催を決定しました。GWに入る前に開催しておきたかったので、準備期間が2週間しかありません。大急ぎで2月のOSC東京春で講演予定だった企業・団体・コミュニティにお声掛けしたところ、およそ半分ぐらいの講師の方に快諾いただけました（**図1、2**）。

同時並行で、Zoomを使ったセミナー開催の詳細な設定や、手順の検証を行いました。とくにセキュリティの問題が多発していたので、参加のしやすさとセキュリティのバランスを取る設定を決めるのに時間がかかりました。しかし、この過程でZoomの使い方に詳しくなれたので、結果的に安心して運営に取り組めました。

検証結果を基にオペレーションを検討して、参加者、講師、スタッフの3種類に分けて手引きを作成しました。詳細な操作手順まで書くのは時間的に難しかったですが、注意点をまとめることでいろいろな方に好評をいただけたのは良かったですね。

リハーサルはとても重要

開催前日は終日リハーサルの時間に充てました。リハーサルといってもZoomの使い方の確認ですので、慣れている方なら5分もかからず終わるのですが、使用しているマシンやネットワークなどによっては画面共有がうまくいかない、音声が途切れるなどの問題が出るので事前確認は重要です。

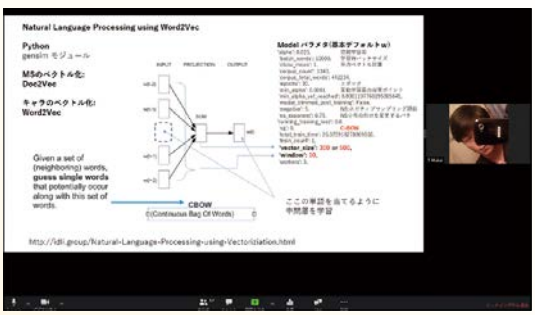
画面共有は手元では相手にきちんと見えているかわかりませんし、音声もどのように聞こえているのかわからないので、リハーサルで確認して不安を取り除いておく必要があります。リアルなセミナーならどうということのない作業も、慣れていないオンラインだと確認が重要だなと痛感しました。

講師全員に対してリハーサルできたわけではありませんが、事前に問題と対策方法を把握できていたことで当日運営がかなり楽になりました。それでも、思ってもいなかったトラブルが当日は起きるものなのですけどね。

YouTube Live連携にも詳しくなりました

急きょ開催を決めたにもかかわらず参加希望者の事前登録がグングンと伸びていき、400名を超えたところでこれはさすがに収容しきれないなと感じ始めたので（Zoomミーティングは100名までが最大）、急きょYouTube Liveとの連携を行うことにしました。

昔から少しずつチャレンジしていたものの、いまひとつ使い勝手が良くないなと感じていたのですが、今



▶**図1　ガンダム勉強会も開催しました。モビルスーツのデータを機械学習させるという本格的なお話です**

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

回は必要に迫られて2日間、じっくりと検証してみました。結果、思ったよりもスムーズにZoomと連携させることができました。

実際のところ、当日はZoomに入るよりもYouTube Liveで観る人が2倍から3倍いるという結果になりました。気楽に観られること、同時に複数のセミナーを流しておける(ザッピングできる)あたりが良かったようで、今後のリアル開催でもYouTube Live連携は強力な武器になりそうです。

運営はたくさんのスタッフの連携で

当日の運営には、たくさんの方がスタッフとして参加してくれました。事前にSlackにスタッフ、講師、関係者の別なく参加しておいてもらったおかげで、かなりの部分はSlackでのやりとりで行うことができました。

運営はおもにZoomのオペレーションを担当し、司会進行役を務めるホストの音声が問題なく出ているか、画面共有がうまくできているか、チャットやTwitterなどで質問などが出ていないかチェックするサポートスタッフが連携して進められました。何かトラブルが起きた場合はSlackでの報告、必要に応じてスタッフ用のZoomミーティングで音声通話で相談して対応するという流れでスムーズに対応できました(**写真1**)。

発案から開催まであっという間の2週間でしたが、たくさんの人の協力で楽しいイベントにできました。残念ながら緊急事態宣言が延長されたことで、5月のOSC名古屋も5月30日にオンライン開催となりました。オンラインのメリットもそれなりにありますので、前向きに取り組んでいく予定です。SD

▶図2
LT会の最後に、『こんにちはPython』を出されたすがやみつる先生にも登壇いただきました。2018年のOSC京都以来の登壇です

▼写真1
1日目終了後の私のデスク。マシン2台、画面4枚を使って1トラックのホストと全体運営をサポート

Report

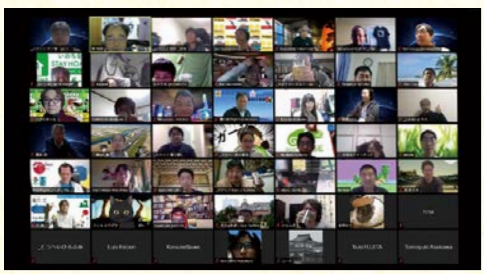
オンライン懇親会も楽しい

OSCといえば本番は懇親会というぐらい、懇親会での交流に力を入れていますが、OSCオンラインでもオンライン懇親会を開催しました(**図A**)。

60名ほどが参加してくれましたが、まずは全員で乾杯。その後、Zoomのブレイクアウトルームという機能を使って6名程度に分かれてもらい、15分間自己紹介などをしてもらいました。このセッションを2回実施し、その後3部屋に分かれて雑談タイム。こちらもきれいに20名ずつぐらいに分かれました(**図B**)。

オンライン飲み会に慣れている人も多かったせいか、全体的にスムーズに進めることができました。そして帰りを気にしなくてもいいので、スタッフ中心に午前3時半まで飲むことになるとは……。

▼図A　全員乾杯のシーン。
49名分表示できる設定にすると壮観です



▼図B　OSCの懇親会で私が開いているお酒メインのコーナー「Bar root」をオンラインで実現

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第54回　OSC Online/Nagoyaも無事終了

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

前回のOSC（オープンソースカンファレンス）Online/Springに続き、OSC Online/Nagoyaも5月30日に開催され、無事に終了しました。前回よりも一部屋増えて4トラックでの開催となったほか、総合案内のお部屋、企業やコミュニティのオンライン展示など、予備も含めると全部で20部屋という大規模な開催となりました。参加者もZoomミーティングとYouTube Liveでの参加合計が最大370名と、オフラインで開催するのと同程度の人数が集まり、一定の成果が上がったと言ってもよいのではないでしょうか。

「オンラインだと地域性は関係ないんじゃ？」と言われることも多いのですが、まったくそんなことはありません。オンライン開催でも地域性を出すための工夫を紹介します。

名古屋飯 de 前夜祭

まず、わかりやすいところから、前夜祭や懇親会で各自が持ち寄る食べ物、飲み物を、名古屋市や中部地方のものにするという取り組みをしました。食べ物はお取り寄せやスーパーなどで売っているものを、お酒は各種酒蔵などを紹介して用意してもらいやすくしました。

私はもちろんお酒ということで、愛知、三重のお酒を購入して飲んでいました（**写真1**）。近所の行きつけの酒屋さんでたくさん中部地方のお酒を扱ってくれていて、本当に良かったです。

ほかのみなさんも、手羽先やみそ煮込みうどん、伊勢うどんなど、特色のある食べ物を用意していたようで、お互いに見せ合ったりして楽しい集まりとなりました。次の開催は北海道ですが、より一層地元の食べ物、飲み物で盛り上がれそうです。

地域の人のつながりとコンテンツ

もう1つがコンテンツです。オンラインになると、全国各地、場合によっては地球の裏側からでもネットでつないでセミナー講師を務めることができます。これは大きなメリットです。

一方で、東京というよりも全国で開催されているようなイベントに、あえて手を上げて講師を務めるというのはハードルが高い、という意見はよく聞きます。これまでだと物理的な距離があるため交通費などの問題もありましたが、それ以上に心理的なものが大きいのでしょう。

これまでOSCを全国各地で開催してきたのも、物心両面でのハードルを低くして情報発信をする人を増やす、情報共有を促進するという役割を果たすためでしたが、オンライン開催になったとしてもその役割は変わりません。オンラインでも

▼写真1
前夜祭、懇親会用にチョイスしたのは「るみ子の酒」。無濾過（むろか）純米で濃厚な味わいでした

地域性をうたうことで「講師を務めてもいい」という安心感を与えることが大事だと思います。

もちろん、参加する側も地元のイベントという認識で気軽に参加してくれますし、オンラインでも地域性は出せるということを今後の開催でも感じてもらえたらと思います（**写真2**）。

オンラインセミナーの講師を務めるにはマイクが大事

2回の大型オンラインイベントの開催でかなりいろいろなノウハウが蓄積されてきて、オンラインイベント運営班という集まりも結成されたわけですが、その中で痛感したことがあります。それは講師を務めてくれる人の音声が重要ということです。

事後のアンケートでも、不満に感じたことはほぼ音声の話で、あまりにも音声品質が悪いと、セミナーの聴講を止めたという意見もありま

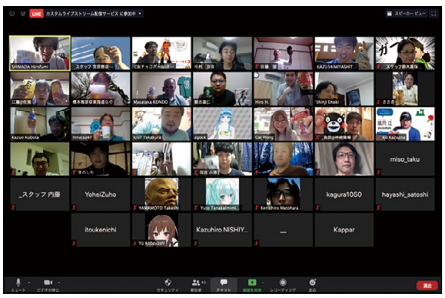
本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

した。

OSCオンラインでは事前のリハーサルを最重要視しており、よほどのことがない限り全員リハーサルを行って音質をチェックしています。そうすると何人かは音質に問題ありとなるので改善をお願いしますが、それでもどうにもならないことも多く、運営としては悩ましい限りです。

音声品質に影響するのは、ネットワークとマイクです。ネットワークについては説明するまでもないと思いますので、少しマイクのお話を。オンライン会議が増えたおかげで、急速にマイクの需要が増えたせいか、USB接続のマイクやミキサーの在庫が消えてなくなりました。そのため、PC内蔵のマイクを使う方が多いのですが、これがけっこう曲者です。実はMacBook系の内蔵マイクはなかなか優秀で、私も楽をしたいときは使っています。一方でWindows系のノートPCの内蔵マイクは音質が悪く、オンライン会議では何とかなってもセミナーでは聴いていられないような音質になります。発言している側からは音質がわかりにくいため、このようなことが起きがちです。

外付けマイクを用意していただくのが難しい場合には、スマートフォンに付いてきたイヤホンマイクや、音声だけスマートフォンを使ってもらうなどの方法をとっています。これだけでも相当改善されるのですが、今後オンライン会議の機会も増えるでしょうから、がんばっていい感じのマイクを調達してもらえたらなあ、と思っています(**写真3**)。SD



◀写真2
前夜祭で記念撮影。名古屋、中部地方の人が多いですが、台湾から接続して台湾のイベント「COSCUP」の紹介を日本語でしてくれた人もいました

▼写真3
筆者が用意しているマイク。左が主力のBlue Yeti。右がAKG Lyra。どちらもUSB接続コンデンサーマイクです

Report

ブルーインパルスを撮影してきました

OSC Online/Nagoyaの前日、ブルーインパルスが都心を飛行しました。公開された飛行プランを見ると自宅の近所の多摩川上空をターンしていくことがわかったので、レンズの試し撮りとばかりに背負って撮影に行ってきました[注A]。在宅勤務で引きこもり状態でしたので、徒歩20分ほどの距離はいい運動になりました(**写真A**)。

飛行プランの地図はかなり粗いものでしたし、そこまで精密に飛行しませんから、だいたいの見当を付けて河原に陣取りました。予想だと下流側を左から右に飛んだあと、ターンしてこちらに向かって目の前を折り返していくはずです。都心のほうで飛び始めたのを確認し、こちらに飛んでくるのを待ちます。ほぼ予想どおりのコースを飛行してくれたので、目の前のベストポジションを飛んでいってくれました(**写真B**)。

2周目はiPhone 11 Pro Maxの動画で撮ってみようと思い、構えていたところ、こちらもバッチリ撮影成功。ただ、あとから見てみると風の音が強くてちょっと残念。このあたりは場数が必要ですね。

▼写真A　待機位置から楽天クリムゾンタワーがよく見えました

▼写真B　ブルーインパルスが目の前を編隊飛行

注A：使ったカメラはEOS 5D mk3+EF300mm F2.8L IS III＋EXTENDER EF1.4×III。

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

第55回　オンラインでも北海道らしいOSCになりました

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

オンライン開催になって3回目のOSC（オープンソースカンファレンス）オンライン北海道が6月27日に開催されました。前回もオンラインと地域性の関わりについて書きましたが、それを証明してくれるような「北海道らしい」開催となりました。北海道開催ですので、北海道在住・出身のスタッフが中心になって企画を行い、ZoomやYouTubeの運営については全国各地から集まったオンラインイベント運営班が担当しました。

前夜祭は北海道の酒と肴で

北海道の開催では毎回、前夜祭が盛り上がります。オンラインになっても前夜祭をやろうということで、ZoomとYouTubeの配信を合わせてなんと100名近くもの人が参加してくれました。

北海道の食べ物と飲み物を用意するというルールで、乾杯のビールはやはりサッポロ黒ラベルが多く、サッポロクラシックを用意している人も（**写真1**）。食べ物はやはりスープカレーの人が多かったようです。

私は食べ物にジンギスカンを用意し、飲み物として追加でしそ焼酎の「鍛高譚」と、牡蠣で有名な厚岸の蒸留所で作ったウイスキーを用意してみました（**写真2**）。ウイスキーのほうは入手しにくく、お値段も高めですので以前から躊躇していましたが、こんな機会だからと思い切って購入。以前OSC北海道が終わったあとに一度だけ行った厚岸を思い出します（通過しただけですが）。行ったのは2015年6月で、この連載が本誌2016年3月号からですから、ずいぶんと昔のように感じますね。

美味しくお酒を飲みながら、ライトニングトークを聞いて盛り上がりましたが、翌日が本番ということで気持ち早めにお開きとしました。

▼写真1
やっぱり、ということでサッポロ黒ラベル。蒸し暑いベランダで飲むとさらにうまい

▼写真2
厚岸のウイスキー。青い瓶が特徴的で、RPGのアイテムっぽい。ピートが効いていないのが少し残念ですが、飲みやすい

北海道の学生・元学生のトークがおもしろい

北海道コミュニティの特長の1つが「学生部」という学生コミュニティが活発という点です。今回も学生部の現役メンバーによるライトニングトーク、そして元学生部のOBが学生の質問に答えるディスカッションが開催されました。

現役学生は高校生から高専生、そして海外への留学生と幅広い面々がそれぞれ自分のこと、自分のやっていることを話してくれました。これぐらいの年代から人前で話す機会があるというのは大事ですね。そして話してくれた人の中には、2年前に行ったスカラーシップでOSCに参加してくれた人がいることがわかりました。ちょうど2年前の連載第31回にもしっかり登場しています（**写真3**）。OSCはちゃんと若者育成に貢献していますね。

そしてOBとのディスカッション。答える側はみなさん東京などで活躍されているエンジニアですので、やはり仕事の話がメインとなりますが、それでもこうやって北海道出身というつながりが連綿と続いていくのは、イベントを継続していくモチベーションにつながりますね。ありがたいことです。

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

トークを見てみたい方は、OSPN YouTubeチャンネル[注1]で公開されている動画アーカイブから探してみてください。

新たにミーティング形式を導入

今回は新たにオンライン展示に代わるミーティング形式を導入しました。従来の会場であれば、行きやすい場所に展示会場を設けて来場者が立ち寄りやすい状況を作り出せるのですが、オンラインの場合は参加者がセミナー会場に入りっぱなしですので、オンライン展示に来てくれません。入るのが怖い、という意見も聞きます。展示をする側も、1日中誰も来ないのを待ち続けることになるので、改善しなければと考えていました。

今回導入したミーティング形式では、次の3ステップを想定しています。まず参加者への情報提供や論点を整理するためのリードプレゼン。そして質疑応答。話が盛り上がってくればそこからフリーディスカッションに移行します(**写真4**)。

ただ、やはりなかなか質問が出ないので、進行役が参加者に逆に質問したり、最初から質問ができる人を何人か用意したりするなどの呼び水は必要かと思いますが、それでも実際にやってみて手応えを感じることができました。オンラインという形態の特性を活かして、今後もこのような企画を継続的に開催していこうと思います。SD

注1) https://www.youtube.com/c/OSPNjp

▼写真3
連載第31回(本誌2018年9月号)で掲載した集合写真。この中の何人かが今回も参加してくれました

▼写真4
『最短突破LinuCレベル1合格教本[101試験, 102試験対応]』[注2]の著者である河原木忠司さんとミーティング参加者の質問に回答しました

注2) 河原木 忠司 著、技術評論社、2019年。今号発売時点ではLinuC Version10.0に対応した改訂版が出版されています。

Report

おうちで石鍋亭

前夜祭の話で触れたとおり、開催地に合わせて食べ物や飲み物を用意するようにしました。今回は北海道ですが、OSC北海道といえば前夜祭は石鍋亭というお店で生ラムジンギスカンを食べるのが恒例でした。石鍋亭はこの連載でも何度か出ていますし、北海道でIT系のイベントがあるときにはよく使われるので知っている人、行ったことがある人も多いかもしれません。今回はお店のご厚意でジンギスカン用の肉を送っていただきました。

屋内で焼くと脂がすごいので、ベランダにアウトドア用品をセッティングして、グランピングならぬベランピングです(**写真A**)。焼きながら前夜祭に参加するのは大変ですので、1時間前から1人で0次会。思ったよりジュージューと焼ける音が大きくて隣の家に聞こえないか心配でしたが、どうやら大丈夫だったようです(**写真B**)。

オンラインでも、お取り寄せでその地域の食を味わう。今後も続けていこうと思います。

▶写真A
ベランダにアウトドア用のテーブルと椅子、ガスコンロに鉄板を乗せて、ジンギスカンの準備はバッチリです

▼写真B　お店と違って自分で切り分けられるので、ぜいたくに厚切りにしてみました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

第56回　OSCオンライン新潟は日本酒とともに

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

7月25日にOSCオンライン新潟を開催しました。以前の新潟での開催は、小規模開催として広めの会場にセミナーと展示ブースを同居させ、セミナーも1枠15分としていました。今回もそのスタイルを踏襲してセミナーのみ、1枠15分で開催しました。

開催準備も、アンカンファレンスのように当日に話題を決めるとまではいきませんが、セミナーで話したい人はオンライン共有されているスプレッドシートに名前やタイトルなどを記入しておくだけのやり方としました。大きな規模の開催となると事務局と講師の方との間でのやりとりにかなり手間がかかってしまいますから、このような自律的なスタイルは準備のコストを大幅に下げることができて楽ですね。もし、何かオンラインでイベントをやりたいと思われるようでしたら、このスタイルをお勧めします。

▼写真1
「呼友」という、かなり珍しい新潟の地酒。少し温度を戻すといい香りでした

新潟の地酒をお取り寄せ

新潟らしい開催を、ということで、長岡市在住の実行委員の方が酒屋さんと調整して、新潟の地酒お取り寄せセットを準備してくれました（**写真1**）。お酒2本で5,000円のセットと、3本で1万円のセットの2種類です。かなり悩みましたが、地元にきちんとお金を落とすのも大事だよね、ということで1万円のセットをチョイス。さらに特典として、枡にレーザーカッターを使ってマスコットキャラクターのワニを焼き付けたものも作ってくれました（**写真2**）。

前夜祭として放浪記オンラインを開催

せっかく美味しい日本酒もお取り寄せできましたし、3本もありますから当日の懇親会だけでは飲みきれないな、ということで前夜祭を開催しました（**写真3**）。これまでの前夜祭はLT大会を開催していましたが、今回は「オープンソース放浪記オンライン」を開催しました。本連載のオンライン企画として『Software Design』最新号の記事を読みながらあれこれ解説するという内容で毎月開催を続けてきていますが、前回一

▼写真2
作成してもらったOSCオンライン新潟オリジナル升。これで日本酒を飲むと格別です

度お休みしてしまったので2020年7月号と8月号の2冊を一気読みしました。もともと、この連載はOSCの各開催の前夜祭で飲んでいる様子をレポートすることが多かったので、本来の姿に戻ったと言えなくもないですね。

前夜祭もZoomミーティングでの開催ではありますが、20名以上が参加してくれました。日本酒が美味し過ぎて4合瓶を1本半ぐらい飲んでしまいました。翌日の本番が12時半スタートで本当に良かったです。

オンラインの恩恵か、参加者が倍増

さて、OSCオンライン新潟の当日ですが、オンラインのため講師の方もいろいろなところから参加してもらえました。新潟や東京はもちろん、会津からつないでくれた講師の方もいらっしゃいました。本当は仙台やそのほか東北・北陸地方の方も顔を出してもらえたら良かったの

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

ですが、そのあたりは今後の課題ですね。

また、参加者も、昨年の新潟市内での開催では50名ほどでしたが、オンラインになったおかげで、最大で120名ほど参加してもらうことができました。

オンラインイベントの恩恵は、大都市圏から離れたところから参加できることが大きいように思います。一方で、現地に足を運んで直接コミュニケーションを取ることのメリットも大きいので、今後リアル開催が可能になったときに、うまくオンライン参加とミックスさせていければと思いました。

在宅勤務手当を出すことにしました

新型コロナウイルスの蔓延がなかなか収まらず、在宅勤務が長くなりそうです。私の会社では技術者もOSC事務局のスタッフも3月から全員在宅勤務なのですが、現状からの判断だと再来年ぐらいまでは元のように出社してもらうのは無理ではないかと感じました。そこで通勤手当を出すのを取りやめて、一律2万円の在宅勤務手当を支給することにしました。会社としては、交通費やオフィスで提供していた各種福利厚生の支出がなくなった面もありますし、また各人が自宅で使用する通信費や光熱費などをある程度補填する必要があるという判断で金額を決めました。

こういった動きがあることが知られることも大事だろうと思い、この件をTwitterやブログで書いたところ、かなりの反響がありました。今後、同じような会社が増えてくるといいですね。SD

▼写真3　前夜祭の様子。SD読書会も終わって、じっくりと新潟の地酒をみんなで味わっています

Report

ふるさと納税で酒器を集める

ふるさと納税では、全国のさまざまなものを返礼品としていただくことができますが、私は酒器をもらうようにしています。オンライン飲み会が増えたことで家で飲む機会が激増したので、最近入手した酒器を紹介します。**写真A**は金属製のタンブラーなのですが、内側が丸くくり抜かれており、かつその表面がザラザラしています。そのため、ウイスキーなどを入れるとこのザラザラが影響して香りが立ち、味も大きく変わってきます。実際、前回(本誌2020年9月号)紹介した北海道・厚岸のウイスキーで試したところ、驚くほど味が変化しました。これは滋賀県栗東市にふるさと納税すると、返礼品としてもらえるものです。ほかにも、鹿児島県鹿児島市のふるさと納税でもらえる薩摩切子の盃(**写真B**)もよく使っています。こちらは以前鹿児島市に訪問したときに悩んで購入しなかったのですが、やっぱり欲しくなってふるさと納税でいただきました。美しい酒器で飲むお酒はまた格別です。オンライン飲み会を楽しむアイテムとして、みなさんも入手してみては？

▶写真A
滋賀県栗東市で作られているタンブラー。ウイスキー以外でも美味しくなります

▶写真B
薩摩切子の盃。模様を楽しむならやはり日本酒か焼酎ですね

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第57回　久々にセミナーを満喫したOSC京都オンライン

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

8月28日と29日の2日間、OSC2020 Online/Kyotoが開催されました。OSC（オープンソースカンファレンス）もオンラインになってもう5回目ですので、運営もかなりこなれてきました。

オンラインイベントの良いところは、スタッフもセミナーを聴くことができることです。私自身、今までは全体の運営を行ったり、即座にトラブル対応を行ったりできるように待機しなければならなかったのですが、これまでの開催で経験をたくさん積んだスタッフが増えてきて、私もセミナーをゆっくりと聴けるようになりました。

今回は聴講したセミナーのうち、おもしろかったものをいくつか紹介します。それぞれのセミナーについてはYouTubeのOSPNチャンネルで動画が公開されており[注1]、資料のダウンロードもできます。

レシート記述言語「ReceiptLine」

一般社団法人オープン・フードサービス・システム・コンソーシアムがOSSで開発した、レシート記述言語「ReceiptLine」の紹介セミナーです。ReceiptLineは、私たちがお店などで受け取るPOSレジが印刷するレシートを、Markdown形式で記述して出力できるというものです。バーコードやQRコードなども簡単に出力でき、実際にプリンターを使って出力デモが行われました。レシートのデザインツールがWebで公開されている（**図1**）ので、実際に試して遊んでみるといいかもしれません。業務システムではレシートのような紙ものを出力することも多いので、応用範囲も広そうです。

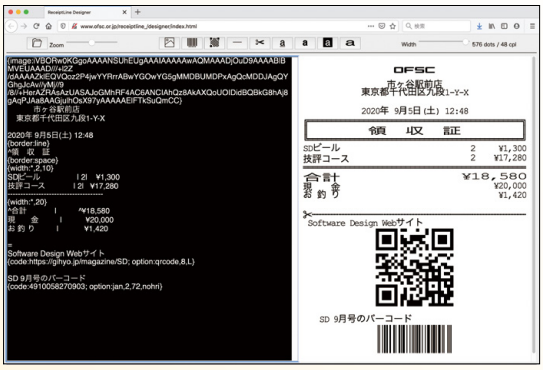
注1） https://www.youtube.com/c/OSPNjp

コニカミノルタの「画像IoT/AI」とFPGA用OSSコンパイラ「NNgen」

昨年秋のOSC2019 Tokyo/Fallでは、ルームランナーを使ってランニングフォームの画像解析AIのデモをしてくれましたコニカミノルタ㈱さんですが、今回はさまざまな成果を動画を交えて紹介していました。

今回のトピックは、8月27日に発表されたGROOVE X㈱さんとの協業について（**図2**）。OSC2019 Tokyo/Fallでのデモがきっかけで2020年の春から協業が始まり、今回のOSC京都オンラインで発表することになったとのことです。動画では「家族型ロボットLOVOT（らぼっと）」と向き合って手を挙げると、LOVOTも手を挙げるなど、画像認識が行われている様子を見ることができました。

▼図1　左側にテキストで記述すると、右側にレシート印刷のイメージが表示される



▼図2　協業についてのニュースリリース。LOVOT、見たことがある人も多いのでは？

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

今後、さまざまな機器に画像認識AIが組み込まれていくと思われますので、このような技術を活用する幅が広がりそうです。

今さら聞けない人のためのK8s超入門

これは私自身が講師を務めたセッションです。これまでずっとGit超入門がテーマでしたが、さすがに手垢がついてきたので新しいネタを作りました。内容的にはKubernetes(K8s)に興味を持ちつつも触ったことがない人向けに、実際に触りながらしくみを理解するという流れです(**図3**)。これまでの超入門シリーズ(GitやDockerなど、シリーズ化しています)と一緒ですね。

本当は複数ノードで構成する手順をしっかりと解説したかったのですが、流石にハードルが高過ぎました。結局、VirtualBoxとMinikubeを組み合わせる一番簡単なやり方から入ることにしましたが、ネットワークの説明までじっくりすると持ち時間の45分をちょうど使い切りました。結果的にMinikubeを使うことにしてよかったかもしれません。

動画、資料とも公開しているので、K8sに興味がある人は参考にしてみてください。

BASICからオールマシン語まで、オープンデータとIchigoJamで創るプログラミング教育

2日目に行われた招待講演です。これまで京都での開催は「教育」や「学び」をテーマに招待講演を行ってきましたが、今回は「IchigoJam」開発者の福野泰介氏に、IchigoJamやIchigoDyhook(**図4**)などを中心に、子供向けプログラミング教育の活動について紹介してもらいました。IchigoJamについては軽く知っていた程度でしたが、たとえばIchigoDyhookの名前の由来がアラン・ケイの「Dynabook」[注2]から来ているなど、おもしろい話が聞けました。

終了後、私の周りの聴講者がさっそくIchigoJamを購入したりしていましたので、みなさんもぜひ試してみてもらえればと思います。

どこからでも参加できる、あとからでも見られるオンラインの魅力

OSCオンラインでは、動画配信と同時に録画もしているので、あとから見直したり、時間がないなら早回しで見たりできます。遠隔地の方にも見やすくなったなと思います。今後はほかのコミュニティが開催するイベントのお手伝いなどもしていければと考えています。SD

注2) https://ja.wikipedia.org/wiki/ダイナブック

▼図3　画面共有でデモを見せたりできます。コンテナ数を増やそうとしているところです

◀図4　IchigoDyhook、確かにアラン・ケイのDynabookを彷彿(ほうふつ)とさせます。昔はハンドヘルドコンピュータと呼んでいたカテゴリです

Report

京都といえば伏見の日本酒

今回は京都開催ですので、伏見の日本酒を用意してみました。いつも京都ではいろいろな酒蔵のものを飲んだり、伏見まで出かけて行ったりもするのですが、今回は現地には行けず近所の酒屋で仕入れてきました。今回は「澤屋まつもと」の「Kocon」と「守破離(しゅはり) サウナ」にしてみました。名前を見てわかるとおり、新しい感覚でおもしろい日本酒を造っている酒蔵です。どちらも夏に飲むのにふさわしく、サッパリとしていて飲みやすい飲み口でした。金曜日(1日め)の夜は京都産業大学の学生のみなさんと簡単なセミナーやオンライン飲み会、土曜日(2日め)はOSC終了後の懇親会と、8月の終わりを楽しく過ごすことができました。

▼写真A　お洒落な見た目のKocon

▼写真B　サウナ上がりの男女が描かれた守破離 サウナ

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第58回　OSCオンラインの裏側、お見せします

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

新型コロナウイルスの影響で、OSC（オープンソースカンファレンス）は今年4月からオンラインへと開催形態を変更しました。最初は手探りでしたが、半年間ほぼ毎月での開催を繰り返してかなり形としてまとまってきました。

今回はオンラインイベントを開催したい方への参考として、OSCオンラインの裏側を紹介します。オンラインイベントの開催は技術面、運営面で難しいですが、運営スタッフや参加者が慣れていくことである程度解消できる点もあると思います。

広島ならではの企画立案

9月19日にOSC2020 Online/Hiroshimaを開催しました。この開催に向けて、7月31日に地元の実行委員会のキックオフミーティングをオンラインで開催しました。OSCオンラインに参加したことがないメンバーに、ツールに慣れてもらうという目的もありました。

キックオフミーティングで検討したのは「広島ならではの企画」。ここ最近の開催で好評だった「学生LT」と「中四国出身の社会人エンジニアが、学生の質問に答える」という企画をやることになりました。また、懇親会の企画として、OSC広島の過去10年を振り返りました（**写真1**）。

オンライン会場の準備

開催当日、スタッフは9時に集合します。当日の最終確認後、オンライン会場の準備に入ります。

OSCオンラインはZoomミーティングとYouTube Liveの配信を組み合わせて開催しています。まずはZoomミーティングを開始して、動作チェックを行います。Zoomはホスト権限を持っているユーザーがミーティングの大部分をコントロールします。今回はセミナー会場が3つありましたので、常時ホスト役が3名必要ということになります。まずはこのホスト役が、当日スタッフとしての役割になります。

通常はZoomのライセンスが割り当てられているユーザー（オーナー）がホストになりますが、事前に決めておいたホストキーを入力することで、ほかのユーザーがホスト権限を取得することも可能です。また、ホストはほかのユーザーに権限を譲ることもできます。

このようなユーザー権限については、システム運用などをやっている人なら飲み込みが早いと思います。逆に非エンジニアの一般ユーザーがオンラインツールを使いこなすにはハードルとなる部分かもしれません。

YouTube Liveの配信を開始

Zoomミーティングが開始できたら、YouTube Liveで配信を開始します。しかしここで1つ問題が発生しました。これまではZoomのホスト権限があればZoomからYouTube Liveへの連携ができたのですが、OSC2020 Online/Hiroshima開催直前に、Zoomのオーナー以外は連携開始ができなくなってしまいました。どうやらセキュリティ強化に伴う仕様変更が理由のようです。事前テストで仕様変更が判明していたので当日はスムーズに開始できましたが、もしこれが

▼写真1　OSC広島の懇親会では恒例の厳島神社参拝。フライトシミュレータでバーチャル開催をしようと思ったら、15GBの大型パッチが降ってきました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

当日判明していたらかなり焦っていたことでしょう。

オンラインサービスではこのような突然の仕様変更は日常茶飯事です。仕様変更があったとしても基本は一緒ですから、事前確認をしっかりと行うこと、慌てずに変更点を確認してすばやく対処することが大切です。こんなところでもエンジニアとしてのスキルが試されますね。

イベント開催中のスタッフの役割

イベント開催中のスタッフの役割は、おもに休憩時間に行う講師交代の作業です。15分間の休憩時間の間に、次の講師を共同ホストに設定し、画面共有や音声のテストを行っておき、時間になったらセミナーを開始する。この一連の進行をホスト役のスタッフが行います。ちなみにセキュリティの関係上、画面共有はZoomの共同ホストに設定されている参加者のみ行えます。

また、ZoomからYouTube Liveへの連携が正常に行われているか、チャットで質問などが出ていないかのチェックを行うサポート役も必要ですので、1会場に最低2名のスタッフが必要になります(**写真2**)。セミナー終了時に時間が余っていたり、重要な質問が出ていたりしたら、参加者の代わりに質問を伝えるのもスタッフの大事な役目です。

また、トラブルが発生した際に対応するバックアップ役も含めると、3会場で常時8名から10名ぐらいのスタッフが運営に携わっています。ただ、セミナーが始まればあとは観ているだけですので、スタッフのシフトは聴講したいセミナーの会場に割り当てるように調整しています(**写真3**)。OSCではスタッフを随時募集しているので、ぜひ気軽にご応募ください。SD

▼写真2　毎回作成しているスタッフシフト表。今回は9名で協力して運営を行いました

丸一日ダメな方は記入不要です。
講師：講師として話している時間帯。後ろにどの会場かABCで記入
立会：講演に関係者として立ち合っている時間帯。後ろにどの会場かABCで記入
聴講：聴講したい時間帯。後ろにどの会場かABCで記入
ホスト：ホストとして入る時間帯。後ろにどの会場かABCで記入
○：大丈夫な時間帯で聴講未定
●：YouTube Liveをながらウォッチする程度なら大丈夫な時間帯
×：ダメな時間帯

ホストA　講師A　立会A　聴講A
ホストB　講師B　立会B　聴講B
ホストC　講師C　立会C　聴講C

9月19日(土)

	備考	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:15	16:15	17:10	交流会	懇親会
宮原	事前局やりつつ	○	聴講C	○	ホストA	講師Aホス	ホストA	聴講A	ホストB	聴講A	○	○
大杉		○	○	○	聴講A	●	○	講師A	立会A	立会A	○	○
中村	YouTubeLive管理等	○	○	○	ホストB	○	○	○	○	○	○	○
三谷		○	聴講B	ホストB	聴講C	ホストC	お昼	ホストA	ホストA	○	○	○
江藤		○	ホストB	●	立会B	ホストB	ホストB	聴講A	○	○	○	○
佐々木由広島		○	聴講B	○	●	聴講B	○	聴講A	聴講A	○	○	○
木下		○	ホストC	ホストC	ホストC	聴講B	ホストC	ホストB	○	○	○	○
横山	ホストでもなんでもサポーター	○	ホストA	ホストA	聴講A	聴講B	○	ホストC	ホストC	聴講A	○	○
丸市		○	聴講B	聴講C	●	○	聴講B	聴講B	聴講A	聴講A	○	講師A？

◀写真3　セミナーを聴きながらでも食事ができるので、お昼ご飯は手軽なものを。ご当地カレーを用意するのがマイブームです

Report　運動不足に注意

今年2月末からの在宅勤務が半年以上続いたので、OSC2020 Online/Hiroshima開催直前に激しい腰痛に見舞われてしまいました。自転車で通勤するなどして心がけていたものの、やはり日常的な運動不足が祟ったようです。腰痛持ち30年以上のベテラン(？)なのですが、脚までしびれがくる腰痛は初めてです。

ほとんど飲むことのない痛み止めの薬を服用し、なんとか当日のイベント運営を乗り切ることができましたが、せっかく用意していた広島の地酒は飲めずじまい(**写真A**、**写真B**)。腰痛は10日ほどでなんとか痛み止めを使わなくてもよくなりましたが、運動不足はしっかり解消しないといけないですね(1回だけ試してそっと箱にしまった『リングフィット アドベンチャー』、やらないとダメかな？)。

さて、長きにわたって全国を飲み歩いてきたこの連載ですが、飲み歩くことができなくなったのもあって第60回をもっていったんグラスを置く予定です。残り2回、お楽しみに。

▼写真A　懇親会のために用意しておいた広島特産レモンを使ったおつまみ。食べられず……

▼写真B　この時期はやっぱりひやおろし。後日開催したふりかえりでちゃんと飲みました

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹の

オープンソース放浪記

第59回　全国各地の企画が集まるOSCオンライン秋

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

2020年10月23日と24日の2日間、OSC（オープンソースカンファレンス）2020 Online/Fallを開催しました。例年であればOSC東京としての開催になるのですが、今年はオンラインであるメリットを活用して東京、関東近郊だけでなく、そのほかの地域にもお願いをして企画を持ち込んでもらいました。

まず筆者が参加したのは、OSC北海道でいつも開催されている、カレーカンファレンスというランチセッション[注1]。参加者各人がカレー（北海道にちなんだものでなくてもOK）を用意して食べるという企画です（**写真1**）。こういうスタイルのオンラインイベントは、今後ランチタイムを楽しく過ごすためにあってもよいのではないでしょうか。

四国の高専生が全国に向けて発信

もう1つ参加したのが、Google Developer Group Shikoku（GDG四国）の出張ライトニングトーク。その中でも「女子高専生の日常」というタイトルで、高専生のちかっしーさんがAndroid Studioでスマホアプリ開発をした際の経験を発表[注2]していたのが印象的でした（**図1**）。こうやって若手の人が積極的にどんどん登壇してくれるとうれしいですね。また、オンラインですから四国から出てこなくても全国各地のみなさんに話が届けられるというのも大きなメリットだと思います。

OSCオンライン会津で低レイヤを語り合う

「もっと低レイヤの話がしたい、OSC会津を復活させたい」という会津大学の学生さんからの熱い要望を受け、OSC2020 Online/Fallの翌日にOSCオンライン会津と銘打って半日間のLT大会が開かれました。

低レイヤ縛りですので、通常のOSCと異なりハードウェア関連の発表が多く、雰囲気の違いを楽しめました。個人的には『マリオカート ライブ ホームサーキット』を自動運転させる発表（**図2**）がおもしろかったので、電子工作をやりたくなりました。たまには畑違いの話を聞くのも刺激になります。

OSCはさまざまなテーマのアラカルト方式ですが、こうやって特定分野に絞ったカンファレンスも今後開催したいと思います（**写真2**）。

連載60回をふりかえる

さて、次回が最終回ということで、連載開始からの5年間を振り返ってみたいと思います。最後の最後で振り返りだと、きっと誌面が足りませんからね。

もともと、この連載がどうして始まったのかは定かではありませんが、全国で開催しているOSCの様子をレポートしていこう、という企画としてスタートしたと思います。開催

注1）https://www.youtube.com/watch?v=D3qPmUZUKQg

注2）https://www.youtube.com/watch?v=t6yvgRG9wrE&feature=youtu.be&t=864

▼写真1
各人が思い思いのカレーを食べます。OSC北海道の中では若手中心の企画で、実は筆者はこれが初参加です

▼図1　ちかっしーさんの通う香川高専の紹介。実は高松駅からかなり離れた場所にあるそうです

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

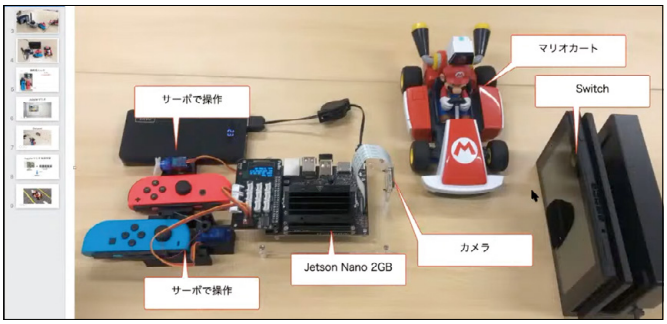
している地域はだいたい同じですので、2周、つまり2年間も続ければ終わりだろうと思っていましたが、なぜか打ち切られず5年間も続きました。そして、新型コロナウイルスの影響で放浪できなくなり、そろそろいったん終わりにしたほうがいいかな、と感じていたところに終了の提案があったので、キリよく5年間(全60回)で終わりにできました。

読者のみなさんに全国のコミュニティ活動の様子を伝えるため、イベントそのものより前夜祭や懇親会での飲みの様子が多かったように思います。数え切れませんが、たくさんの人の写真を誌面に掲載できたのは成果だったと思います。とくに学生さんは掲載されると喜んでもらえることも多く、イベント参加とセットで思い出になったのではないでしょうか。

現在のOSCはオンライン中心でのコミュニティ活動が主ですが、そのような形式が成立するのも、これまでさまざまな地域で行われてきた勉強会などによる人のつながりがあってこそだと思います。昨今の状況を考えると、以前と同じようにたくさんの人が集まれる状態に戻るのには時間がかかりそうですが、そのときは直接顔を合わせるとともに、遠隔地の人が講演、聴講なども行うようなハイブリッドなイベントのスタイルが当たり前になっているのではないかと思います。

そのような時期が来たら、また筆者が全国を放浪している様子をみなさんにお届けできればと思っています。SD

▼図2　マリオカートを自動運転させる試み。Jetson nanoで制御して、サーボモーターでコントローラーを直接操作するというしくみです



▼写真2
3日間連続でのOSCだったので、懇親会の飲み物も少し多めです。飲み物をあれこれ選ぶのもオンライン懇親会の楽しみの1つです

Report

運動不足解消のために自動車を購入

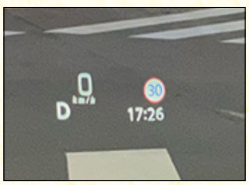
2020年2月末から在宅勤務に移行し、たまに電動アシスト自転車でオフィスに出社することはあっても、仕事の忙しさもあって引きこもり気味です。それが原因で腰痛になったことは前回(本誌2020年12月号)で触れましたが、そもそも外に出る機会を増やそうと思い、自動車を購入しました。

もともと2020年はアウトドアを始めようと思っていて、以前から購入予定でした。アウトドアで遊べて、サーバなどの機材を運ぶときにも使えるようにと、ワゴンタイプの車をいろいろ検討した結果、スズキ スペーシア ギアに落ち着きました(**写真A**)。

追加できるオプションはできるだけ追加しました。1つは全周囲モニターで、車庫入れのときなどに便利です。もう1つはHUD(ヘッドアップディスプレイ)で、フロントガラスに速度などを投影してくれます(**写真B**)。これがとくに優れもので、基本的に運転中は視点を動かす必要がありません。そのほか安全技術もあれこれ投入されていますが、デュアルカメラで状況判断、安全運転をアシストしてくれるとのこと。今後、ますます自動運転に近づいていくのだろうと感じさせてくれますね。

▼写真A
車体のカラーは「アクティブイエロー ガンメタリック2トーンルーフ」にしました。ピカチュウっぽいです

▼写真B
HUDはダッシュボードの四角い凹みからフロントガラスに投影されて、宙に浮いているように見えます



本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

宮原徹のオープンソース放浪記

最終回　5年間の放浪を振り返る

宮原 徹（みやはら とおる）　Twitter @tmiyahar　株式会社びぎねっと

みなさん、こんにちは。宮原徹です。足かけ5年にわたって全国を放浪してきたこの連載も、とうとう最終回です。放浪できなくなってしまったら終わるのは宿命ですが、最後くらいはやっぱり放浪しないとダメかなということで、前回（本誌2021年1月号）紹介した新車で京都と長崎に行ってきました。そのあたりはコラムで紹介するとして、最終回らしく5年間を振り返ってみます。

思い出はやはり飲み会ばかり

これまでオープンソースカンファレンス（OSC）を開催するために全国津々浦々（つつうらうら）を放浪してきましたが、やはり思い出に残っているのは飲み会ばかりですね（**写真1**）。前入りからの前夜祭、OSCが終わってからの懇親会、そして2次会。翌日はだいたい日曜日というのもあり、地元の酒蔵などを巡ってその土地のお酒を味わってきました。

OSCには毎回たくさんの方が参加してくれますが、残念ながらすべての人が懇親会まで参加してくれるわけではありません。もちろん家庭の事情、お酒が飲めない、飲み会の場が苦手、など理由はいろいろあるかと思いますが、やはり新しい人と知り合えるのは懇親会の場ということが多いので、悩ましいところです。現在のようにオンラインでのやりとりとなると、顔を合わせていてもなかなか親しくなれないだけに、フェイス・トゥ・フェイスの場が大事だなと痛感します。早くみなさんの出会いの場をプロデュースできるようになれればなと思います。

▼写真1
連載第1回（本誌2017年2月号）で紹介した、2009年の沖縄でのビーチパーティー。こんなイベントもまたやりたいですね

最多出演は坂井恵さん？

この連載で紹介した飲み会におそらく最多で出演したのは、本誌でMySQL関連の記事をよく執筆されている坂井恵さんでしょうか。初めての登場が第12回（本誌2017年2月号）で、OSC福岡の前夜祭で中洲の行きつけの屋台に行ったときです（**写真2**）。一緒に写っているのは本誌の風物詩である「Ejectコマンド工作」を書いているあっきぃさんですね。どうも、本誌で執筆している人が出演する傾向が強いようです。

▼写真2
坂井さん（右）、あっきぃさん（中央）と飲みに行った中洲の屋台。これを博多で書いてますが、また飲みに行きたい！

ほかにもたくさんの人が出演してくれました。とくに学生さんを掲載・紹介するととても喜んでもらえるので、復活の暁にはあらためて学生さんたちをどんどん掲載していければと思います。また、そのような学生さんたちをOSCに引率してきてくれる先生方には感謝しかありません。先生方には開催のための会場の貸出なども含め、多くの面でご協力いただきました。

近々はOSCがオンライン開催になったため、なかなか学生さんにまとめて参加してもらう機会もなくなってしまいました。最初はなんとなく来ていたような学生さんが帰り際には楽しそうしているのを見ると、いい気づきの場を提供できたとうれしく感じます。またそのような学生さんたちに会いたいですね。

情報をアウトプットする側に回ること

OSCは、たくさんの人を講師デビューさせてきたと思います。最初は5分間のライトニングトークから、

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021

いつの間にかブース展示をしたり、45分間のセミナーをしたりと本格的になっていくパターンもありました。また、コミュニティ活動も「OSCドリブン」で、開催スケジュールに合わせていろいろなアウトプットを出してくれる人もたくさんいました。いい機会だからと、全国でのOSC開催を一緒に行脚してくれる人もいました。そういう人たちとは毎度毎度、前夜祭で地元の飲み屋街に繰り出したり、2次会、3次会と飲み歩いたり、ホテルのロビーで延々と飲んでいたりしました。この連載も、私1人の放浪記ではなく、そういったみなさんと一緒にさすらった放浪記かもしれませんね(**写真3**)。

▼写真3
いくつになっても学びを教えてくれた、すがやみつる先生(写真は連載第32回、本誌2018年10月号のもの)。何度も登場してくれました

コミュニティの果たす役割をあらためて振り返る

コロナ禍によりさまざまなものが一気に変わりましたが、企業としてできることには自ずと限界もあったりします。私自身も会社を経営しているので痛感しますが、それでも自分の会社は小さいのでかなり思い切った手が打てています。しかし、大きい企業になるほど形式的な平等や、体のよいコストカットを理由にしてリストラまがいの施策が行われることも少なくありません。こんなときだからこそ、損得をあまり考えず、本質的な部分に取り組めるコミュニティの重要性を感じます。実際、OSCがオンラインに移行したあとも、運営を縁の下の力持ちとして支えてくれているのはこれまでの開催で培ってきた「OSCコミュニティ」です。OSCに限らず、さまざまなコミュニティがそのような役割を果たしているのではないでしょうか。

コミュニティは互助組織と言われますが、このような状況のときこそ、その真価が問われるのではないかと思います。ただ、あまり活発に動けていないコミュニティの様子を見ていると、「誰かの許可を得ないと動けない」と思っているような面があるように感じます。怒られないように許可を得てから動くのではなく、自分が「これが良い」と思ったらまず動いてみて、あとから修正していく。そんなコミュニティらしい活動の進め方が、今後の社会を支えていくのではないでしょうか。

今は我慢の時期ですが、また全国を放浪してそんなコミュニティのみなさんと美酒を酌み交わせることを楽しみにしています(**写真4**)。

「俺たちの放浪は始まったばかりだ！」宮原先生の次回作にご期待ください。SD

▼写真4
第46回(本誌2019年12月号)で掲載した、倉敷で撮った写真。またこんな様子をみなさんにお見せしたいですね

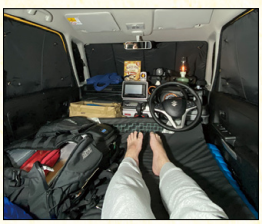
Report

連載の最後にリアル放浪してきました

連載最後はやっぱり放浪だろうということで、新車で長崎県南島原市まで行ってきました[注1]。1日めは半日を移動に費やし、京都に宿泊。飲みに繰り出すこともできませんから、鴨川近くで車中泊できる「RVパーク 京都南 鴨川RVサイト」にお邪魔してきました(**写真A**)。私以外誰もいない貸し切り状態です。車のシートをフラットにして、そこにエアマットとウレタンマットを敷いて寝床を作り、ビールを飲みながら最終回の原稿を書きました(**写真B**)。

▼写真A
コインパーキングですが、トイレ、シャワーなどを完備していて、車中泊完全対応です

▼写真B
フラットにした車内で最後の放浪記を執筆しました。朝方冷え込みましたが、意外と快適でした



注1) 長崎行きのレポートは私の個人ブログで公開しています。
https://tmiyahar.virtualtech.jp/entry/2020/12/18/184309

本PDFは『Software Design』に掲載された記事を再構成し、技術評論社の許諾を得て配布するものです。
許諾を得ていない、無断での複製・転載・配布など著作権法に違反する使用は固く禁じます。©株式会社技術評論社 2021